



Japan Foundation for  
Regional Art-Activities

# 平成29年度 公共ホール現代ダンス活性化事業 報告書

一般財団法人地域創造

## はじめに

---

一般財団法人地域創造では、地域における創造的で文化的な芸術活動のための環境づくりを目的として、地方公共団体等との緊密な連携の下に、人材育成、情報提供、調査研究、財政支援などの事業に取り組んでいます。

平成 17 年度から始まった「公共ホール現代ダンス活性化事業」は、公共ホールの利活用や地域の活性化を図ることを目的として実施するもので、全国公募で選ばれたコンテンポラリーダンスのアーティストを地域の公共ホールに派遣し、ホールとの共同企画により地域交流プログラム（学校等でのアウトリーチ及び公募のワークショップ）や公演を実施するものです。平成 29 年度から事業を 3 つのプログラム（A プログラム（地域交流プログラム）、B プログラム（市民参加作品創作プログラム）、C プログラム（公演プログラム））に分け、実施するホールが今後のダンス事業のビジョンに基づいてプログラムを選択し、翌年度以降他のプログラムを継続的に実施することが可能になりました。

この事業は、コーディネーター（コンテンポラリーダンスの公演や地域交流プログラムの企画に詳しい専門家）による企画から実施までの支援、全体研修会の開催など、充実したサポート体制のもとに、安心してこの事業に取り組むことができる仕組みづくりを行っており、この事業をとおして公共ホールのスタッフの企画制作能力を高める機会としていただくことも狙いの一つとしています。

この報告書は、実施された全国 13 か所（A プログラム 4 か所、B プログラム 7 か所、C プログラム 2 か所）の各地での取り組みを取りまとめたものです。この中には、実施団体からの報告や担当コーディネーターのレポートを掲載し、事業に関係して気付いた点や企画制作のノウハウや事業を実施する過程において生じた様々な課題や問題点などをケーススタディとして記録するように努めています。

コンテンポラリーダンスがアーティストの数だけダンスがあると言われるように、この事業も地域の実情の違いなどから、事業を実施したホールによって事業へのアプローチが全く異なるなど、地域の数だけモデルがある事業だと言えます。

この報告書が、地域の公共ホールで自主事業を担当されている方の参考となり、一人でも多くの方にコンテンポラリーダンスの魅力をお伝えすることができれば幸いです。

終わりに、この事業を主体的、積極的に取り組んでいただいた実施団体、事業の実施にあたりサポートいただいたコーディネーター、事業の趣旨にご賛同いただき派遣をご快諾いただいたアーティスト、その他多くの関係者の皆さま方のご協力により、事業を終了することができましたことに対して、この場をお借りして厚くお礼申しあげます。

## 目次

---

### 事業概要

平成 29 年度公共ホール現代ダンス活性化事業開催概要	2
平成 29 年度公共ホール現代ダンス活性化事業全体研修会概要	5
事業の流れ	7

### 実施内容紹介(実施日程順)・コーディネーターレポート

#### 【A プログラム】

徳島県郷土文化会館 あわぎんホール (徳島県)	10
川根本町文化会館 (静岡県川根本町)	16
入間市産業文化センター (埼玉県入間市)	22
宮崎市民プラザ (宮崎県宮崎市)	28

#### 【B プログラム】

サントミュージゼ 上田市交流文化芸術センター (長野県上田市)	36
土佐清水市立市民文化会館 くろしおホール (高知県土佐清水市)	44
酒田市民会館 希望ホール (山形県酒田市)	52
北九州芸術劇場 (福岡県北九州市)	60
西宮市フレンテホール (兵庫県西宮市)	68
豊岡市民プラザ (兵庫県豊岡市)	76
甲斐市双葉ふれあい文化館 (山梨県甲斐市)	84

#### 【C プログラム】

穂の国とよはし芸術劇場 (愛知県豊橋市)	94
くにたち市民芸術小ホール (東京都国立市)	100
ダン活プログラムの可能性～サブコーディネーターの現場から	106

### 事業資料

公募ワークショップチラシ／公演パンフレット	110
平成 29 年度公共ホール現代ダンス活性化事業実施要綱	122
コーディネータープロフィール	128

# 事業概要

## 平成 29 年度公共ホール現代ダンス活性化事業開催概要

### 1 趣 旨

一般財団法人地域創造（以下「地域創造」という。）は、公共ホールの活性化とコンテンポラリーダンスによる創造的で文化的な芸術活動のための環境づくりに寄与し、あわせて公共ホールスタッフ等の企画・制作能力の向上と創造性豊かな地域づくりに資することを目的として、地方公共団体等との共催により、公共ホールを拠点としてコンテンポラリーダンスの公演事業又は地域交流プログラムを実施する。

### 2 実施内容

#### (1) 実施団体（都道府県順）

市町村名	実施団体名	主会場（実施ホール名）
<b>【A プログラム(地域交流プログラム)】</b>		
埼玉県入間市	(公財) 入間市振興公社	入間市産業文化センター
静岡県川根本町	川根本町	川根本町文化会館
徳島県	(公財) 徳島県文化振興財団	徳島県郷土文化会館 あわぎんホール
宮崎県宮崎市	(公財) 宮崎文化振興協会	宮崎市民プラザ
<b>【B プログラム(市民参加作品創作プログラム)】</b>		
山形県酒田市	酒田市	酒田市民会館 希望ホール
山梨県甲斐市	(公財) やまなし文化学習協会	甲斐市双葉ふれあい文化館
長野県上田市	上田市	サントミュージゼ 上田市交流文化芸術センター
兵庫県西宮市	(公財) 西宮市文化振興財団	西宮市フレンテホール
兵庫県豊岡市	NPO 法人コミュニティアートセンタープラッツ	豊岡市民プラザ
高知県土佐清水市	土佐清水商工会議所	土佐清水市立市民文化会館 くろしおホール
福岡県北九州市	(公財) 北九州市芸術文化振興財団	北九州芸術劇場
<b>【C プログラム(公演プログラム)】</b>		
東京都国立市	(公財) くにたち文化・スポーツ振興財団	くにたち市民芸術小ホール
愛知県豊橋市	(公財) 豊橋文化振興財団	穂の国とよはし芸術劇場

\*対象は地方公共団体、公益法人、指定管理者

#### (2) 開催時期

平成 29 年 5 月～平成 30 年 2 月

#### (3) 事業内容

登録アーティストを地域に派遣し、地域の公共ホールと共催で以下のいずれかのプログラムを実施。実施するプログラムは、今後のダンス事業を実施するためのビジョンに基づいて選択し実施。

##### ① A プログラム（地域交流プログラム）

学校や福祉施設等でのアウトリーチ及び公募によるワークショップ（4～5回）

- 
- \*アウトリーチ（3回以上）
  - \*公募のワークショップ（1回以上）
  - ②Bプログラム（市民参加作品創作プログラム）  
市民参加で創作した作品の有料公演（1回）及び公募によるワークショップ（1回）
  - ③Cプログラム（公演プログラム）  
登録アーティストのレパートリー作品の有料公演（1回）及び公募によるワークショップ（1回）
- (4) 研修会
- ①全体研修会  
日 時：平成28年8月1日(月)～3日(水)  
場 所：東京芸術劇場 \*地域創造フェスティバル2016と同時開催  
内 容：事業の実施に必要な基礎的な考え方、企画・制作の進め方等についてのノウハウの提供及び登録アーティストによるプレゼンテーション
  - ②現地見（個別研修）  
事業の実施に必要な打合せ及び実施会場の下見等を行うため、登録アーティスト及びコーディネーター等を現地に事前に派遣
- (5) 費用負担
- 地域創造と実施団体が負担する主な経費区分
- 1) 地域創造が負担する経費
    - ①登録アーティスト等派遣経費  
派遣対象者の出演料等、現地移動費を除く交通費、宿泊費、日当、損害保険料  
※派遣対象者
      - Aプログラム  
登録アーティスト、アシスタント（ソロの場合1名）
      - Bプログラム  
登録アーティスト、クリエーションのためのアシスタント（共演者）（ソロの場合2名まで、デュオの場合1名）、テクニカルスタッフ等（公演準備のサポート役として必要と判断されるスタッフ1名）
      - Cプログラム  
登録アーティスト、共演者（ソロの場合2名まで、デュオの場合1名）、テクニカルスタッフ等（公演準備のサポート役として必要と判断されるスタッフ1名）
    - ②公演負担金（Bプログラム及びCプログラム）  
実施団体が支出した事業実施に係る経費のうち、対象経費の2/3以内で50万円を上限に実施団体に対して負担
  - 2) 開催地の地方公共団体等が負担する主な経費（実施するプログラムで異なる）  
上記1)以外の現地移動費、会場使用料、舞台製作費（舞台・音響・照明などに係る経費）、広報宣伝費など諸経費
- (6) 事業実施に対する支援
- ①全体研修会の開催
  - ②コーディネーターの派遣
- (7) 主催・共催等
- 主催：開催地の地方公共団体等      共催：一般財団法人地域創造

### 3 平成 29 年度コーディネーター

佐東 範一 (NPO 法人 Japan Contemporary Dance Network 代表)

志賀 玲子 (プロデューサー)

菊丸喜美子 (プロデューサー)

花光 潤子 (NPO 法人魁文舎代表)

平岡 久美 (Dance in Deed !代表)

清水 幸代 (LANDSCAPE 代表)

\*大澤 苑美 (八戸市まちづくり文化推進室 主事兼学芸員)

\*小岩秀太郎 (東京鹿踊代表/縦糸横糸合同会社代表)

\*神前 沙織 (NPO 法人 Japan Contemporary Dance Network 教育・福祉・地域交流プログラム チーフ・コーディネーター)

\*坂田 雄平 (アーツコーディネーター・プロデューサー)

\*中富 勝裕 ((公財) 横浜市芸術文化振興財団 横浜赤レンガ倉庫 1 号館 プロデューサー)

\*中西 麻友 (NPO 法人芸術家と子どもたち コーディネーター)

\*宮久保真紀 (Dance New Air チーフプロデューサー)

\*各地域ではサブコーディネーター

### 4 平成 29 年度登録アーティスト(五十音順、ソロ・デュオ順)



©Teppei Hori

学校や養護施設でのワークショップや、障害のある人も含めたダンスカンパニーでの創作活動なども行い、丁寧に身体を意識し、自分のダンスを楽しむきっかけを提案している。

#### ●鈴木ユキオ

世界 40 都市を超える地域で活動を展開し、しなやかで繊細に、且つ空間からはみだすような強靱な身体・ダンスは、多くの観客を魅了している。2008 年に「トヨタコレオグラフィアワード」にて「次代を担う振付家賞(グランプリ)」を受賞。2012 年フランス・パリ市立劇場「Danse Elargie」では 10 組のファイナリストに選ばれた。また、国内外の



©松本和幸

定評があり、国内外で精力的に活動中。横浜ダンスコレクション R2009 にて「未来に羽ばたく横浜賞」「マスダンザ賞」をダブル受賞。

#### ●田畑真希

タバマ企画主宰。3 歳からクラシックバレエを始める。高校生の頃、トゥシューズを履いて踊ることに疑問を感じ、さらなる表現を迫るため桐朋学園短期大学演劇科に入学。演技、日舞、狂言、アクロバット等様々な表現を学ぶ。紆余曲折を経て再びダンスの世界へ。2007 年より振付家としての活動を始める。滑稽なまでに紡ぐ作風には



ナジの舞台など客演も多数。舞踏の特性を活かしたワークショップやインリーチは、各分野のアーティストのみならず、子供から高齢者まで幅広く好評を得ている。第 34 回舞踊批評家協会新人賞受賞。

#### ●田村一行

1998 年大駱駝艦に入艦。舞踏家・俳優である歴赤兎に師事。2002 年より自らの振付・演出作品の創作を開始。緻密な振付で構成する作品は、新たな舞踏の可能性を示し注目されている。2008 年文化庁新進芸術家海外留学制度によりフランスへ留学。小野寺修二、宮本亜門、白井晃、渡辺えり、笠井勲、ジョセフ・



©bozzo

#### ●東野祥子

ANTIBODIES Collective 振付家・ダンサー。10 歳からダンスをはじめ。2000～2014 年「Dance Company BABY-Q」を主宰。国内外の劇場やフェスティバルにて舞台作品を数々発表。ミュージシャンと即興セッションを多方面で展開する。トヨタコレオグラフィアワード、横浜ソロ×デュオ《Competition》+などで大賞を受賞。2015 年、京都に活動拠点を移し、「ANTIBODIES Collective」を音楽家のカジワラトシオと結成。多ジャンルのアーティストとともに大掛かりな舞台作品制作やパフォーマンス、インスタレーションなど全国並びに海外にて他教実践している。またダンサー育成の WS や学校へのアウトリーチなども精力的に展開し、地域の活性化に根ざした活動を実践している。



©Tadashi

人と関わるパフォーマンスを実施中。愛媛大学非常勤講師。えひめ国体・えひめ大会総合開会式式典演技(出演人数 2000 人)演技振付・振付指導

#### ●赤丸急上昇[赤松美智代十丸山陽子]

「笑いは力」そう信じる二人が醸し出す、全人大笑い空間。楽しさは永遠の癒し、感動が子どもを育てる、感動が大人を自由にする、赤丸急上昇のダンスの世界は、お面の不思議なダンス、その先にほろりと涙の感動体験。これまでに国内外 30 都市以上で作品を上演、毎回常に新しい演出やプログラムを行い、人



©平野愛

#### ●セレノグラフィカ[隅地菜歩+阿比留修一]

関西を拠点に国内外、屋内外を問わず幅広く活動を展開する男女二人組のダンスカンパニー。多様な解釈を誘発する不思議で愉快な作風と、緻密な身体操作から繰り出されるダンスで多くの観客を魅了している。2005 年に隅地が TOYOTA CHOREOGRAPHY AWARD「次代を担う振付家賞(グランプリ)」を受賞。公演・WS・セミナーなど、ダンスと旺盛に関わり、全国各地を駆け巡りながら「身体と心に届くダンス」を伝える日々を送る。400 を超える教育機関へのアウトリーチも行い、あびちゃん・まほさんとして人気。

## 平成 29 年度公共ホール現代ダンス活性化事業全体研修会概要

### 1 期 日

平成 28 年 8 月 1 日(月)～3 日(水)

\*地域創造フェスティバル 2016 と同時開催

### 2 会 場

東京芸術劇場

### 3 目 的

- ・事業の趣旨・役割を理解する。
- ・コンテンポラリーダンスのワークショップを体験し理解を深める。
- ・ダン活の企画づくりをするために必要な基礎知識を習得する。
- ・ディスカッション等を通じ、それぞれのホールがダン活を実施する際のミッションを明確にする。
- ・登録アーティストによるプレゼンテーションなどを通して出演アーティストの情報を得る。
- ・事前にホール内で考えた企画原案をもとに、コーディネーターと相談しながら企画を具体化する。

### 4 プログラム内容

8 月 1 日(月)

時間	会場：シンフォニースペース
14:00～14:15	開講式・オリエンテーション
着替え・休憩	
14:30～15:30	セッション①「ワークショップ」 講 師：アーティスト 岩淵多喜子、増田明日未（アシスタント）
着替え・休憩	
15:50～16:35	セッション②「ダン活で取り組みたいこと」 講 師：コーディネーター 佐東範一（進行）、志賀玲子、菊丸喜美子、花光潤子
休 憩	
16:45～19:00	セッション③「ダン活事業概要、アウトリーチ&ダンス制作の留意事項」 講 師：アウトリーチ/堤康彦（NPO 法人芸術家と子どもたち代表） コーディネーター 佐東範一（進行）、志賀玲子（ダンス制作）、菊丸喜美子、花光潤子

8月2日(火)

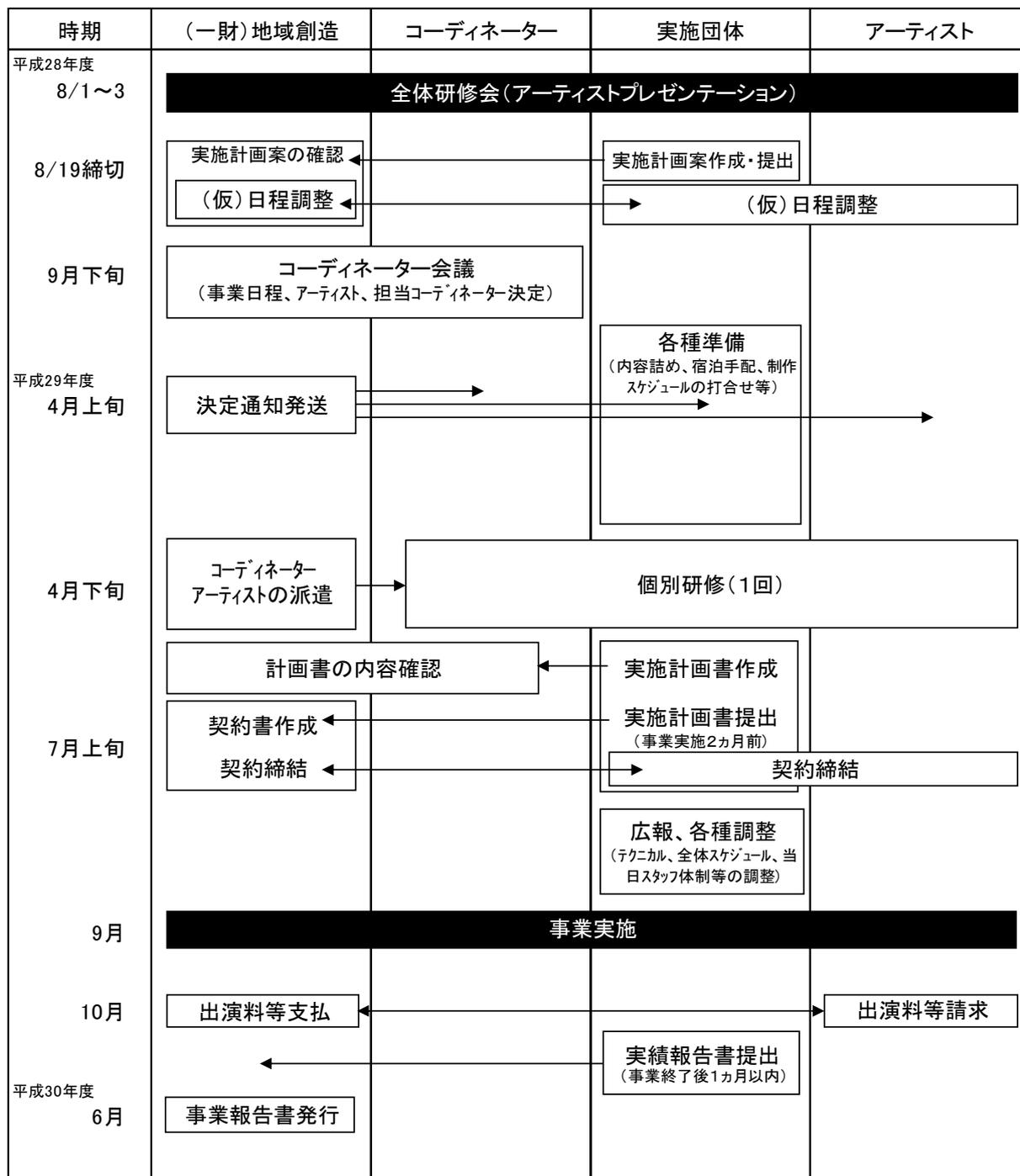
時間	会場：ミーティングルーム7、シアターイースト・ウエスト
10:30～11:30	セッション④「ディスカッション」【Aプログラム実施団体のみ】 講師：コーディネーター 佐東範一（進行）、志賀玲子、菊丸喜美子、花光潤子
昼休憩・着替え	
12:30～12:45	プレゼンテーションの前に
休憩	
13:00～14:15	セッション⑤「アーティストプレゼンテーション」* (登録アーティスト3組4名)
休憩	
14:25～15:40	セッション⑤「アーティストプレゼンテーション」* (登録アーティスト3組4名)
着替え・休憩	
16:00～17:30	セッション⑥「フィードバック」 実施団体担当者、登録アーティスト、コーディネーター
移動	
17:45～19:15	交流会（情報交換会）

8月3日(水)

時間	会場：ミーティングルーム7、シアターイースト
10:30～12:00	セッション⑦「ダン活のススメ」* 講師：コーディネーター 佐東範一（進行）、花光潤子 事例紹介ホール担当者 小松千佳・佐藤みどり（酒田市民会館 希望ホール） 三浦康晃（なかまハーモニーホール）
休憩	
13:00～14:30	セッション⑧「フィードバック～研修会を振り返って」 講師：コーディネーター 佐東範一（進行）、志賀玲子、菊丸喜美子、花光潤子
14:30～14:45	事務連絡・閉講式

\*のセッションは、地域創造フェスティバル2016のプログラムとして公開

# 事業の流れ(9月実施のケース)



# 実 施 内 容 紹 介

## (実施日程順)

コーディネーターレポート

# A プログラム

(地域交流プログラム)

実施団体	公益財団法人徳島県文化振興財団
実施ホール	徳島県郷土文化会館 あわぎんホール
実施期間	平成 29 年 9 月 15 日(金)～9 月 18 日(月)
アーティスト等	アーティスト:セレノグラフィカ      アシスタント:—
コーディネーター	花光潤子
<p>■アウトリーチ(実施日時、学校名等、対象、参加人数、会場)</p> <p>① 9月15日(金) 19:00～20:00、たちばな学苑、小学3年生～高校3年生、17名、食堂</p> <p>② 9月16日(土) 14:00～15:30、阿波国慈恵院、幼稚園～中学3年生、15名、多目的室</p> <p>③ 9月17日(日) 10:00～11:00、たちばな学苑、小学3年生～高校3年生、15名、食堂</p> <p>④ 9月17日(日) 14:00～15:30、阿波国慈恵院、幼稚園～中学3年生、17名、多目的室</p> <p>■公募型ワークショップ(実施日時、対象、参加料、参加人数、会場)</p> <p>① 9月18日(月・祝) 10:00～12:30、どなたでも、300円、30名、小ホール</p>	

## スケジュール

	下見	
	6/22(木)	6/23(金)
9:00		
10:00	徳島着	打合せ (スカイプ)
11:00		↓
12:00		
13:00	打合せ	
14:00	↓	人形浄瑠璃 鑑賞
15:00	阿波国慈恵院 下見	
16:00		終了
17:00	たちばな学苑 下見	
18:00		
19:00	交流会	
20:00		
21:00		
22:00		

	実施期間			
	9/15(金)	9/16(土)	9/17(日)	9/18(月)
		農村舞台下見 (神山町)	たちばな学苑 アウトリーチ②	公募WS
		↓		↓
				フィードバック
				↓
		阿波国慈恵院 アウトリーチ①	阿波国慈恵院 アウトリーチ②	
	徳島着	↓	↓	移動
	打合せ			
		打合せ		
		リハーサル	打ち合わせ	
	たちばな学苑 アウトリーチ①	↓	リハーサル	
		交流会	↓	

### アウトリーチ

当館では、この事業を通して2箇所の児童養護施設の子ども達に対してアウトリーチを実施した。今回実施した2施設の共通する特徴としては、感情を持て余しており、興味がなければ必要以上にそっぽを向いてしまうなど素直に自己を表現できない点や、親からの愛情を十分に受けてこなかった分、依存性が強い点などが挙げられ、コミュニケーションツールとしてコンテンポラリーダンスが適しているのではないかと考えた。加えて実演芸術に触れる機会が一般家庭の子ども達と比べて少ないという現状からアウトリーチ先として選定した。

#### ① たちばな学苑

今回の参加者は小3～高3まで。ダンス（リズムダンス系）が好きという子もいたが、他の視線が気になり発表できない内弁慶が多く、施設側としては、今回のことで子どもの意外な一面を引き出し、今後生きていく力をつけることができればとの希望で実施。当初、アウトリーチにより、子ども達のゲームの時間が削られ、半ば強制招集させられたこともあり、不機嫌な子が多かったが、初めのデモンストレーションの時点で完全に子ども達を惹きつけ、終わるころには、自分達のダンスを見て欲しいと進んで発表する子が見受けられるほどであった。

#### ② 阿波国慈恵院

今回の参加者は幼稚園～中3まで。自分の気持ちを表現するのが下手で心にもない行動にでる（教えてほしいのに、「やりたくない」といったり）叱って治すのではなく受け止めてほしいとの要望があった。セレノグラフィカさんは、良く理解してくれていて、欠点ではなく特徴として捉えて万事進行していた。2日の実施のうち1日目は比較的小さい子が多かったが、2日目の実施では評判を聞きつけた中学生達が参加したり、施設にとっても大満足の結果であったようだ。

## 公募型ワークショップ

### 【コンテンポ太夫】

公募ワークショップにおいては、このダン活での取り組みが地域に定着するように、徳島の誇るあわ文化のひとつ人形浄瑠璃の“義太夫”を音楽として取り入れた。決まった型を持たず自分の感情を身体で表現できる「コンテンポラリーダンス」と喜怒哀楽を込めた語りで最も感情がストレートに表現できる「義太夫」とが合わさった時、どのような科学反応が起こるかを探った。

ダンスと義太夫のデモンストレーションの後、前半部分ではダンスのワークショップ。会場を広く動き回って空間の把握、人の身体に触れて止まるなどを、要所で時間を区切りテンポを上げ、参加者は恥ずかしがる暇もないまま強制的に打ち解けていたようであった。

後半部分には義太夫のワークショップ。笑いをテーマにし、「は・ひ・ふ・へ・ほ」のそれぞれ一字ずつのグループに分かれ声を出して笑う事をした。同じ笑いでも受ける印象が変わることを確認していた。

最後は、三味線のリズムにのせて笑いを表現しながら動くことをして、セレノグラフィカさんと義太夫奏者鶴澤友輔さんとのコラボ「壺坂観音霊験記」を鑑賞して終了となった。

この日、集まったのは4歳から67歳までの30名。高校のダンス部やバレエ教室の生徒、ミュージカル俳優を目指している子などさらなる表現の幅を広げたいという層に加えて、地元の人形浄瑠璃関係の方など幅広い人が集まってくれた。最後のフィードバックでは、三味線の音で踊ることに違和感を感じなかったという意見も上がり、来年度以降、さらなる広がりを期待できる成果であったと思う。



## プログラム詳細

### 9月18日(月) 公募ワークショップ「コンテンポ太夫」

#### ●身体を動かしウォーミングアップ

まずは、ウォーミングアップで円になってお互いの名前を読み上げながら身振り手振りで自己紹介。身体をほぐした後、空間を見つけて人とぶつからないように動く。徐々にロープで空間を狭めていき、気付けばほとんど動けなくなる距離まで。

#### ●声を出して義太夫体験

身体を動かし、空間の把握をした後は義太夫のワークショップ。基本的な動作や声の出し方を練習した後は、義太夫の中でも最も難しいと言われる「笑い」に挑戦。「は・ひ・ふ・へ・ほ」それぞれの音で笑ってみる。高笑いだったり、嫌みな笑いだったり表情や笑い方を使い分けて笑うのがポイント。

#### ●声と身体でコンテンポ太夫

空間で動くことと、声を出して笑うことを体験した後は、笑いながら踊ってみる。笑いながら“出会って”ぶつからないように“すれ違って”笑いながら“通り過ぎていく”なんとも異様な光景。「は・ひ・ふ・へ・ほ」それぞれのグループに分かれて動く。右の写真は『は家』と『ほ家』の出会い。

#### ●デモンストレーション「コンテンポ太夫」

最後にセレノグラフィカさんと義太夫鶴澤友輔さんのコラボを披露。人形浄瑠璃の演目のひとつ「壺坂観音霊験記」の1部分を抜き出して踊る。語りと三味線にのせた初めてのコラボを参加者だけに披露。

#### ●フィードバック

コンテンポ太夫を通して感じた事を事前に配った紙に匿名で感想を書く。その紙を回収し、ランダムに配り直す。人の感想を読み上げることで、より記憶と印象に残り言葉も整理されていく。普段聴く音楽ではなく伝統芸能の三味線の音で踊ることに違和感はなく自然に踊れたという感想があがった。日本人の体に本来染みこんでいるリズムに呼応したのかもしれない。



### ●この事業への応募動機

現在の当館では、特定の関心のある方の利用が大半であり、公立文化施設としての役割を十分に活かしきれていない現状があった。そのような現状を打開するべく、コンテンポラリーダンスを含む実演芸術の派遣を、補助金等を活用しながら質・量ともに充実を図っているが、今劇場に求められている役割のひとつである「社会包摂機能」を活かしているとは言いがたい。そこで、当該事業に申し込むことにより、ダンス事業の企画・制作のノウハウを学ぶことは当然のことながら、ワークショップ・アウトリーチ活動におけるノウハウを活かし、様々な障がいの有無に関わらず集まれるような劇場作りを行うべく応募した。

### ●事業のねらいと企画のポイント

ダンス事業を通して障がいや年齢、性別の有無に関わらず集まれる場所を作ることと、徳島の「あわ文化」を活用することで、この取り組みが一過性のもので終わらないように企画を進めた。今回のAプログラムでは、児童養護施設でアウトリーチを実施し、ダンスを通してコミュニケーション能力の向上や社会参加のきっかけ作りを行った。さらに公募ワークショップでは、あわ文化である「義太夫」を活用することで地域への定着を図った。また公募ワークショップの募集対象も年齢で絞らず誰でも参加出来るようにしたのも、来年度の県民参加型公演を見越し、誰でも参加出来る環境作りを整えたためである。

### ●企画実施にあたり苦労した点

まず、何と言ってもアウトリーチの受け入れ先を探すことに苦労した。児童養護施設以外にも、障がい者施設や長期入院患者のいる病院などにも事業説明を行ったが、難解なものというイメージが先立っており、なまじ知識がある人の方が敬遠したように思う。実際にセレノグラフィカさんのアウトリーチが終わった後の先生の感想で「正直舐めてました！こんなに素晴らしいとは思わなかった」と率直な意見がでた。

### ●事業の成果と課題

アウトリーチにおいて、児童養護施設に行ったことはやはり良かったと思う。感情を持ってあましていたり、上手く表現できないという子ども達に対してセレノグラフィカさんのアウトリーチはとても効果的であった。また、公募ワークショップにおいても次年度に繋がる成果が得られたと思う。ダンスと義太夫という取り組みが、少ない人数ながらも目撃してもらうことができた。来年度の広報材料として使用し、より裾野の拡大に努めたい。

課題としてあげられるのは、事業の進め方にあったと思う。今回はセレノグラフィカさんやコーディネーターの花光さん、地域創造のスタッフの皆さん、さらに地元の心強い協力者がいてどうにか成立していたが、当館としては組織全体として取り組めていなかった部分がある。担当間だけで処理してしまっていたりしているので、私自身、早い段階から相談・報告をし、一丸となって取り組めるように注意していきたい。

### ●今後の事業展開や展望

1年目のAプログラムで上がった成果をもとに2年目以降に繋げていきたい。「あわ文化」の点では、ダンスと義太夫の流れを継承していき、可能であれば徳島の文化遺産でもある農村舞台を活用し、過疎化地域の活性化や劇場以外の場所にも目を向けていきたいと考えている。

**●この地域のダン活の特徴**

Aプログラムのアウトリーチは、社会包摂をテーマに県内の児童養護施設を2件訪れた。児童養護施設では、幼稚園児から18歳までの青少年が貧困や虐待などさまざまな事情から親元を離れて集団生活している。施設には心に傷を持つ子や気持ちを素直に表せずわざと乱暴に接してしまう子などがいると、下見の打ち合わせで先生たちから聞かされていた。先生たちが児童の成長に細やかに心を配り親代わりの愛情を注いでいることが、その話しぶりで良くわかった。そんな中で行われたセレノグラフィカのアウトリーチだったが、現場の空気から一人一人へのきめの細かいコミュニケーションと楽しい雰囲気作りが必要と判断し、急遽私たちも皆の輪に加わった。セレノの巧みな進行に誘導され、最初ふてくされたように傍観していた中学生の男子も途中から参戦、又ある子は最後まで加わらなかったけれどその場を立ち去ることはせず、明らかに表情が柔らかくなっていた。ワークショップは百戦錬磨のセレノグラフィカにとっても、彼らの懐の中にどの程度入っていけるか、学校でのアウトリーチに比べ数段難しく緊張したに違いない。けれど互いの身体に触れ身を任せたり、心を開いて笑い合う中で、子どもたちが一番必要としているだろう信頼の感覚が、空気のように自然に皆を繋いで行った。笑顔と笑い声が会場を満たし、生き生きとした子どもたちの変わりようは涙の出る程感動的だった。こうした光景を目のあたりにすると、このような処でこそダンスワークショップは必要だし又有効であるという事を痛感させられた。当初ワークショップに半信半疑だった先生たちからも、驚きと喜びの感想が寄せられた。

公募ワークショップは、次年度Bプログラムへの継続を目指して、ダンスと義太夫をテーマに「コンテンポラ太夫」と名付けたワークショップを行った。あわ文化の義太夫とコンテンポラリーダンスがどう融合するか、そこからどのような新しい可能性が生まれるか、期待に満ちたチャレンジの最初の一歩だった。淡路人形座を観劇したり、地域に残る農村舞台の視察にも出かけた。徳島の重要な伝統文化財であり人々に親しまれている阿波人形浄瑠璃の義太夫と、全く異質と思われるコンテンポラリーダンス。どちらか片方に従属するのではなく、対等なパートナーとしてどのようなコラボレーションができるか、義太夫の鶴澤友輔氏とアドバイザーに地元の民俗芸能とダンスの両方に見識のある檜ちひろ氏を迎えて議論を重ね、実験を兼ねた実践ワークショップとなった。ワークショップには表現の幅を広げたいと言う高校のダンス部員と檜氏のダンススタジオの生徒を中心に30名が参加し、義太夫との新鮮な出会いを体感した。

**●課題とこれからに向けて**

あわぎんホールでは児童養護施設のほかに障害者施設に声をかけたが、口頭の説明だけでは理解を得るに至らなかったようだ。しかし、百聞は一見にしかず。これまでのダン活の記録映像を観てもらえれば実際の空気を感じてもらえると思う。ダン活のアウトリーチでは児童養護施設の実例はまだまだ少ないが、是非推進して欲しいと強く思った。

また、地域の資源をダンスとのコラボの中で発展させていこうとする企画意図は非常に感心する。ただ文化財は人々の郷土愛で長年育まれてきた歴史を持つものであり、安易なコラボに陥らないよう担当者は企画プロデューサーとして、対象への見識と勉強が必要であることを念頭に置いて臨んで欲しいと思う。今回の企画を継続発展させたあかつきには、豊かな自然に囲まれた農村舞台での上演が期待される。是非観劇に行きたいものだ。

# 川根本町文化会館 実施データ

A プログラム

実施団体	川根本町
実施ホール	川根本町文化会館
実施期間	平成 29 年 10 月 11 日(水)～10 月 14 日(土)
アーティスト等	アーティスト:東野祥子                      アシスタント:吉川千恵
コーディネーター	志賀玲子
<p>■アウトリーチ(実施日時、学校名等、対象、参加人数、会場)</p> <p>① 10月12日(木) 10:00～11:30、川根本町障がい者支援センター、通所者、22名、福祉センター多機能室</p> <p>② 10月12日(木) 16:00～17:30、静岡県立川根高等学校、郷土芸能部(1・2年生)、18名、体育館</p> <p>③ 10月13日(金) 9:30～11:00、川根本町、行政職員(入庁3年以内)、9名、山村開発センター体育館</p> <p>④ 10月14日(土) 8:30～12:00、川根本町、教職員、7名、川根本町文化会館ホール</p> <p>■公募型ワークショップ(実施日時、対象、参加料、参加人数、会場)</p> <p>① 10月13日(金) 19:00～21:00、一般(高校生以上)、無料、12名、ホール</p>	

## スケジュール

	下見		実施期間			
	8/29(火)	8/30(水)	10/11(水)	10/12(木)	10/13(金)	10/14(土)
9:00		福祉センター 打合せ		準備	行政職員 アウトリーチ	教職員 アウトリーチ
10:00		文化会館下見		障がい者支援センター アウトリーチ	↓	↓
11:00		町内視察		↓	移動	↓
12:00	移動	昼食	移動	昼食	昼食	交流会
13:00		教育委員会 打合せ	打合せ	町内視察	町内視察	↓
14:00	川根高校 打合せ	行政(総務課) 打合せ	町内視察	↓	↓	振り返り
15:00	町内視察	事業全体 打合せ	↓	準備	↓	移動
16:00	↓	移動	↓	川根高校 アウトリーチ		
17:00	↓		↓	↓		
18:00	交流会		交流会	移動	準備	
19:00			↓	交流会	公募 WS	
20:00				↓	↓	
21:00						
22:00						

アウトリーチ

【アウトリーチ先の選定】アウトリーチ先（対象）として選定したのは、①県立川根高校の生徒、②町役場行政職員、③町立小中学校教職員、④障がい者支援センター通所者の 4 つ。本館はこれまでも町内すべての小中学校を始め各所でダンスワークショップを実施してきた。本事業においては「普段、アート・ダンスに触れにくい（文化会館から遠い）存在」、「文化事業を展開するうえで欠かすことができないよりピンポイントな存在」を対象に事業を実施した。

【取組み内容】

①川根高校については学級単位など授業としての実施は不可能ということで郷土芸能部（文化部）の部活動として実施したが、その様子を見ていたカヌー部顧問から次回から運動部でもやってほしいと要望があった。②行政職員対象は役場総務課へ掛け合い、入庁 3 年目までの職員研修として位置づけてもらい、③教職員対象については教育委員会と協議し各校 1 名以上参加必須の教職員研修として実施した。④障がい者支援センターについては「プログラム詳細」を参照。

【参加者の様子・反応】

参加者のほとんどがコンテンポラリーダンス初体験であり、開始直後は緊張していたが体を動かすうちに笑顔に変わり楽しんでいった。①高校生からは「ダンスを準備体操として取り入れたい」という声も聞かれ、太鼓演奏の部活動に生かそうと東野さんから身体の使い方・見せ方についても積極的なアドバイスを受けていた。②行政職員からは「ちょっとした動きがダンスになることに気付いた」「始めは恥ずかしかったが慣れると新しい自分が開花した感じがした」「職員同士の交流ができた」、③教職員からは「学校の授業で取り入れたいヒントをもらった」「楽しくて気持ちよく体を動かせた。子どもが学ぶにもリラックスして楽しむのが大事だと感じた」という意見が聞かれた。④障がい者支援センターについては「プログラム詳細」を参照。



川根高校



川根本町（行政職員）



川根本町（教職員）



川根本町（教職員）

## 公募型ワークショップ

本館はこれまでも平成 24 年度から毎年、公募のコンテンポラリーダンスワークショップを実施しているが、毎回、町外参加者の割合が高い（およそ町外 8：町内 2）。また、町内で舞踊やフラダンスなど踊りに関する活動をしているグループはいくつかあるが、これまでワークショップへの参加はない。このため本事業では町民の参加を促すこと、そして町内の文化団体（舞踊・詩舞・フラダンス）に参加してもらい交流を図ることを主目的とした。

ダン活事業全体研修会でも課題としてあがる広報や周知についてはこれまでの手段に加え、ベタなもう一つのチラシを作成し文化団体に配布した。また、今までの事業に関わり合いのあった人々を中心に呼びかけをした。最終的には個々への直接の声掛けが重要であるといつも思い知らされるがなかなかできていない。結果として参加者は町内 7 名、町外 5 名の 12 名（男女比は男性 5 名・女性 7 名）であった。残念ながら文化団体からの参加者はフラダンスの 1 名だけであった。世代は 20 代～60 代後半と幅広く、コンテンポラリーダンス初体験者は約半分。

アーティストの東野さんが「参加者がワークに対して前向きだった」とおっしゃった通り、参加者が積極的に身体を動かし前向きにダンスを楽しんだ。特に、東野さんが出す言葉（お題）を表現するワークが盛り上がった。ペアワークや休憩時間などを通じ、「山間部と都市部の交流」や「多世代間の交流」などさまざまな交流が生まれる時間となった。参加者アンケートでは「イメージをそのまま体で表現するというダンスはとても面白く、新しいと感じ、楽しかった」「身体の新しい動かし方を発見することができた」「何となく動けたことに自分でもびっくりした。1 番の年長者だったが年は関係ないと思った」などの感想が寄せられた。



## プログラム詳細

### 10月12日（木） 障がい者支援センター

#### ●最後に決まった4つ目のアウトリーチ先

当初の企画では障がい者施設向けワークショップの計画がなかった。実は一昨年、同様のダンスワークショップを断られていたためである。本事業のターゲットとしている「普段、アート・ダンスに触れにくい（文化会館から遠い）存在」として障がい者や高齢者は不可欠ではないかとコーディネーターからの提案を受け、打診したところ担当者が代わっていたこともあってか快諾していただいた。福祉センターからのただ一つの注文は「ワークショップ翌日が遠足なのであまり疲れさせないように」であった。

#### ●双方のパフォーマンスを披露

下見時、話題に上がった通所者が日頃取り組んでいる銭太鼓の演奏をしていただき、お返しする形で東野さん・吉川さんのデモンストレーションを行った。通所者の演奏を見ることで日頃の活動や、参加者の身体性について知ることができた。また、東野さんと吉川さんが踊りながら参加者の間に入ると会場が笑いに包まれて、距離がグッと縮まるのを感じた。

#### ●ストレッチとペアワーク

全身のストレッチを丁寧に行い参加者の負担にならぬよう徐々にワークに入った。通所者は日頃から体操をしておりペアワークもスムーズに行った。

#### ●アーティストの動きを真似る・他者の動きを知る

参加者を2チームに分け、アーティストの動きを参加者が真似るワークを行った。チームで動きを交互に見せ合うことで、客観的に動きを知ることができた。

#### ●イメージして身体を動かす

身体の中にボールが入ったことをイメージし身体を動かした。ボールが三角になったり、重さが変わったりと、どんどんイメージを変化させ身体全体で表現した。

#### ●他者に身体を動かされる・他者の身体を動かす

ペアになり、他者の身体を動かしてポーズをつくることや手と手を合わせてどちらかが主導で身体を動かすワークを行った。比較的身体の障害が重い女性が力いっぱい全身を使い東野さんをリードする姿を見せ、職員を驚かせた。

#### ●振り返り

福祉センターの職員から参加者の様子について「楽しんでやっていて、いつもとは違う面が見られた」「よく動き、伸び伸びしていた」という感想が聞かれ、「こんなに楽しんで汗だくに動いて、明日の遠足大丈夫かしら」と笑った。



●この事業への応募動機

これまで本館では「コンテンポラリーダンスが地域文化になることで町の活力を蘇らせる」とし、平成 23 年度に初めてコンテンポラリーダンスワークショップと公演を実施。平成 24・25・27 年度は公共ホール現代ダンス活性化事業・支援事業を活用し、町内すべての小中学校を始め各所でワークショップを実施し公演も開催した。また、ダンスワークショップを受けた小学生が創作ダンス公演に出演する「まんてんプロジェクト」も平成 25 年度から 4 年間続けている。これらの事業を通じて、参加者と観客の反応も良く、確かな手応えも感じている。しかしながらコンテンポラリーダンスが町に根付いたとは言い切れず、公募型ワークショップ参加者の顔触れも同じになりつつあり、公演の来場者数も増えてはいない。そこで、今一度、ダンス事業の力を借りて取組みを見直し、事業を積み重ね町に活力を取り戻して行くことに繋げたいと考えた。

●事業のねらいと企画のポイント

本年度の A プログラムでは「普段、アート・ダンスに触れにくい（文化会館から遠い）存在」、「文化事業を展開するうえで欠かすことができないよりピンポイントな存在」をターゲットとした。

まず、文化会館（公共ホール）から遠い存在として高校生が上げられる。本館は年間 7～10 本の自主事業公演を実施しているが高校生の来場はゼロに等しい。アウトリーチに関しても小中学校は毎年のように実施しているが高校ではなかなかできていない。同様に本館から遠い存在となっているのは障がい者である。そして、今後文化事業を展開するうえで重要な存在として、教職員と行政職員をターゲットとした。

また、公募型ワークショップは、次年度の B プログラムに繋がるよう、町内在住者の参加と既存文化団体（舞踊やフラダンスなど）の参加に重点を置いた。

なお、当初構想にあった「ダン活で婚活（イベント）」は調整がつかず断念した。

●企画実施にあたり苦労した点

アウトリーチ先の理解を得て実施させてもらえるかと、公募ワークショップに参加者が集まるかということは毎回の苦労点である。

行政職員と教職員対象は早い時期から関係部署と協議を重ね、行政職員は入庁 3 年以内職員の研修として、教職員は小中学校（6 校）から最低 1 名参加する研修として実施することができた。高校生対象は学級単位など授業としての実施は不可能ということで郷土芸能部（文化部）の部活動として実施した。理解が得られず一昨年断られていた障がい者福祉施設は担当者が代わっていたため快諾していただいた。（これは“アウトリーチあるある”かもしれない）。

公募型ワークショップの募集はいつも悩まされる。広報や周知についてはチラシ全戸配布や HP、静岡新聞掲載などこれまでの手段に加え、高齢者向けにもう一つのチラシを作成し文化団体に配付。また、今までの事業に関わり合いのあった人々を中心に呼びかけをした。参加者を募ることは、最終的には個々への直接の呼びかけが重要であるといつも思い知らされる。しかし、こうして呼びかけに来てもらえる人がいることは、これまで事業を続けてきた成果と言える。

●事業の成果と課題

- 【事業成果】
- ・さまざまな対象を設定することでアウトリーチに対する反応やニーズ把握ができた。
  - ・行政職員や教職員など今後の事業展開に関わり合いのある対象への実施ができた。
  - ・多世代・地域間の交流の創出することができた。
  - ・アウトリーチの有効的な活用方法を考えるきっかけとなった。
  - ・今まで積み重ねた事業成果を実感しつつあること。
- 【今後の課題】
- ・アウトリーチを受入れていただくだけでなく、少しでも相手方のメリットとなるよう考える。
  - ・助成金が得られない場合でもアウトリーチを継続していく。
  - ・来年度の B プログラムに向け、働きかけを持続すること。

●今後の事業展開や展望

まずは、来年度の B プログラム実施に向け、早くから動きたい。川根本町（山間部・人口 7 千人・高齢化率 45%）にふさわしい作品にするためにはどうすればいいのか、今回の反省を踏まえ公募型ワークショップをどのようにするのか考え、普段から参加者となり得る人材との関係性を構築する努力をしたい。また、今回、手応えを感じた教職員と行政職員に対するアウトリーチを継続的に実施し、これまで取り組みが不十分であった障がいの有無に関わらないようなワークショップや公演を考えていきたい。広く町民同士の相互理解を促進するきっかけになるような事業を心がけたい。

### ●この地域のダン活の特徴

川根本町では平成 24 年度にダン活、25 年度・27 年度にダン活支援事業を実施している。ダン活の他にも、小学生を対象としたプロジェクトを 26～29 年度に実施。26 年度に 1 小学校の 5 年生対象に、年間数回のワークショップで創作した作品をホールで発表。大好評であったため、翌年から町内全 4 校の 5 年生(のちに 4 年生) 対象に実施されることになった。同町の小学校はいずれも小規模校だが、その短所を補足する 4 校連携授業としてこのダンスプロジェクトを実施しているという。23 年度から 6 年にわたりダンス事業を継続実施したことで、ダンスのもつ可能性に強く手応えを感じてはいるものの、いまだダンスが地域に根付くまでには至っていないという現状認識により、今年度、新たなダン活 A プログラムに応募となった。

事業実績をふまえ、今回のアウトリーチ実施先は、「ダンスの届いていないところ、ホールの利用者、観客層として遠いところ」という明確な意図をもって選択された。今回、既に多く実施してきた小中学校はさけ、＜高校生＞＜教職員＞＜町行政職員＞＜障害者＞を対象として選択した。特に教職員と行政職員対象の 2 コマはそれぞれの研修として実施された。通常、こういったワークショップは関心のある人だけが参加しがちであるが、研修とすることでより多くの方にコンテンポラリーダンスの魅力と可能性を伝える機会創出となった。今後の町内での事業継続にあたり、重要な布石となったのではないかな。

高校へは授業の一貫としての受入れを希望したが、多忙ということで実現せず、部活動での実施となった。顧問以外の教員の見学もあり、今後の展開が期待される。教員の芸術文化、身体芸術への理解・取組には個人差があり、アウトリーチ導入に影響することが判明してきた為、研修という形で実際に体験する機会を設けた。研修の制度上、4 時間という長時間設定になったが、ワークショップの開始前にダン活担当の町職員から、ホールのダンス事業についての説明が映像付きで丁寧になされた。単にダンスを体験するだけでなく、どのような考え方で事業を実施しているのか、どのような成果が上がっているのかなどが伝えられ、貴重な機会となった。行政職員には、今後の事業への協力を仰ぐためにも、担当者がダン活の研修で初めて体験したダンスの楽しさを伝えたいと、新人研修として企画された。ダンス事業には町外県外からも来場者・評価があることに対して、町内の理解を促進したいという意図もあった。今回は町内の障害のある方とダンスの新しい出会いとなった。ダンスが地域文化になっていくためには、様々な人が皆等しくダンスを体験し、そして、ダンスを通して様々な人が出会う場づくりが望まれる。ぜひ、障害の有無を超えてダンスを楽しむワークショップの場を企画して欲しい。

### ●課題とこれからに向けて

アウトリーチはよく考えられ、今後のダンス事業展開上、必要な場所に届けることができたのではないかな。A プログラムを終え、今後、B・C プログラムを実施するにあたっての課題が見え隠れしたのは公募型ワークショップであった。今までも町外からの参加者比率が高いと聞いていたので、町内の参加者をいかにして増やすか、なんらかのテコ入れが必要ではないかと、下見の際にも話し合った。年長者の多い町内の文化団体に向けて、別刷りのちらしを作成したところ、1 名のフラダンスサークルの方が参加、しかしその数は伸びなかったという。川根本町の地理的な条件を考えると、町外からの参加者がそれほど多いのは、それはそれとして大きな成果ではあると思うが、やはりもう少し町内も増えてほしい。学校を中心にアウトリーチを実施してきているが、学校以外ではどのようなところでの実施が考えられるだろうか。新たな参加者、観客となっていつてくるようなところはないだろうか。今年実施したアウトリーチ受講者が来年度の事業へ参加してくれないだろうか。今回、担当者による町の案内が大変素晴らしかった。広報担当であったから、ということであったが、やはり町の魅力を隅々まで知り尽くしているという強みは事業にも必ず反映するものであろう。健闘を祈りたい。

実施団体	公益財団法人入間市振興公社
実施ホール	入間市産業文化センター
実施期間	平成 29 年 12 月 5 日(火)～12 月 8 日(金)
アーティスト等	アーティスト:赤丸急上昇                      アシスタント:ー
コーディネーター	清水幸代
サブコーディネーター	中富勝裕
<p>■アウトリーチ(実施日時、学校名等、対象、参加人数、会場)</p> <p>① 12月6日(水) 9:45～10:15、おおぎ保育園、年中組、10名、遊戯室</p> <p>② 12月6日(水) 10:20～10:50、おおぎ保育園、年中組、9名、遊戯室</p> <p>③ 12月6日(水) 10:55～11:25、おおぎ保育園、年中組、9名、遊戯室</p> <p>④ 12月7日(木) 15:20～16:45、あそびあーと こども劇場いるま、小学生、20名、西武公民館大会議室</p> <p>■公募型ワークショップ(実施日時、対象、参加料、参加人数、会場)</p> <p>① 12月6日(水) 18:00～19:30、一般(小学生以上)、20名、無料、ホール</p>	

スケジュール

	下見	
	10/3(火)	10/4(水)
9:00		
10:00		打合せ
11:00		
12:00		昼食
13:00	集合	打合せ
14:00	ホール下見 打合せ	
15:00	おおぎ保育園 下見・打合せ	西武公民館 会場下見打合せ
16:00	↓	↓
17:00		
18:00		
19:00		
20:00		
21:00		
22:00		

	実施期間			
	12/5(火)	12/6(水)	12/7(木)	12/8(金)
		おおぎ保育園 アウトリーチ①②③		移動
		↓		
		昼食		
			こども劇場いるま アウトリーチ	
	集合		↓	
	打合せ	WS 準備		
	↓	公募 WS		
	交流会	↓	意見交換会	

アウトリーチ

地域活性化を目的としたアウトリーチ及びワークショップ事業の市民に対する提供はまだまだ十分ではなく、拡充を図るべきと認識していた。そこで、公共ホール現代ダンス活性化事業Aプログラム（地域交流プログラム）を活用し、コンテンポラリーダンスなど市民が多様な文化にふれる“きっかけ”を創出したいと考えた。

市民がダンスを身近なものとして感じ、興味を喚起する、地域のダンス文化活性化に寄与することを念頭に、アウトリーチ及びワークショップを企画した。

【社会福祉法人入間福祉会おおぎ保育園】

将来の芸術文化の担い手となることを期待し、「おおぎ保育園」の4歳児を対象にアウトリーチを実施した。心身、楽しみながら芸術文化にふれてもらう目的で実施し、結果、園児たちの普段見せない一面を掘り起こすことができた。それ以上に、保育士の方たちに「ダンスの見方が変わった」、「体操などの指導に工夫ができる」などの影響を与えることもできた。

【あそびあーと こども劇場いるま】

市内で青少年支援活動を実施しているNPO法人と連携して、ダンスを活用し、地域に貢献することを狙いとして、地域の小学生を対象としたアウトリーチを実施した。アウトリーチを通して、学校での芸術文化活動以外で、学年を超えて交流し、芸術文化にふれてもらう目的は、1年生から5年生までと各学年からの参加により、ダンスを通して、学年を超えて交流する機会を提供できた。また、地域での居場所づくり活動の一環にも協力できたと考えている。



おおぎ保育園①



おおぎ保育園②



おおぎ保育園③



西武公民館

## 公募型ワークショップ

アウトリーチ同様、市民に対する提供はまだ十分ではなく、拡充を図るべきと認識していた。  
市民がダンスを身近なものとして感じ、興味を喚起する、地域のダンス文化活性化に寄与することを念頭に、企画した。

平日かつ夜間での実施のため、参加対象を小学生以上とし実施した。

子どもから大人まで、多様な世代とダンスで交流できる機会づくりは、6歳から77歳までと幅広い世代に参加いただき、異なる世代が時間と空間を共有する機会を提供できた。ワークショップに“羽を降らす”演出を取り入れるなど、入間にて新しい試みを実践するなど、工夫を凝らしていただいた。

「もっと踊りたかった」、「楽しかった」との参加者の声を聞くと、参加者になにか“きっかけ”を与える機会になったとの実感がある。小さな一歩ではあるが、入間でのダンス事業をスタートさせることができたのではないかと考えている。



## プログラム詳細

### 12月6日(水) 公募型ワークショップ(小学生以上)

#### ●自己紹介・パフォーマンス

赤丸急上昇さんから本日のワークショップについて、簡単な説明と自己紹介をされ、その後、あいさつ代わりにパフォーマンスを披露。赤丸急上昇のパフォーマンスに参加者全員は釘付け。さらにお面を付けてのパフォーマンスでは笑みがこぼれ、ワークショップ導入としては、緊張をほぐし、興味関心を引く形となり、入り方としてはとても良かった。

#### ●準備運動～

参加者同士のふれ合いも含め、ペアを組んで準備運動を行う。集まった参加者は積極的に取り組む方が多かった。

#### ●ワークショップ① ペアワーク～

参加者を二手に分けて、音楽に合わせてながら体をぶつけ合う表現では、今日初めて出会った人同士では、少し戸惑いが生じたように見えたが、接触回数を重ねるごと解消されていった。

#### ●ワークショップ② 全員で～

大きなゴム製の輪を使用する場面では、ゴムの伸縮に対し、頭、腕、足、全身を使って対応しなければならず、参加者にとっては、かなりの運動量であったと思う。

納豆のねばねばを表現する、“納豆ワルツ”では、参加者みな納豆になり切るなど、終始、楽しみながら表現できた。

#### ●羽の舞い散る中～

羽を空中に舞わせ、ひらひらさせることで生じる不規則な動きに対応し、手のひらで受ける表現では、“オーバー・ザ・レインボー”の曲に合わせてつつ、表現していた。

最後、ワークショップ内で羽を天井から降らす“演出”を取り入れた。照明を絞り、参加者の輪の中心に赤い羽が舞い散る光景は幻想的な場面だった。

参加者の中には「もっと踊りたかった」との声があった。初めてのダンス事業として、一定の成果を得られたと考える。



●この事業への応募動機

前述したとおり、地域活性化を目的としたアウトリーチ及びワークショップ事業の市民への提供は十分ではなく、現代ダンスで地域の活性化を図る、公共ホール現代ダンス活性化事業 A プログラム（地域交流プログラム）を活用し、コンテンポラリーダンスなど、市民に多様な文化にふれる“きっかけ”を創出したいと考えた。新たな事業分野であるダンス事業に挑戦することは、事業計画を策定する上で企画の幅を拡大できると考えた。

●事業のねらいと企画のポイント

公共ホール現代ダンス活性化事業の実施により、入間市のダンス文化活性化に取り組み、子どもたちがダンスにふれる機会、市民がダンスを通じてつながる場の創出、現代ダンスが特別なものではなく、誰でも楽しめる、参加できる環境を整えることをねらいとした。

アウトリーチ事業の企画ポイントとして、子どもたちを対象に考えた。コンテンポラリーダンスなど現代ダンスを身近なものとして感じられる“きっかけ”を、将来の文化の担い手である子どもたちに提供したいと考えた。公募型ワークショップの企画ポイントとして、入間市産業文化センター・ホールを会場に、広く市民を対象とし、ホールが核となり、地域の人々がダンスを通じてつながる場として機能することを目的とした。

また、実施を通して、アウトリーチ事業及び公募型ワークショップの企画、制作、運営手法の獲得と、職員の事業企画力及び運営力の向上も目的とし、実施後は、獲得した手法と地域とのつながりを最大限に活用し、継続して事業を実施し、ホールへの関心を高めるとともに、ホールのファンを創出していきたいと考えた。

●企画実施にあたり苦労した点

アウトリーチ先の選定にとっても苦労した。実施時期の12月は、アウトリーチ先として予定していた小学校・中学校では学校行事や期末テストなどと重なり、興味を持っていただけたにも関わらず、時期の問題でお断りされるケースがあった。アウトリーチ先の決定がかなり遅れたため、全体のスケジュール調整にも苦労した。アウトリーチ先決定後も、実施工程をこなしていくことで手一杯となり、出演者、コーディネーター、地域創造と密の連絡を取り合った上で進めていかなければならないところ、情報共有を十分に図ることができないまま工程を進めていくということが多くなってしまった。

●事業の成果と課題

ワークショップ参加者から「もう一度、参加したい」「もっと踊りたかった」との声をいただいたことから、参加者に興味関心を喚起することができたと感じた。また、アウトリーチ先の保育園では、園児たちの普段見せない一面を掘り起こした以上に、保育士の方たちに「ダンスの見方が変わった」「体操などの指導に工夫ができる」などの影響を与えることができ、一定の成果を得ることができたと感じた。

参加者の声から、自由に発想して踊る現代ダンスについて、一般的な“ダンス”のイメージから払拭しきれていなかったと感じたので、次回はPR活動のなかで、現代ダンスとは具体的にどのようなダンスなのかを提示し、事前のイメージづくりが課題になると思う。

●今後の事業展開や展望

ダンス事業を単発の事業で終わらせず、広く市民に魅力を伝え、地域にダンス文化を浸透させるため、継続して実施する。展開としては、平成30年度にCプログラムの実施を予定している。

### ●この地域のダン活の特徴

入間市では、市民が多様な文化に触れる“きっかけ”を創出する事を目的に、主催事業としてはじめてダンス事業に取り組む事となった。市民活動が盛んな街で様々な文化芸術活動を実施する市民団体があり、それを支える NPO など存在する。市民が新しいジャンルの芸術分野に触れる機会を生み出し、より身近にダンスを感じてほしいというホール担当者の思いからダン活事業はスタートした。

今回のダン活では、A プログラムでの開催という事もあり、保育園児・小学生対象のアウトリーチとホールで公募ワークショップを実施した。

おおぎ保育園では、4歳児を対象に3クラスにわけアウトリーチを実施。最初は緊張気味の園児たちも赤丸急上昇のナビゲートによりダンスの世界に没頭。遊びでもなく、体操でもないダンスの世界に舞い込み、音楽や物語から想像したそれぞれのダンスを自由に表現した。終了後、保育園の先生との懇談で、園児達のいきいきとした表情がみえたり、日頃は恥ずかしがり屋の子がダンスを通して自己表現したり、心を解放する様子が伺えたとの声をいただいた。先生にとっても担当するクラスの子供達の様子を観察する有益な時間となったようだ。

西部公民館で実施したアウトリーチでは、市内で青少年支援活動をしている NPO と連携し放課後の課外活動に参加する児童を対象にワークショップを実施。子供達の放課後の地域での居場所作りを推進するボランティアの協力も得た。開始当初より言葉ではなく身体でダンスを表現し伝える事、それぞれの持つオリジナリティや表現をみて楽しむ事に主眼が置かれた。最初はテンションが高く集中力にける児童たちも多かったが、どんどんダンスの世界に引き込まれ口よりも身体が自然に動きだすところまで子供達を誘った。

ホールでの公募ワークショップは、大人から子供まで一緒に楽しめるプログラムを実施し、6歳から77歳の参加者が集った。ワークショップの冒頭に赤丸急上昇のお二人のダンスを披露。ダンスを踊るための準備運動をはじめ、身体と心をほぐすプログラムが続く。最後に、アーティストがホールの技術スタッフと共に準備したフィナーレ演出として、照明付きの舞台上でダンスを踊るといふなんとも贅沢な時を過ごした。舞台上空から舞い降りる赤い羽根を身体や手で受けダンスに変換していく様子は、ワークショップの次元を超え、作品の幻想的な一コマを見ているような感覚にもなった。初対面の参加者と一回きりの短いワークショップでここまでの世界を作り上げるアーティストの手腕を改めて実感した。

### ●課題とこれからに向けて

入間市においては、市民参加の公募型ワークショップやパフォーマンスの上演に一定の需要があり、今回参加したメンバーや NPO などからもダンス事業の継続に期待が集まっている事は実感できた。入間市産業文化センターでは、来年度にダン活 C プログラムを実施する事も決定しているので、今年度培ったネットワークを活かし、更にダンスのファン層の開拓や、入間市ならではのプログラムを考案していく必要がある。同時に地域で活動している市民団体や NPO との連携を深め様々な交流を生み出していくと良いと思う。ダンスを一過性の事業として捉えるのではなく、地域でダンス文化を醸成させていく仕組みをつくる必要がある。そのためにも、小さな企画でも良いからホールでダンス事業を継続開催し、日頃から関係性を築いていく必要があるのではないだろうか。まずは人脈を生み出す事で自ずと事業を成功に導くヒントを見出してほしい。

実施団体	公益財団法人宮崎文化振興協会
実施ホール	宮崎市民プラザ
実施期間	平成 29 年 12 月 21 日(木)～12 月 24 日(日)
アーティスト等	アーティスト:田畑真希                      アシスタント:カスママリコ
コーディネーター	花光潤子
サブコーディネーター	宮久保真紀
<p>■アウトリーチ(実施日時、学校名等、対象、参加人数、会場)</p> <p>① 12月21日(木) 19:00～21:00、東大宮地区コミュニティセンター、自主グループ(舞踊)、16名、研修室</p> <p>② 12月22日(金) 9:40～11:20、宮崎市立宮崎東小学校、6年生、45名、体育館</p> <p>③ 12月22日(金) 19:00～21:00、東大宮地域まちづくり推進委員会、各部会、20名、研修室</p> <p>■公募型ワークショップ(実施日時、対象、参加料、参加人数、会場)</p> <p>① 12月23日(土) 13:00～15:00、どなたでも(小学生以上)、500円(高校生以下無料)、12名、オルブライトホール</p> <p>② 12月23日(土) 17:00～20:00、身体表現経験者(小学生以上)、1000円(高校生以下無料)、11名、オルブライトホール</p>	

スケジュール

	下見	
	6/8(木)	6/9(金)
9:00		アウトリーチ先 下見
10:00		↓
11:00	関係者着	↓
12:00		↓
13:00	事前打合せ	
14:00	アウトリーチ先 下見	まとめ
15:00	↓	地域資源視察
16:00	↓	↓
17:00	↓	
18:00	ワークショップ 打合せ	
19:00		
20:00		
21:00		
22:00		

実施期間			
12/21(木)	12/22(金)	12/23(土)	12/24(日)
	宮崎東小学校 アウトリーチ		
	↓		地域資源視察
		公募 WS①	
		↓	
打合せ			↓
↓			
		公募 WS②	関係者発
		↓	
自主グループ(舞踊) アウトリーチ	まちづくり推進委員会 アウトリーチ		
↓	↓	WS参加者 交流会	
		↓	

## アウトリーチ

【東大宮地区コミュニティセンター自主グループ（舞踊）】 普段それぞれに活動をされている公民館の舞踊ジャンルのグループの希望者に対して、「身体表現を追求する」目的を持つもの同士の新たなコミュニティの開拓を目的として実施した。参加者の年齢は、下は16歳から上は85歳と幅があったが、若い参加者たちが積極的にアーティストの補助をするような動きで協力してくれたため、全員がそれぞれのレベルで真剣に楽しく参加できたのではないかと感じた。また、翌日夜間に行われる回に参加予定の方が見学に来られていたが、いつの間にか参加されていた。参加せずにはいられなくなったそうである。田畑さんの「引き込む力」の強さを感じた。

【宮崎市立宮崎東小学校】 小学6年生、思春期にさしかかり、他人の視線を気にして恥ずかしそうな様子を見せる児童も見られたが、時間が立つにつれて徐々に動きに没頭していく様子が見て取れた。また、冒頭に子どもたちの希望により運動会で毎年踊っている「東っこエイサー」の披露があったが、比較的参加人数が多く個々と接触する機会が少ないこの回では、自分のことも知ってもらえたという安心感に繋がり、アーティストと児童の心の距離を近づけるのに有効に働いたのではないかと感じた。

【東大宮地域まちづくり推進委員会】 この会はあたたかいまちづくりを目標に地域住民により構成された委員会である。6つの部会間の交流がほとんどないらしく、親睦を深めることを目的として実施した。平均年齢が高いことや許容的ではない方が多いという理由で窓口になってくださった事務局の方に難色を示されたが、集客しやすい「研修」としての実施の提案や、伝え方のアドバイスなどをいただき実施にこぎつけることができた。正直、このワークショップが一番気がかりであったが、実施してみると最初から興味津々で一番笑い声の絶えない回となった。「やってみないとわからない」を実感したワークショップとなった。



東大宮地区コミュニティセンター（自主グループ）



宮崎東小学校



東大宮地域まちづくり推進委員会



東大宮地域まちづくり推進委員会

## 公募型ワークショップ

興味のある方なら誰でも参加できる「誰でも楽しくワークショップ」と、身体表現経験者向けの「田畑さんと表現さがしワークショップ」の2本で実施。一目で内容が分かり、かつ、親しみが持てるような名称にして、難解なイメージを払拭したいと考えた。それでもやはり集客は苦戦し、純粋にチラシ・HP・FBを見て参加したという方は、両ワークショップともに7、8名に留まった。定員を各30名と設定していたため、スポーツジムやバレエ教室、教育委員会などピンポイントに参加を依頼して回ったが、日程が年末・クリスマスシーズンということで他のイベントと重なるなどで伸び悩み、結果それぞれ全部で11名と12名という結果になった。しかし、実際実施してみると、会場を広く使うことができ、参加者1人1人に目を行き届かせることができたため、適当な人数だったのではないかと思った。また、それぞれのワークショップに当館の所管課である宮崎市の職員に参加いただけたため、インリーチの意味合いも持たせて実施することができた。

### 【誰でも楽しくワークショップ】

前々から興味を持っていらっしやった方、「身体表現経験者」と名乗るには自信のない方など、様々な理由で集まられた方々であったが、「誰かと」ではなく単独での申し込みをされる方が多かった。自己を完全に解放するには、知人がその場にはいないことがとても重要な要素となったのではないだろうか。若干恥ずかしそうに申し込み用紙を持参する様子を思い出し、当日初めて出会った参加者同士が伸び伸びと動き、心から笑い合う様子をみてそう感じた。

### 【田畑さんと表現さがしワークショップ】

「身体表現経験者」という括りで募集したところ、演劇、バレエやフラダンスなど様々なジャンルの表現者に集まっていただくことができた。今回のワークショップは3時間と、たっぷり時間を使って表現を掘り下げる内容になっていたのので、参加者同士の関係も深まったのではないだろうか。



誰でも楽しくワークショップ



誰でも楽しくワークショップ



表現さがしワークショップ



表現さがしワークショップ

## プログラム詳細

### 12月23日（土） 田畑さんと表現さがしワークショップ

#### ●導入

田畑さんによる高度なデモンストレーションで「表現者」である参加者の意識を集中させ、徐々に参加者を巻き込む動きに変え、身体と心をほぐすように参加者をワークショップへと引き込んでいった。心を持って行く様子が見事だった。

#### ●表現活動①

他のプログラムにもあった、2人組になって相手の手や体の一部の動きを離されないように顔で追うことから始まり、0%～100%、「ガリガリ君・炭火焼き味」を体で表現する、体の一部を魅せる動きをするなど、表現の難易度を少しずつ上げていった。抽象的な表現の取っ掛かりをつくった。

#### ●表現活動②

「砂」や「水」などに体の質感を変える、身体の色を変え、その色を身体の一部に集めるなど、より抽象的・感覚的表現を体験させる。「動きを緩める」「体の立体感を感じる」など、適宜田畑さんから言葉によるアドバイスが入った。意識が変わっていくことで、参加者の表現がみるみる豊かになっていく様子が興味深かった。

#### ●発表・鑑賞

2～3名ずつ4組に分かれて、今までやった全ての動きを組み合わせ、作品を創る。発表グループは舞台上にて披露、その他は客席にて鑑賞する。創作時間が短時間、また、合わせて踊る音楽は発表直前に田畑さんがチョイスしたにも関わらず、非常に完成度の高い魅力的な作品が出来上がった。9歳の女の子が主導権を握り、同じグループの大人を動かす場面がとても微笑ましかった。

参加者は真剣に表現活動に取り組んでいたが、ユーモアたっぷりで一体感があり、心も体も暖まる「ダン（団）ダン（暖）ダン活」ワークショップとなった。



### ●この事業への応募動機

当協会の事業展開は、ジャンルのバランスを重視した配分を行ってきたが、これまでコンテンポラリーダンスに関しては比較的実績が乏しい現状にあったため、地元アーティストを登用した学校向けワークショップや継続的な習い事教室など、段階的に発展させてきた。今回は、高い芸術性やワークショップファシリテーターとして豊富な経験を持つアーティストを招聘することが、一般の方たちへの現代ダンスの浸透や、地元の身体表現者たちに刺激を与えコミュニティの活性化や新規開拓に繋がるのではないかと考えたため。

### ●事業のねらいと企画のポイント

アウトリーチについては、単発のアウトリーチを実施するにあたり、1つのアウトリーチ参加者同士の体験共有に留めるのは非常に勿体ないことであると考えた。そこで、日頃から何らかの形で交わる可能性の高い、特定の範囲の異なる複数のコミュニティに属する住民に対してそれぞれにアウトリーチを実施することを大きく「ダンダンダン活」の体験共有と捉え、各アウトリーチから生まれたコミュニティ同士が、関係を構築しやすい環境をつくるため、東大宮地域に限った実施を計画した。公募ワークショップに関しては、コミュニティの活性化や新規開拓を図る目的で実施を計画した。

### ●企画実施にあたり苦労した点

とにかく興味を持ってもらえるかどうかは伝え方次第ということで、責任の重さから逃げ出したい気分だった。コンテンポラリーダンスについて色々調べてみたが、調べれば調べるほど、面白さを伝える言葉からかけ離れていく気がして、結局のところ自分のワークショップ参加経験に立ち返り、感じたことを言葉で伝えるのが一番よいと気が付いたが、対象によってアピールポイントを変えていかなければならないという部分は、やはり私にとっては非常に難しい任務であった。「参加して損はない」と、そこだけは自信を持って「東京から来られる有名な体操の先生の楽しい教室」など言えるようになったのは、かなり後になってからだった。頼りない担当者だったが、無事実施できたのは、それぞれアウトリーチの窓口になって下さった方々や、コーディネーターの方をはじめ関係者の方の的確なアドバイスや協力あってこそだった。

### ●事業の成果と課題

全体を通して、参加者の満足度の高いアウトリーチ・ワークショップだったと感じている。成果については、今後を追っていかないとわからない部分は大きいですが、同じワークショップの参加者同士、少なくとも「声掛け」ができる関係は築けたのではないかと思います。そこからどのように展開するか楽しみだ。

課題としては、東大宮地域まちづくり推進委員会の参加者から事務局に、「自分たちでワークショップをしたいので、今回のワークショップでどのような動きがあったか教えてほしい」といった問い合わせがあったということで、ワークショップを実施する際、アーティスト・ファシリテーターの存在が大きいということが伝えきれてなかったことが挙げられる。継続して取り組んでいくためには、ワークショップのできる地元アーティストの育成も必要であると感じた。

### ●今後の事業展開や展望

全体を通してニーズがあることを確信した。人とコミュニケーションを図ることの喜びで輝く参加者の姿を目の前にして、ワークショップの意義を肌で感じる貴重な体験となった。また、特に「田畑さんと表現さがしワークショップ」では面白い人材もたくさんいるということにも気づかされ、そういった方たちに対し活動の場を今後どのように提供していくか考える必要があると感じた。学芸員の資格を取るときに、学芸員は「人」と「モノ」を繋ぐ仕事だと教えられたが、この経験を通して、現在私の置かれた立場は、「人」と「人」を繋ぎつけるとても素敵な仕事であるということに気付かされた。

**●この地域のダン活の特徴**

Aプログラムのアウトリーチでは、東大宮地区に絞り、東小学校の六年生とコミュニティセンターの自主グループ、まちづくり推進委員会の三か所で行った。アーティストは田畑真希。

東大宮地区は古くから沖縄からの移住者が多い地域で、沖縄固有の風習が本土の文化と融合しながら残っている土地柄だそう。東小学校では運動会でエイサーを踊る伝統があり、私たちは6年生が踊る太鼓と鉢巻姿のエイサーで歓迎された。地域の公民館的役割を果たしているコミュニティセンターでは、社交ダンスやフラダンス、日本舞踊や太極拳など舞踊に類するサークルが常時活動しているが、相互の交流はないという。一方、まちづくり推進委員会では福祉や文化、スポレク元気といった6つの部会があり、ボランティアの有志が地域住民の便宜を図るさまざまな活動に取り組んでいる。しかしここでも普段部会同士の交流は無く、あったとしても男性中心の飲み会といった程度らしい。地域的には高齢化も進んでいる中で、宮崎市民プラザでは、世代を問わず身体を使って一緒に交流できる機会を設け、新たな地域コミュニティの構築や活性化を図ることをねらいとした。

コミュニティセンターでは16歳のフラダンス女子から85歳の日本舞踊のお婆さままでの16名が参加。70～80代が半数を占めたワークショップでは、若いフラ女子たちがアシスタント的役割を果たしお年寄りをサポートするなど、世代を超えて和やかなコミュニケーションが交わされた。会場は疲れたら休めるよう後方にイスを用意し、無理なくワークショップに臨めるように設えた。まちづくり推進委員会では各部会から20名が参加。ここも同様に高齢者が多く、身体をほぐすストレッチ体操や休憩の回数を多く取るなどして対応した。田畑さんの元気なエネルギーに刺激され、皆気持ち良い汗をかきながら身体を動かしていた。まちづくり推進委員会では男性の参加者も多く、普段身体で触れ合うことのない熟年の男女が照れながらも初々しくペアでワークする様子に、見ている方も笑顔で応援していた。日本中どこでも地域のコミュニティが高齢化する中で、心と身体の健康寿命を促進し豊かな人間関係づくりに一役買うことができるこのようなワークショップは益々必要とされてくるだろう。

**●課題とこれからに向けて**

今回は参加者の声掛けにコミュニティセンターの所長やまちづくり推進委員会の事務局女性陣に協力していただいた。市民プラザの上脇さんと米原さんがコミュニティセンターに出向いて皆さんに説明する機会を設けたが、初めての人にワークショップを理解してもらうのは容易くはない。しかし担当者自身の体験からその楽しさや効能を自分の言葉で熱く伝えることが出来れば、それが一番説得力を持つはずである。生き生きとした自分の感想をどう伝えられるか、また伝える対象によってもどこがアピールポイントになるかを考えた話し方の技術や戦略も必要だ。是非コミュニケーション力のトレーニングを積んでほしいと思う。

「田畑さんと表現さがし」の身体表現経験者の公募ワークショップでは、それぞれ個性的な人が地元にいることがわかり、嬉しい発見となった。彼らを通じたダンスの潜在的観客の掘り起しに繋がるに違いない。アウトリーチもワークショップも今回の成果を一過性に終わらせずに継続して行って欲しい。それにはアーティストとの関係の持続は元より、経済面では助成金申請などの予算確保や地域ネットワークによる経費削減、また将来を見据えてのワークショップファシリテーターの地元での育成に取り組むことなども、次の課題であろう。



# B プログラム

(市民参加作品創作プログラム)

実施団体	上田市
実施ホール	サントミュージゼ 上田市交流文化芸術センター
実施期間	平成 29 年 5 月 13 日(土)～5 月 14 日(日) 平成 29 年 7 月 18 日(火)～7 月 24 日(月)
アーティスト等	アーティスト:鈴木ユキオ クリエーションのためのアシスタント(共演者):安次嶺菜緒、竹内英明 テクニカルスタッフ等:ー
コーディネーター	菊丸喜美子/花光潤子
サブコーディネーター	神前沙織

●公募型ワークショップ(実施日時、対象、参加料、参加人数、会場)

- ① 5月13日(土) 15:00～17:00、一般(中学生以上)、無料、30名、大スタジオ

●公演(演目、公演日、開演時間、出演者、入場料金、会場、入場者数)

- 『number NINE』-short version-  
『20のカラダの証』
- 7月23日(日) 14:00開演(13:30開場)
- 鈴木ユキオ、安次嶺菜緒、竹内英明、市民参加者 17名
- 500円 \*中学生以下無料
- サントミュージゼ(上田市交流文化センター) 大スタジオ
- 164名



# スケジュール

	下見	
	3/20(月)	3/21(火)
9:00		
10:00		機関誌取材、宣材撮影、収録
11:00		↓
12:00	上田着	↓
13:00		市内プレ公演 会場下見
14:00		打ち合わせ
15:00	打ち合わせ	
16:00	↓	帰途
17:00	↓	
18:00	交流会	
19:00		
20:00		
21:00		
22:00		

実施期間①	
5/13(土)	5/14(日)
上田着	
	出演者 WS
打ち合わせ	↓
公募 WS	移動
↓	プレ公演 ※ダン活枠外
打ち合わせ	交流会 (意見交換)
↓	
交流会	

	実施期間②						
	7/18(火)	7/19(水)	7/20(木)	7/21(金)	7/22(土)	7/23(日)	7/24(月)
9:00		公演準備	公演準備	公演準備			
10:00				アーティスト 稽古	クリエイション⑤	ゲネプロ	帰途
11:00		小学校 OR① ※ダン活枠外	小学校 OR② ※ダン活枠外				
12:00		↓	↓				
13:00						開場	
14:00	上田着	アーティスト 稽古	アーティスト 稽古			公演	
15:00	打ち合わせ				通し	↓	
16:00	↓	↓	↓	↓	↓		
17:00							
18:00	クリエイション①	クリエイション②	クリエイション③	クリエイション④	アーティストリハ	打ち上げ	
19:00	↓	↓	↓	↓	↓		
20:00	↓	↓	↓	↓	↓		
21:00							
22:00							

### 公募型ワークショップ

#### 一般参加型公募 WS

中学生以上の健康な方であれば誰でも参加可。ダンス事業はこれまでも自主事業として継続してきたが、今回は定員いっぱいの参加者数（30名）となり、当館事業に初参加の方が多かった。ペアになり、予測がつかないリーダー役の人差し指の動きを一定の距離を保ちながら追いかけたり、円になって他の参加者の名前を呼び、呼ばれた人は別の人の名前を呼びながら移動したりする、などのワークを行った。様々なワークの動きの中に、鈴木ユキオさんが変化をつけていく一つのダンス作品のように感じられ、空間の使い方、移動スピードや高さなど、身体の動きのメカニズムを体感することで「コンテンポラリーダンスに魅力を感じた」といった感想も聞かれた。またこの日の WS に参加したことでダンス公演に興味を持った複数の参加者が、クリエイションへの参加を希望した。

#### ※出演者 WS

7月の市民参加公演に向けての出演者 WS。公募にて参加者を募集。見えない扉があるイメージを浮かべて足でその扉を開けて入るといったワークでは、1人ひとりの身体的特徴やダンス経験の、イメージの膨らませ方の違いによって、扉が引き戸だったり、重そうな扉だったり、高い場所にあるなどさまざま。鈴木さんのアドバイスを受けるたびに参加者たちの動きが変化する様子が見て取れた。17人が半円形に並んで、1人がその前を踊りながら駆け抜けて、自分の前を通り過ぎた瞬間の動きを真似するという、カメラを連写されることをイメージさせるといった、公演で取り入れる動きも行った。両日共に多くの参加者が集まり、これまで当館事業に参加した経験がある参加者たちにも新しい緊張感が感じられた。



## クリエイションの様子

### ●初日～7月18日(火)

#### 「緊張・不安～少しの安心」

ペアワークやグループ発表、公演でも取り入れる予定の動きなどのワークショップ形式での初日だった。コツをつかめない人には鈴木さんが丁寧にアドバイス。ダンス未経験者や、物怖じしている参加者も初日を乗り越えたことで安心できた様子だった。

### ●二日目～7月19日(水)

#### 「手探りの二日目」

テクニカルスタッフにより、客席を組んだ状態で開始。初日とは違った動きの確認作業と発表。スポットライトの光に手を入れて浮遊する何かを追いかけたり、触ったりするような動きを練習するなど、公演の構成を織り交ぜての内容だった。公演で使用する衣装の確認も行った。

### ●三日目～7月20日(木)

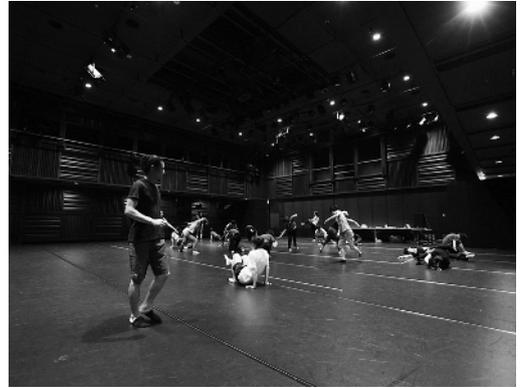
#### 「ディレクションに正直に」

自主事業（ダン活枠外）として実施したプレ公演で使用した音源に合わせて踊ってみる、公演を見据えた構成に合わせて誰に何のパートを持たせるのか、そしてどのように表現していくのかをくり返し練習した。何度も繰り返すことで、その動きを覚えて慣れが生じたことに対して、そのたびに「身体を見せるよりも、ディレクションを見せたい」「ディレクションに対して正直に動いた身体は見たくなる」と自分の動きから逃れるよう、鈴木さんからアドバイス。

### ●四日目～7月21日(金)

#### 「より具体的に構成をイメージ」

これまでは構成の各パーツごとに練習を進めてきたが、いよいよ通しでの稽古を行った。参加者は毎日何かしらの課題と向き合っており、参加者的にはこれまでは全体像が見えないクリエイションだったものから一気に公演モードに突入。それを驚異的な早さで吸収し、自分の表現の糧とする参加者たち。今までの身体の「慣れた動き」から開放されてきたのがはっきりとわかった一日だった。



●クリエーション最終日～7月22日(土)

「本番前日」

衣装を着てのリハーサル、小返し、稽古の繰り返し。最終的なバランスを見ながら衣裳チェンジを行ったり、動き方の追加や変更、立ち位置などをチェックした。本番を翌日に控え参加者からは「このまま終わってほしくない、ずっと踊っていたい」と言った感想もでていた。



## 公演

## 『鈴木ユキオ コンテンポラリーダンス創造公演』



鈴木ユキオさんとアシスタントダンサーお二人、一般参加者 17 名の計 20 名から、公演は『20 のカラダの証』と名付けられた。鈴木さんのソロ作品『number NINE』-short version-と、一般参加者 17 名と鈴木さんたち、計 20 名による群舞作品『20 のカラダの証』（新作）による 2 部構成。

当館はこれまでも自主事業でダンス事業を行ってきたが、これまで当館事業に参加経験のない市民の参加を目指すことで、集客面はもちろん当館事業へのさらなる理解と周知を広めることを目的とし、今回の事業を実施。地域性や鈴木さんのアーティスト性、館の現状を考慮し、鈴木さんには、市民参加ということを意識し過ぎずに作品創作をして欲しい旨をお伝えし、事業がスタートした。

館としてもこれだけの人数の市民参加公演は初めてであり、担当としてはスタート当初は正直不安もあったが、鈴木さんは参加者ひとりひとりと丁寧に向き合いながらクリエーションを進め、一体感と共に、「舞台上立つ」という緊張感や使命感のようなものを参加者から感じることができた。終演後にはお客様から「市民参加とは思えないくらい素晴らしい」と言った感想を直接いただき、事業の方向性とそれに沿った広報活動を計画的に行えたことにより、当館の市民参加型公演としては最大数の参加者が集まり、公演の集客においても会場（大スタジオ）として最大数の集客となったことは、とてもよかった。

集客面において苦戦してきたダンス事業で一定の成果ができたことにより、今後の事業運営に可能性を感じる事ができた。

参加者はこれまで当館事業に参加したことがない人が多かったが、今回の公演に参加した以降、他ジャンルのワークショップや公演などにも積極的に参加し「あれからサントミュージゼの HP はいつもチェックしています」など、当館事業への興味を持っていただけたこともよかった。

## ●来場者アンケートより（感想）※原文ママ

- ・身体的能力が高くて見るものをひきつけました！上田市でこのような芸術性高いものが見れてうれしかったです。（40代女性）
- ・照明や音響がすごく斬新で踊りがひき立っていてキレイでした。動きひとつひとつがいきいきとしていました。（10代女性）
- ・初めは「？」となりましたが見ていくうちに引きこまれました。（中略）こんなすごい人達と一緒に活動したんだよ！と子ども達に伝えます。※アウトリーチ先の小学校先生です。（30代女性）
- ・表現のすばらしさに感動しました。（60代女性）
- ・とてもすばらしく感動しました。体の動き、表現の仕方、鈴木ユキオさんの飛びはねても音がしないちやく地、すばらしかったです。また観たいです。（70代女性）
- ・大変良かったと思います。一般の人達があそこまで表現出来るのは素晴らしいと思いました。（40代女性）
- ・コンテンポラリーダンスを見るのははじめてでしたが、とてもドキドキしました。鈴木さんのおどりをみているとき、ヒトのカラダってきれいなんだなと思いました。（30代女性）
- ・初めてみるジャンルでした。こういう世界もあるんだなあとと思いました。1人なのに迫力がありあつという間の1時間でした。（30代女性）
- ・体の動きがふだんの動きと違いおもしろかった。見たことの無い動きが多々有りおもしろかった。（50代男性）
- ・動きの一つ一つが不思議と引きこまれていき、その一つ一つがつながってる感じで、人間の身体がすごく素敵に見えました。感謝、感動です！

#### ●この事業への応募動機

これまで自主事業でダンス事業は行ってきたが、まだ当館事業への参加経験（WS参加、公演鑑賞、出演）のない市民により多く参加してもらい、コンテンポラリーダンスの普及とともに当館事業への理解と周知を図るための幅広い事業提案ができると考えたため。

#### ●事業のねらいと企画のポイント

「初めて参加する（出演する）」「初めて公演を観た」「初めてコンテンポラリーダンスを観た」「初めてサントミュージゼに来た」を増やすことを目的に、そのためにはどう人を集めるのか（興味を引くか）考えた。また、これまで当館の市民参加事業に参加したことがある人にも、これまでとは違った体験をしてもらうことも意識した。そのために、チラシの作り方、館の機関誌、市の広報誌や新聞記事、雑誌、YouTubeでの動画公開など、それぞれの情報発信方法やデザイン、制作や公開の時系列も丁寧に立案し、広報面においては特に力を注いだ。

また自主事業として、小学校へのアウトリーチやクリエイションの前にアーティストの世界観を知ってもらうために、市内民間劇場でのプレ公演を実施。参加者はもちろん、「参加は難しいけど興味はある」というお客様にも公演のイメージを持ってもらうことで、公演の周知につなげることを意識した。

ちなみに、これらの取り組みは今回の公演のためだけではなく、今後の事業展開やコンテンポラリーダンスへの興味、館のブランディングをイメージして企画・実施した。

#### ●企画実施にあたり苦労した点

当館としてはこれまでの経験もある中で大きく苦労した点はないが、これまでの市民参加型事業では、参加者の数を集めること、新しい参加者を増やすこと、そして集客に苦戦しており、それらの経験も踏まえて広報計画を立てることができた。これまでは参加者募集から公演までの期間が短く→十分な広報ができない→参加者が集まらない→結果集客も苦戦する、ということが多かったが、今回は募集から公演までの期間に一定期間を設け、計画的に広報を行えたことにより成果を残せた。期間が空くことで参加者のモチベーションが下がる可能性もあったが（実際、参加者から辞退の相談が寄せられた）、メルマガなどを作成し、プロモーション状況やニュースを配信し気持ちをつなげることに努めた。

#### ●事業の成果と課題

当館が目指す事業の方向性や目的を早い段階でアーティストと共有できたことにより、内容・スケジュールともに計画的な広報を実施することができた。その結果、一般公募WS参加者数、出演者数、そして集客においても成果を出せたことは大きく、今後の事業展開や展望にもつながる結果となった。

「人見知りの新しい物好きでミーハー」な県民、市民性を意識し、あえて市民参加感を出さずに広報を行ったことにより、結果的に市民参加型事業を広く周知することもできたとし、そのステータスも上げることができたと感じている。

担当者の課題としては、全体的にはスムーズな制作進行ができたと思うが、若干バタつく部分もあり、クリエイションから公演当日に至るまで、もう少しスケジュールの調整に気遣いができればよかったと感じている。

#### ●今後の事業展開や展望

今回の事業を通じて、一定の成果を残せたことにより、コンテンポラリーダンス/ダンスの一つの魅力を提案することができたことで、実験的なことやコラボレーション、さまざまなアーティストを提案することができると考えている。

**●この地域のダン活の特徴**

長野県上田市交流文化芸術センター（サントミュージーゼ）は、平成 26 年に開館した比較的新しいホールであるが、すでにコンテンポラリーダンス事業の実績を積んでいる。今回のダン活では、市民参加型を実施することによって、あらたな参加者拡充や、さらなる事業への周知を目標に掲げている。

主催者とアーティスト間での相互理解、信頼を得るために、下見の時に十分な話し合いの時間を設けたことが、その後の作業に良い影響を及ぼし、事業全般の成功の鍵となったように思う。

また、下見と実施期間 2 回を、それぞれ 2 ヶ月空けたことも効を奏した。情報誌掲載のインタビュー、HP へのダンス映像や写真撮影などを下見や実施前半期間に行ない、アーティストの紹介や事業の告知が十分な期間を通してできたことによって、参加者公募や公演の集客に役立てることができた。アーティストにとっても、作品創作の準備期間に当てられた。

さらに、実施前半期間に一般ワークショップと市民参加者のワークショップ（今回初めて応募する方がほとんどであった）に加え、地元の民間施設を利用して、プレイベントと称したアーティストのデモンストレーションを行った。参加者がアーティストのダンスを鑑賞（知る）する機会に恵まれたことや交流できたことによって、一緒に頑張っていく仲間意識、結束力が生まれた状況で、実施後半期間へと繋げることができた。

**●課題とこれからに向けて**

今回は本番でのクリエーション以前に十分な準備期間を設け、デザイン性の高いビジュアルやメディアを駆使した戦略的な広報での公演周知を行ったことが、集客に大きな効果をもたらした。と同時にプレ公演で参加者の意識を高めたことが内容の充実に繋がり、市民参加事業の集客と公演の質の高さと云う二つの目標を達成したと言えるだろう。

事業担当者の他にも多くの職員が稽古風景を見学し、アーティストと夕食を共にしてコミュニケーションを図るなど、館全体で一つのプロジェクトを遂行している意気込みが感じられ頼もしく思えた。一緒にものづくりをするパートナーとしてアーティストに信頼される館であることが、事業を成功に導く何より大事な要素であるだろう。

今後の課題として提言するとすれば、スケジュールを詰め込みすぎないことだ。B プログラムでは作品づくりに重点を置き、基本スケジュールにアウトリーチは組まれていない。今回は上田に折角来てもらったのだからと午前中の空き時間に 2 回小学校への自主アウトリーチを挿入した。だがしかし、クリエーションには参加者が実際に稽古する時間帯だけでなく、アーティストが振付や全体の構成・演出を考える時間が必要なのだ。それを含めた 5 日間という日数は、実はかなり目一杯で充分とは言えない。テクニカルスタッフが同行しない分、アーティストは初めての技術スタッフと限られた時間の中での共同作業となる。詰めの段階で照明の明かり作りや音響のきっかけ合わせに割く時間が押してしまい、今回はぎりぎり間に合ったものの、テクニカルの調整にもう少し余裕があったらと思った。アーティストが一度できた作品の全体像を冷静に客観的に見直し、手直しできるくらいの余裕あるスケジュールを組んでもらえたなら、更に完成度の高い作品が望めると思う。市民参加事業を参加者の満足度だけでなく一般の観客まで拡がりをもたすための、質の高さを担保する丁寧なモノづくりを期待したい。



# スケジュール

	下見	
	2/22(水)	2/23(木)
9:00		
10:00		
11:00		中浜小学校下見
12:00		↓
13:00		打合せ
14:00	集合	↓
15:00	ホール下見	終了・移動
16:00	打合せ	
17:00	↓	
18:00	終了	
19:00		
20:00		
21:00		
22:00		

	実施期間①			
	8/15(火)	8/16(水)	8/17(木)	8/18(金)
				移動
			中浜小学校撮影	
			↓	
	集合	打合せ	↓	
	打合せ	準備	打合せ	
	公募型WS	クリエイション①	クリエイション②	
	↓	↓	↓	
	終了	終了	終了	

	実施期間②				
	8/24(木)	8/25(金)	8/26(土)	8/27(日)	8/28(月)
9:00				準備	
10:00			テクニカル打合せ	ゲネプロ	移動
11:00		打合せ	公演準備	最終調整	
12:00			↓		
13:00		公演準備	↓		
14:00		↓		公演	
15:00			↓	↓	
16:00	集合・打合せ		↓	交流会	
17:00	準備	↓	クリエイション⑤		
18:00	クリエイション③	クリエイション④	↓	打ち上げ	
19:00	↓	↓	↓		
20:00					
21:00	終了	終了	照明調整など		
22:00			終了		

### 公募型ワークショップ

公募型 WS については特定の層に絞らず全年齢を対象とし、ダンスを通して体を動かすことの面白さ、その体だけを使ってコミュニケーションを取る楽しさなどを体験してもらうことを目的とし企画した。

お盆期間中ということもあり、都合が良ければ参加してみたかったという子どもや親子もいたが、それでも親子や姉妹で応募してくれた参加者に加え、会館スタッフも合わせ 17 名が参加。たまたま市内ではお盆で都合が悪かった人が多かったのか、参加者の半数以上が市外からの参加者（車で 40 分～1 時間くらいの範囲）だったことは担当として興味深かった。これはもう 10 年以上前より市内はもちろん、自主事業に関する宣伝（各プレイガイドへのチケット販売依頼、店舗や公共施設等へのポスター掲示、保育園～高校までへのチラシ配布など）を近隣の市町村へも周知し続けていることによる効果もあったのかもしれない。そうだとすれば大変ありがたい話である。

先述したように当日は親子参加も多く、中には子どもの送迎で来ていた保護者も急きょ飛び入り参加するなど、アーティストお二人の人柄もあってか、参加者たちはすぐに打ち解け、時には全員で、時にはペアやグループに分かれながら、約 2 時間アーティストと一緒に気持ちの良い汗をかいていた。未就学児の参加者も数名いたのだが、途中若干バテ気味になる大人を尻目に最後の最後まで動き回っていたことも印象的で、やはり夢中になれること、楽しいと思えることについては子どもの力って凄いなと感じた瞬間でもあった。また参加者全員、開始～終了まで体を動かしながら笑顔も多く見られたことから、アーティストの参加者に対する気持ちの乗せ方、雰囲気作りの上手さも感じ取られたワークショップであった。



## クリエイションの様子

### ●再会

2月の学校下見時より半年振りの再会となった赤丸のお二人と中浜小児童たち。ただし年度を跨いであるため、当時全校児童15名の内、4人いた6年生は中学生へ。4月より入学した新1年生は1人ということで今回共演する全児童数は12名。いきなりアーティストに抱き着く児童もいて久々の再会を喜んでいると思われたが、その子は唯一初顔合わせとなる新1年生だった！（笑）

### ●個性

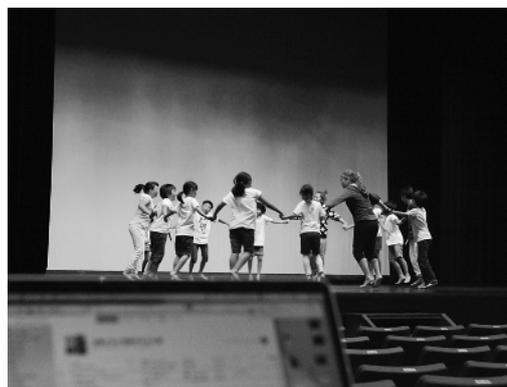
初日のクリエイションは、子どもたちの動きを見るという意味もあってか一緒に体を動かすことに重点を置いたが、2日目より全体や個々の動きの練習も開始される。要求どおりの動きをしようと努力する子、少し戸惑いながらもチャレンジする子、とにかく明るい子、途中集中力が切れる子、人数は少ないとはいえ皆ある意味自由だ。アーティスト曰く「1人1人がこんなに個性的なのは珍しい。大変なことだけど大変＝面白いしやりがいがある！」

### ●課題

赤丸さんたちがパフォーマンスでよく使用するお爺さんとお婆さんの被り物。今回の土佐清水でも使用されることになっていたのだが、お爺さんの被り物をした丸ちゃんを見るや大泣きする児童1名、怖がる児童1名、赤ちゃんのお婆さん登場を待たずしてのこの反応に、該当児童2名についてはお爺さんとお婆さんとは絡まない（見せない）方法を模索することとなった。お爺さんやお婆さん見慣れている筈なんだけどもなあ・・・

### ●約束

実はクリエイションの前半（16日～17日）はそれぞれ家庭の事情等で練習に参加出来ない児童がおり、12名全員が揃う日が無かった。が、両日共に参加出来なかったという児童はいなかったため、とりあえず皆最低でも1日はアーティストと練習出来たことは幸いであった。「皆来週までに今日までやった動きを覚えておいてね！」参加児童と約束を交わし前半戦終了。



### ●集合

6日間の充電期間？を経て24日より土佐清水ダン活後半戦がスタート。この日より中浜小全校児童12名全員が揃い踏み。皆アーティストとの約束を守り、先週教えてもらった動きについてもきちんと覚えておいてくれたようで一安心。も束の間、新しい動きや男女やグループに別れての新たな動き、立ち位置など子どもたちの覚えることはまだまだこれから！舞台に上がることの心構え、挨拶の大切さ、そんなことも学び始めた12名だった。

### ●心得

本公演が近付くにつれ、舞台練習に益々熱が入るのは当たり前な話。そこは共演者が小学生だろうが関係ない。予定より練習開始時間を早めたこの日、軽食を持参するのを忘れた児童数名が途中でバテ気味に……。練習終了後「自分のことは自分でするんよ、お腹が減ると思ったら自分で用意するか親に頼むこと。舞台に上がるということは自分に責任を持つこと」、丸ちゃん言葉はじっと聞き入る子どもたちだけでなく、担当の胸にも響きました。

### ●白熱

動きについてはかなり良くなってきた児童たちであるが、立ち位置に関してはまだまだ苦勞している様子。今まではそれぞれのパートは覚えていても、いざそれらを繋げてみると舞台に出るタイミング等にズレが出る場合も。思わず漏れた「しんどい」の言葉を丸ちゃんが見逃す訳はなく「舞台上ではしんどいとか足が痛いとか言わない約束だったよね！？返事は？」の問いかけに大きな声で「はい！」と返す児童。熱くなってきました！

### ●成長

早出練習にも積極的に参加する児童も増え、練習時と休憩時間の区別もしっかり出来てきた12名。舞台監督も合流し、本番どおりの流れで最終日のクリエーションに挑む児童たち。集中力が落ちそうな仲間がいれば誰かが励まし声を掛ける。そんな光景も多く見られた。人の話も良く聞くようになったし、返事も良くなった。赤丸さんらの指導力は勿論であるが、それらを素直に受け入れた12名はここ数日で確実に成長を遂げた。本番もきっとやれる！



## 公演

## 赤丸急上昇ダンス公演『太陽と月と奇跡の子ども達』



今年度いっぱい閉校が決定している中浜小学校。「閉校になるのだからと暗い気持ちになるのではなく、最後の年だからこそ皆で何かをやりたい」校長先生からそんな言葉が聞けたのは下見が行われる2月より前のことである。（ここと何か出来ないかな？）そう担当が思ったこの時点で赤丸急上昇と中浜小学校は出会う運命だったのかもしれない。「地元の子どもたちの様子が見たい」という赤丸さんのリクエストに対し、中浜小学校を紹介した際、実際に子どもたちと触れ合い、そして学校が今年度で閉校になるという事実を聞くなどしている内に「ぜひこの学校の子どもたちと一緒にやりたい！中浜とやれるのは今年しかない！」そんな想いから話は一気に進んで行った。公演テーマのひとつでもある「イマココミライ」という昔～現在までずっと変わらぬ思いで見守る校舎、そこに残っている記憶などを今回の公演用に映像スタッフの長井氏が校舎の様々な場所で撮った映像とリンクさせた手法も見事であったし「笑いは力」という赤丸さんだけあって、ダンス公演の中にもコミカルなシーンや演出（冒頭の掛け合いなんてまるっきり漫才だし！）そしてさりげなく地元ネタを取り入れる等して常時お客さんを楽しませてくれるパフォーマンスを披露。その中の要所で中浜小児童12名が絡んで来るのだから、これで盛り上がりがない訳はない。テーマを深く理解しなくとも、パフォーマンスをする12名の一生懸命さは観る者にヒシヒシと伝わってきたのではないだろうか。緞帳が下りたあとのカーテンコールがそれを物語っていた。

## ●来場者アンケートより（感想）

- ・感動しました。何度も泣きそうになりました。子ども達素晴らしい！！
- ・とても素晴らしかったです。子ども達の力を引き出してくれてありがとう！
- ・小学生が楽しそうにやっていて良かった。（赤丸さんら）2人の踊りももう少し見たかったです。
- ・子どもたちがとにかく生き生きとしてとても楽しそうでした。良かったです。
- ・斬新で思いがけない舞台を見せてもらいました。
- ・子どもたちが伸び伸びとしていて良かったと思います。大変だと思いますがもっと見たかったです。
- ・ドキドキして感動しました。途中から涙が止まりませんでした。ありがとうございました。
- ・出演している小学生も素晴らしかったです。赤丸さんお疲れ様でした！
- ・大変感動した。中浜小学校最高！！
- ・こんな自由なダンスを見たことがなかったので新鮮でした。自分を表現する、素晴らしい経験だと思います。
- ・仲間っていいものだ改めて思いました。感動しました。表現することは素晴らしいです。
- ・子どもたちの頑張りを楽しく見せて頂きました。元気を貰いました。

#### ●この事業への応募動機

24年度の公共ホール現代ダンス活性化事業に参加させて頂いた経緯があったが、今回は過去に事業実施した館についても申請が可能になったということがまず一点。加えてアーティストの公演やワークショップにおける出演料等に加え、その他地域創造が認める事業にかかった諸経費についてもある程度の負担をして頂けるといふ部分が、年間事業予算が潤沢でない当館のような施設にとってたいへんありがたいシステムだったこと。

のっけからお金の話になってしまったが、事業を開催する、そしてそこに人が関わるといふことは必ずそれなりの経費が発生することになる。当たり前であるが気持ちだけでは事業を開催することは出来ない。勿論、やるからには前回の経験も踏まえた上で、お客さん、アーティスト（+共演者）、そしてホールスタッフが満足いくものを創るといふ気持ちで応募したということも付け加えておく。

#### ●事業のねらいと企画のポイント

地域事情からこのような本物の舞台や生のアーティストに触れ合える機会がいちばん少ないのが子どもたちであるため、引き続きメインターゲットは子どもたち。（特に小学生）。但し、側面的に多くの小学生が参加（公演で使用する絵の提供や舞台作りの一部）してもらった前回のダン活と決定的に違うのは、今回はアーティストと同じ舞台に立ち共演するといふ市民参加型のBプログラムを選んだという点。

どうやって参加者を募るか？年齢（学年）制限をどうするか？当初はそんな事も考えたが、幸いなことに初顔合わせとなった2月の下見時よりアーティスト、中浜小学校の児童ら双方がお互いに好印象を持ったことや「閉校となる最後の年に皆で何かを成し遂げたい」と言っておられた校長先生の想いなどが上手くリンクし、今年で閉校するといふ事実を悲観的に捉えるのではなく、今年で閉校するからこそ皆で何かをやり遂げようといふ前向きな気持ちで児童全員が未知の領域であるダンス公演に挑むこととなった。その流れからして土佐清水ならではの面白いものが出来上がるのでは！？と思える企画がスタートした。

#### ●企画実施にあたり苦労した点

関わって来る関係者や参加者の人数、そして公演日までの練習日数等も考えると、とにかく事前連絡や準備は最低限きちんとしておく必要があり、勿論担当としてはそれらについて進めてはいたものの、どうしても途中で保護者から「聞いてなかった」「予定があるんですけど」といった言葉も聞かれ、その都度保護者代表さんに連絡を取り再調整してもらった事が何度かあったこと。本来であればホール側で用意すべき人員配置（今回で言えばプロジェクター係や一部の子どもについての付き添い）を諸事情により地域創造スタッフやコーディネーターさんをお願いしてしまったこと。

#### ●事業の成果と課題

市民参加型事業のひとつとして見れば成功と言っても良いのではないかと思う。参加した12名もこのダンス事業を通して成長し、皆でひとつのことをやり遂げることの大変さや難しさを知ると共に、達成感や自信も持ってくれたのではないだろうか。今回は学校や地域を中心に広がっていった理想的な事業展開にはなったが、ダンスに限らずそういった絡みが無い事業の場合だと宣伝や集客に関しても全く違う角度から切り込まないと同じような結果にはならないであろう。そういった力も付けられるホールになりたいと思う。

#### ●今後の事業展開や展望

とりあえず、今はほぼ無事に事業が終了したことに安堵しています。今回得た経験を糧に今後もこういった市民参加型事業については積極的に開催していきたいと考えております。

### ●この地域のダン活の特徴

ダン活事業プログラム改変のひとつとして、過去に実施した団体の再応募が可能になったことにより、今年度は、なつかしい顔ぶれのホールがいくつか手を挙げた。土佐清水もその一箇所である。5年の時を経て、担当者の方々の異動はなく、今回は市民参加型に挑んだ。

舞台に出演する参加者について、来年度閉校となる小学校の全校生12人を対象とすることが案としてあげられ、検討した結果、アーティストの強い希望、校長先生の熱意が尊重されて実現に至った。実施期間は夏休みに当てられ、保護者の多大な協力も得られた。

最初の顔合わせとなる下見の段階で、校長先生との話し合いができたこと、体育の授業中に児童全員と会えたことなどによって、アーティストは、早い段階から上演作品のイメージを膨らませることができた。また、一般に公募する工程が省かれたために、子どもたちがチラシの一部に字を入れるなど丁寧な準備も可能となった。

実施期間は間を1週間空けて2回に渡った。連日のリハーサルにも関わらず、途中でギブアップする子供はいない。少人数の学校ならではの家族的な関係性によって、上級生が下級生の面倒をみる、支え合う習慣が育っていた。

アーティストは、地元の誇りである英雄ジョン・万次郎をはじめ、市の歴史や子供たち一人一人の個性を十分に理解したうえで、それらを活かしたシーンや、閉鎖される学校の思い出となるように、ドローンによって撮影した学校の内部、外観、周辺の風景を作品に取り込むなど、ありあまる努力を重ね、見事な一つの作品に仕上げた。アーティストの人柄、経験値が成し得た功績は大きい。

チラシのデザインや新聞社による取材など、声をかければ協力してくれるといった地元の人々とのネットワークは、担当者が培ってきた賜物といえるであろう。また、校長先生や保護者に対して、敏速かつ頻繁な連絡のやり取りによって、衣装や小道具などの細々としたことへの連絡も円滑に運ぶことができた。

学校周辺を撮影していたドローンが山の彼方に消えた(?)時には、市長や消防隊にまで連絡が届き、連日にわたる捜索が続けられたことには驚きと感動を味わった。

こうした家族的な繋がりが、この街をつくっていつているのではないか。それは、近辺の喫茶店や食堂、居酒屋、ホテルなどで出会う人々のあたたかい話からも伝わってきた。小さなコミュニティによるメリットがあちらこちらで見受けられた。

公演は、目標数を超える集客、拍手喝采で盛り上がり、成功をおさめた。そして、なにより今回の経験を通して成長した子供たちにとって、大切な夏の思い出として実りある成果となった。

一般向けのワークショップは、お盆時期にもかかわらず、市外からの参加者もいて、宣伝が行き届いていること、興味を持っている方が多いことが確信できた。

### ●課題とこれからに向けて

今回の感動的な事業成果から、今後の明るい未来が期待できるのではないかとと思われるが、残念ながらそうそう楽観的には考えられない現実がある。5年前から毎年百人単位の人口減少、地元での職不足など深刻な問題を抱えている。子供たちの笑顔、パワーを市の財産として、地元の公共ホールがなせる策をなんとか編み出していきたい。

最後に、ダン活全般への留意点を少々述べておきたい。再応募できるようになったことは、何より喜ばしいことである。経費のサポートを得ながら、過去の経験での反省点、課題をクリアすることによって、よりよい事業を目指すことは、館にとって成長の糧となる。一方、過去の体験に縛られ、過去に上手くいったからという安心感、その思いに甘んじてしまうという危険性も孕んでいる。

舞台公演全てに言えることではあるが、ダン活もまた、担当者、アーティストをはじめ関わる全ての人によって、何から何までが異なり、その都度あらたに生まれるものである。高い志を常に持ち続けて、毎回新鮮な気持ちで立ち会っていくことは基本的なことであり、もっとも重要である。

今後も軌道修正を繰り返しながら、より良いダン活となることを切に期待したい。



# スケジュール

	下見	
	5/25(木)	5/26(金)
9:00		打合せ
10:00		↓
11:00		↓
12:00	集合・昼食	昼食
13:00		打合せ
14:00	土門拳記念館 下見	↓
15:00	↓	↓
16:00	希望ホール 下見	↓
17:00	打ち合わせ	帰途
18:00	↓	
19:00	交流会	
20:00		
21:00		
22:00		

	実施期間①			
	9/29(金)	9/30(土)	10/1(日)	10/2(月)
		土門拳記念館 見学	アーティスト稽古	打合せ
		↓	↓	↓
	集合・昼食	昼食	昼食	昼食
		アーティスト稽古	クリエイション②	アーティスト稽古
	希望ホール着 打合せ・準備	↓	↓	↓
	↓	↓	↓	↓
				帰途
	公募 WS	クリエイション①	↓	
	↓	↓	↓	
			舞台監督 打合せ	
			↓	

	実施期間②				
	11/30(木)	12/1(金)	12/2(土)	12/3(日)	12/4(月)
9:00			公演準備		
10:00		公演準備	↓	ゲネプロ	帰途
11:00			↓	↓	
12:00	集合・昼食		↓		
13:00			クリエイション⑤	開場	
14:00	打合せ		↓	公演	
15:00	↓			アフタートーク	
16:00	↓			参加者打上げ	
17:00	↓	↓	↓	↓	
18:00	クリエイション③	クリエイション④	↓	打上げ	
19:00	↓	↓	アーティストリハ		
20:00	↓	↓	↓		
21:00	↓	↓	↓		
22:00					

### 公募型ワークショップ

ダンス事業に取り組み5年目を迎え、コンテンポラリーダンスに対する市民の認知度の高まりを実感している。鈴木ユキオ氏というこれまでとは異なる世界観を持つダンサーに、高い関心と少しの不安を抱きながら参加されていたのが印象的だった。経験値の高い参加者ほど、意欲的な反応であり、鈴木ユキオ氏に対する関心の高さと期待感が伝わってくるものだった。

ワークショップには、ダンス未経験者も含む30名の老若男女が参加。鈴木ユキオ氏のカラダの使い方が少しずつ少しずつ伝えられていった。最初は、初めて出会うダンサーに、緊張した面持ちで動きも表情も硬かったが、お互いの存在がなじみ合うほどに、表情もほぐれ、呼吸も合い、鈴木氏の空気感に溶け込んでいく様子が見てとれた。力の入れ方、力の抜き方、イメージの仕方、鈴木ユキオ氏の世界がカラダをとおして伝えられていった。



## クリエイションの様子

### ●クリエイション開始

公演への参加を迷っていた子どもたちが出演を決め、鈴木ユキオ氏の市民参加作品の中では、もっとも子どもが多い作品になったといわれるほど、子どもたちの声が響くにぎやかなスタートとなった。

### ●土門拳の存在と写真の世界

リアリズムの巨匠であり、日本を代表する写真家土門拳の作品は「写真」という形で表現され、その写真の多くが記録性と強いメッセージ性を有しているものである。その世界観をダンス作品にするという初めての試みに、参加者のイメージが定まらず、戸惑っている様子が見受けられた。

### ●カラダの使い方を記憶する

鈴木ユキオ氏のダンスは、体を動かすのではなく、「動かされるカラダ」という「イメージ」を重視するものであった。振付を憶えるのではなく、カラダの使い方を記憶させ、それぞれの内部から湧き上がる衝動を表現するという難度の高いものであった。イメージを表現することは、決められた振りを踊るよりも難しい。それぞれが、自分探しをするように、突き動かされるカラダ、動かされるカラダ探しをしていたように思う。

### ●ダンスで瞬間を切り取る

写真を撮影することを、「切り取る」という言い方をする場合がある。ダンスの動きの中で「写真撮影」のシーン。鈴木ユキオ氏によって切り取られていくように静止する。写真の世界が、作品の随所に垣間見えるようになった。土門拳とのコラボレーションを実感する場面であったものと思う。



### ●シャッターを切る

シャッターを切るシーンが多いのも、この作品ゆえのこと。時代を切り取ってきた土門拳の姿なのか。参加者ひとりひとりが土門拳となり、カラダの表現の中で、瞬間を切り取っていく。土門拳の生き様を描くように。静止画、動画、一瞬を切り取って重ねてく。「動」の中で創られた写真のシーン。

### ●混沌のシーン

激動の昭和の人々の入り混じる感情、変化する社会の混沌は、「昭和」という時代の主張、そして苦悶を表現しているような場面。緩急を付けた複合的な動きは、「混沌」の意味する世界観を参加者ひとりひとりに伝えていくものであったと思う。

### ●鈴木ユキオ氏による朗読

市民ダンサーが煩悶するように踊るシーンで、鈴木ユキオ氏が土門拳の「表現」というものに関するエッセイを朗読する場面。土門拳の写真の表現、鈴木ユキオ氏によるダンスの表現。二人のアーティストが目指すものは、手段は異なっても同じであることを伝える重要な場面であったと思う。その朗読のシーンに込められた意味は、市民ダンサーに共鳴していたように思った。

### ●昭和の子どもたち

土門拳作品に昭和の子どもたちの写真が多くある。メンコ、らくがき、鬼ごっこなど屈託のない笑顔の写真、社会情勢の中で親を失くし、悲しい表情で写る子どもなど、使われた写真作品は多様で多面的なイメージを与えるものであったが、未来へ向かって進もうとする人々の希望が、市民ダンサーの表情や動きから伝わったのではないかと思う。

土門拳の伝えなかった昭和の日本。写真展にはない作品へのアプローチの仕方により、土門拳のメッセージは確かに伝わったものと思う。



## 公演

## 『土門さんとワタシ』



## ●鈴木ユキオ氏と土門拳のコラボレーション

リアリズムの巨匠 土門拳が作品の中で伝えたかったメッセージは、鈴木ユキオ氏のカラダと芸術性の高い表現をもって、酒田オリジナルの作品「土門さんとワタシ」という作品となり幕を開けた。凛として圧倒的な存在感を持つダンサー 鈴木ユキオ氏と市民ダンサーの緊張感が相まって、作品は躍動感と新しい可能性を感じさせる作品となった。

## ●静と動

土門拳作品に存在する「静」と「動」。鈴木ユキオ氏に取り込まれた土門拳の世界は、「静」の中の「動」、「動」の中の「静」となり、昭和の時代の人々の息遣いを伝えていたように思う。時代の表情を重ね合わせていくように、作品は奥行きを感じさせる構成で、昭和の時代を強い眼差しで見つめた土門拳の「生」というものを感じた市民（ダンサー、観客）も多かったものと思う。

鈴木ユキオ氏と土門拳。対峙するように並んだお二人のプロフィール写真であったが、「共演」という時を経て、見事に融和し、和やかに笑みをたたえているようにみえた。

## ●来場者アンケートより（感想）

- ・プレイバントにも行ってダブルで見たので本当に良かった。
- ・市民ダンサーの方との関係づくり、観ている私も胸が熱くなりました。
- ・表現、コミュニケーション good!
- ・心の奥の思い出を思い出させてくれました。楽しかった。

### ●この事業への応募動機

- ・酒田市には、写真家 土門拳の作品を展示する土門拳記念館がある。土門拳記念館は、酒田市にとって重要な地域資源であるが、価値観の多様化を背景に入館者数が減少するなど、土門拳の魅力を新たに発信することの難しさに直面していた。
- ・コンテンポラリーダンスは、年齢、性別、上手下手などそれぞれの特徴が個性として認められ、誰もが参加できるという柔軟性を有しているものだと考えている。敷居の高いものではなく、ダンスは身近に誰でも出来るものであることを伝えたいと思った。
- ・個性が認められる表現は、参加者にとって自己肯定感を高めることにつながり、コミュニケーション能力の向上や生きる力に繋がるものと考えている。コミュニケーション能力の低下、社会での孤立化など社会の課題に対し、ダンスを活かした取組みを行いたかった。
- ・ダンサーと地域資源、組み合わせが変われば、創りだされるもの、生み出されるものが変わって来る。その可能性が広がる面白さを伝えたい。

### ●事業のねらいと企画のポイント

酒田市出身の土門拳は、リアリズム写真を確立した写真界の巨匠である。「写真は肉眼を超える」(土門拳)という名言が示すように、土門拳の数々の写真には、土門拳の精神と気迫が伝わる作品が多い。「土門拳」の「生」に接してみることで、写真を通して表現したかった「生」と「死」の追及を改めて考える契機としたい。また、酒田市にとって重要な地域資源である「土門拳」を、ダンスという一つの表現を通し、市民に対し新しい視点の提供を行うとともに、市民にとっても大事な宝、重要な地域資源であると認識されるような取組みを行うことを目指した。

### ●企画実施にあたり苦労した点

- ・写真とダンスのコラボレーションから生まれるイメージを、コンテンポラリーダンスを知らない人に伝えること。
- ・チラシやポスターの制作にあたり、担当者が持つイメージやダンス作品に対する想いを、デザイナーと共有し、一つの作品に創り上げていくことの難しさを痛感した。

### ●事業の成果と課題

作品の創作は、ダンサー作品で完成されるものではなく、広報物の作り方、宣伝の仕方、参加者の募集、参加者含めスタッフのモチベーションの維持、作品イメージの共有など、関わる全てのことが制作するという行為に繋がっているということを確認するものとなった。

「写真」の世界観を「ダンス」という手法で表現することにより、表現の多様性と可能性を伝えることが出来たものと思う。鈴木ユキオ氏のダンスによって、市民の多くが知っていると知り込んでいた写真家土門拳から、「生ある土門拳」「主張する土門拳」というものが引き出され、新しい価値が生み出されたように思う。

作品を創るということは、奥が深く難しい。しかし、そこから生まれてくるもの、生み出されるものは、どのような視点を持つかで大きく変わってくる。今後は、ダンスの良さを活かした取組みが行われるよう、社会包摂、社会の課題解決の一助になるような取組みを行っていききたい。

### ●今後の事業展開や展望

ダンス事業の利点は、多様性に柔軟であるということ。酒田市文化芸術推進計画に基づき、より多くの市民に社会参加の機会を開き、生きる力を育む「ひとづくり」のツールとして、また、地域資源を活かし、新しい可能性を生み出す「まちづくり」のツールとして、今後もダンスを活かした事業を行っていききたい。

**●この地域のダン活の特徴**

酒田市は 2013 年度にダン活を実施し、その後、別の女性アーティストによる市民参加型ダンス公演を独自に継続実施してきた。今年度はダンス事業開始 5 年目となり、新しくなったダン活に再応募。アーティストも新たに鈴木ユキオ氏を選び、地域の文化資源である写真家 土門拳氏の作品とのコラボレーションに取り組んだ。

市民にコンテンポラリーダンスに触れる楽しさを提供するところから一步踏み込み、土門拳というテーマをアーティストに提示し、芸術性の高い作品創作の過程を市民が共有する機会としたことは、ダンス事業を継続して 5 年目を迎えた酒田市ならではのことである。上演された作品は、土門拳の写真世界に鈴木ユキオが独自の身体論で切り込み、コラボレーションならではの新しい世界を開拓し、市民に提供するものであった。市民参加型の限られた条件の中で、このような質の高い作品が生み出されたことはアーティストの力に大きくよるものであるが、継続的にダンス事業を展開してきたことにより蓄積されたスタッフと、継続的にダンスに関わってきた市民ダンサーの意識の高さなしには果たしえないことであったと思える。

今回は、ダン活事業の枠外に、プレイメントとして土門拳記念館での鈴木ユキオのソロダンス公演、公演終了後の市民カメラマンによるフォトセッションとコンクールが企画され、より複合的にダン活事業を盛り上げた。また、アフタートークでは市の担当者から企画の意図がしっかりと語られ、このような先鋭的な試みにこめられた思いが市民にむけて伝えられた。

自主事業企画運営委員会との協働も大きな特徴である。手作りの地元料理によるアーティストのもてなし、創作ワークショップの立ち会い、広報宣伝活動とチケット販売、当日の接客など、なくてはならないパートナーとして、大きな力を発揮された。

**●課題とこれからに向けて**

広報について。ここまで複合的で創作的な企画を実施することになってくると、ちらし等の広報物制作をはじめとする広報について今一度検討し直す時期に来ているかもしれない。単独の鑑賞型事業の場合はアーティスト側から提供される資料と公演データでのちらし制作はそう難しくはない。しかし、今回のような複合企画の場合、デザイナーによるデザイン作業の前に、掲載情報の整理や、企画の肝となるメッセージを書くこと、デザインの方向性をデザイナーに伝える必要もあるだろう。そして、ダンスの事業を継続的に実施していく為には、広報物を制作することだけではなく、単に集客の為だけではなく、事業を通して目指していることを広く伝えていく広報という観点をより強く意識する必要があると思う。これはいったい誰の仕事だろうか。協働の中身を今一度、整理しなおす時期がきているのではないだろうか。この大きく動き始めたダンスの芽をぜひ育てていただきたい。

実施団体	公益財団法人北九州市芸術文化振興財団
実施ホール	北九州芸術劇場
実施期間	平成 29 年 11 月 2 日(木)～11 月 4 日(土) 平成 29 年 11 月 15 日(水)～11 月 20 日(月)
アーティスト等	アーティスト:田畑真希 クリエーションのためのアシスタント(共演者):カサヤマリコ、中村理 テクニカルスタッフ等:ー
コーディネーター	佐東範一

●公募型ワークショップ(実施日時、対象、参加料、参加人数、会場)

- ① 11月2日(木) 19:00～21:00、一般(小学生以上)、無料、23名、創造工房・稽古場

●公演(演目、公演日、開演時間、出演者、入場料金、会場、入場者数)

- 『Mockup Hurricane』
- 11月19日(日) 15:00開演(14:30開場)
- 田畑真希、カサヤマリコ、中村理、市民参加者13名(ダンサー12名、尺八奏者1名)
- 一般1,000円(当日1,200円)
- 北九州芸術劇場 小劇場
- 76名



# スケジュール

	下見	
	6/6(火)	6/7(水)
9:00		
10:00		写真撮影
11:00		↓
12:00		
13:00	北九州着	市内見学 打合わせ
14:00	打合わせ	
15:00	↓	
16:00	会場下見	
17:00	テクニカル 打合わせ	↓
18:00	↓	北九州発
19:00	交流会	
20:00		
21:00		
22:00		

	実施期間①		
	11/2(木)	11/3(金)	11/4(土)
			クリエイション②
	北九州着	尺八奏者 打合わせ	↓
	打合わせ	テクニカル 打合わせ	↓
	↓	↓	
		衣裳打合わせ	
	↓		
			FB
	公募 WS	クリエイション①	北九州発
	↓	↓	

	実施期間②					
	11/15(水)	11/16(木)	11/17(金)	11/18(土)	11/19(日)	11/20(月)
9:00						
10:00		公演準備	公演準備	公演準備	公演準備	帰途
11:00					↓	
12:00					ゲネプロ	
13:00				クリエイション⑥		
14:00	北九州着			↓		
15:00	打合わせ				公演	
16:00					バラシ	
17:00		↓	↓	↓		
18:00				通し		
19:00	クリエイション③	クリエイション④	クリエイション⑤		打ち上げ	
20:00	↓	↓	↓	↓	直し	
21:00						
22:00						

### 公募型ワークショップ

#### 【まずは気軽に！ダンスワークショップ】

ダンスに気軽に触れてほしいという趣旨のもと、小学生以上であれば経験も国籍も関係なく、幅広く募集した。結果、年齢は7歳から69歳まで、ダンサーから未経験者までと多様なメンバーが23名集まった。また、中国からの留学生、市内在住のネパール出身の女性なども参加し、言葉の壁を越えたワークショップとなった。初めて劇場のワークショップに参加するという方が多く、親子や姉妹での参加が目立った。

ワークショップ序盤は、参加者は少し緊張している様子が見受けられた。中学生の女の子と40代男性がペアを組んだ時などは、お互いに恥ずかしそうにしていたが、田畑さんの動きに合わせてたり、声に合わせて動いたり、自分の思うままに動いたり…グラムが進むにつれ次第に表情も明るくなっていった。また、日本語があまり通じない参加者がいたため、大丈夫だろうか…と心配していたが、最初こそ必死に田畑さんの“言葉”を理解しようとしていたものの、徐々に身体の動きに集中するようになっていき、楽しみながら参加者同士の交流を図っていたことが非常に印象的であった。

参加者からは、「自分の殻を少し破れた気がした」「ダンス経験もなく、最初は恥ずかしかったが、だんだんと楽しくなり身体を動かす楽しみを知った」「自分の身体を知る・見る・感じる、普段しているようで改めて意識すると新たな発見があるものだなと思った」などの感想をいただき、深く楽しんだ様子が伺える。



## クリエイションの様子

参加者のほとんどは前日の公募ワークショップにも参加していたため、始まりはスムーズだった。

### ●群舞の振付を覚える

全体のポイントとなる群舞の振付を全員で覚える。上、下、わきわき、おととー！など、リズムに合わせて覚えやすいフレーズで進行し、参加者も口にしながらい生懸命覚えていた。

初日のワークショップ終了後、参加者から自宅で練習したいので動画が欲しい！との要望があり、youtubeに限定公開で動画をUPした。公演まで日数がある中、意識の高さに驚いた。

### ●ネームダンス

自分の名前をダンスで表現する。各自ネームダンスを考え、出来上がったものを田畑さんに見てもらおう。ここはもっとこうした方がいいかも！というアドバイスの元、どんどん動きがダイナミックになっていった。

### ●男の子ダンス、女の子ダンス

男の子チーム、女の子チームに別れてワンシーンを創る。男の子は中村理さん、女の子はカサヤマリコさん、それぞれ二人の動きを真似ていく。特に面白いと感じたのは、40代の女性が中学生の女の子に「ここがわからないから教えて！」と聞くなど、世代を越えた交流が生まれていた点だ。

### ●リズムダンス

足音を鳴らし、リズムを取りながらダンス。最初は全員同じリズムで、段々とずらしていく。音の響きを確認しながら、試行錯誤を繰り返し、最終的に1人が足音を踏み鳴らし、他の人達はリズムに合わせて徐々に動き出すというシーンになった。

### ●それぞれの特性を活かした振付

参加者の特技、特性を活かした振付を行う。器械体操をしている人は軟体を活かした振付、ダンサーと経験者にはソロ、高齢で体力的に厳しい人には動きはあまりないが重要なポジションに配置など、それぞれ1人1人が輝くシーン創りが行われた。



### ●尺八演奏との練習

尺八奏者のローアンさんとの稽古。本職の英会話教室の合間を縫っての参加だったため、練習時間は短かった。まずは実際に何曲か演奏してもらおう。「本曲と外曲があるけど……。どちらがいいかな？」と聞かれ、一同頭に??が浮かぶ。日本人でありながら、伝統音楽に対する知識の薄さに愕然としながらも、和やかな雰囲気のまま進んだ。お互いに意見を出し合いながら、インプロで行きましょう！と話がまとまった。

### ●追加稽古

自主練したい、との要望があったため、稽古場を早めに開放。平日の昼間に時間のとれる社会人が集まり、追加稽古を行った。このメンバーだけのシーンも創る。時間に余裕ができ、ああでもない、こうでもないとお互いに深く話し合いながらダンスについて考えることができた。大人だけのダンス、子どもだけのダンス、などバリエーションが増え、全体のバランスが良くなった。

### ●小屋入り

完成した舞台で、立ち位置のチェック。初めて舞台を見た参加者達は「すごい！」と興奮している様子だった。シーンごとに繋ぎを細かくチェックし、通してみる。組んだデッキの上で踊るシーンは、慎重に確認し進めていた。舞台の出ハケ、アナウンス、カーテンコールなども同時に決めていく。照明、音響も稽古を見ながら、劇場テクニカルと田畑さんが相談しつつプランを考えていった。

参加者同士の雰囲気も良く、日本語があまりわからない人には片言の英語と身振り手振りを交え、交流を図っているようだった。

### ●ゲネプロ

衣裳を着用してゲネプロ。今回、衣裳さんに委託して一から衣裳を作成した。参加者の気持ちも上がり、本番に向かう心構えができたようだった。



## 公演

## 田畑真希ダンス公演『Mockup Hurricane』



田畑さんの新作『Mockup Hurricane』を、公募ワークショップ参加者とクリエーションしたものを上演した。出演者は、田畑さん、カスヤさん、中村さんのダンサー3名と、尺八奏者のローアンさん、ワークショップ参加者13名の合計17名となった。参加者は7歳～69歳までの、小・中・高校生、20代、30代、40代、50代、60代と幅広い世代のメンバーが揃った。また、1年前に北九州に越してきたというネパール出身の女性や、英会話講師兼・尺八の師範というオーストラリア出身のローアンさんにもご参加いただき、性別も年齢も国籍も関係ない、不思議な家族のような結束力で作品創りを行うことができた。

ダンス経験の有無は元より、母国語や身体表現も異なる出演者に対して、1人1人が輝く形で振付けをされていく田畑さんに参加者も大いに刺激を受け、信頼を寄せている様子だった。群舞やソロ、尺八の演奏に合わせた田畑さんの即興ダンスなど、静と動、目まぐるしく変わる構成に来場者も楽しみながら集中して観ていた。

舞台美術はテクニカル打合わせの際に決定し、ものづくりの街北九州をテーマに、工場をイメージした舞台セットを作った。出演者が積み上げたデッキの一部を引っ張ると、大量の紙テープが落ちてくるという仕掛けを作ることになり、劇場テクニカルにとっても挑戦が多く、また良い経験になったと思う。

## ●来場者アンケートより（感想）

- ・観ている方も楽しくなる公演でした。最後の紙テープを持つところが良かったです。
- ・音と光の演出が良かった。
- ・短い練習期間でつくったとは思えないくらい、皆さん素晴らしかったです。
- ・無機質な舞台セットに、カラフルな衣裳が映え、ダンスにもとてもあっていました。
- ・伝統的な尺八と、現代のダンスがお互いに良いところを引き出していて、とても驚きました。
- ・子どもから大人まで、色んな世代の人が一緒に楽しそうに踊っていて、観ている方も気持ちよかった。

●この事業への応募動機

北九州芸術劇場では、以前からダンス公演・ワークショップ・アウトリーチ事業を実施してきているが、若い世代や外国の方など、アプローチできていない層があるため、これまでに培ってきたダンスの土壌に、新たな層との交流、及び観客や表現者の育成を図りたいと思い応募に至った。

●事業のねらいと企画のポイント

言葉を必要としないダンスの魅力を幅広く届け、自分の身体を知る・ダンスを知る・創るという体験を通して、地域と劇場及び参加者同士の交流、持続的なダンス事業への参加や新たな観客層の開拓をねらいとした。

- ①「国籍を問わず募集」のため、公演チラシとは別に、簡単な日本語バージョン・英語バージョンの募集チラシを作成し、関係機関に配布・設置した。
- ②ダンス未経験者や若年層が身構えず応募できるように、チラシはダンスを全面に出し過ぎないように、ポップなデザインで作成した。

●企画実施にあたり苦労した点

国籍に関係なく参加者を募りたいと考え、国際交流団体、日本語学校、英会話教室などに広くお声掛けし協力をいただくことはできたが、参加者を確保することは困難だった。「直前にならないとスケジュールがわからない」というお答えが多く、また劇場側としても国民性の全く違う方々に企画意図をうまく伝えることができなかった。結果として2名の参加となったが、もう少し時間をかけ丁寧にアプローチすることが必要だと実感した。

●事業の成果と課題

幅広い世代にダンスの魅力を知ってもらい、という点では大いに成果があったと思う。ダンス事業を続けていると、参加者がいつも同じ人ばかりになる等、どうしても偏りが生じてくる。今回、初めてダンスに触れる小・中・高校生や、親子、姉妹の参加者が集まったことは大きな収穫となった。継続的なダンス事業への参加や独自の活動を促すなど、今後に繋がっていききたい。

課題としては、集客面が挙げられる。市民参加作品のため、出演者の親族・知り合いが観に来てくれるだろうと予想していた。しかし、参加者の中には、自分が踊っているところを知り合いに見られたくない…という方が多く、思ったほど数字が伸びなかった。「踊りたい人」は年々増えているが、観客数がそれに追いついていない。純粋な「観客」を増やすために、ダンスを“観る”というハードルを下げよう仕掛けを考えていく必要があると感じた。

●今後の事業展開や展望

新たに繋がりのできた国際交流協会や日本語学校との関係性を活かし、各方面での可能性を探り事業を展開していきたい。また、今回のノウハウを活かし劇場自主事業などで市民参加企画を継続しつつ、一過性で終わらせることなく地域との交流を持続していく。

### ●この地域のダン活の特徴

北九州芸術劇場での、ダン活 B プログラム。アーティストは田畑真希さん。ダン活のプログラムが A/B/C の 3 つに分かれて、初めての B プログラム＝市民とのダンス作品作り＋発表である。北九州芸術劇場はこれまで様々なダンスプログラムを行なってきたので、ダンスのワークショップや公演の実施は何の心配もないが、初めてのダン活 B プログラムということで、果たしてこのスケジュールで大丈夫なのが一番の心配事であった。6月6-7日打ち合わせ＋チラシのための写真撮影。11月2日公募ワークショップ、3-4日クリエイションワークショップ、11月15-18日クリエイションワークショップ、19日公演！！

今回のダン活 B プログラムをどのように行うか、テーマは何か、対象は誰にするかを 6 月の打ち合わせで話し合う。この 2 日間で全体の目鼻を付けなければいけない。小倉駅に着いてから、次の日に帰るまで、濃密な時間が続く。北九州芸術劇場ではこれまでも様々なダンスのワークショップや作品づくりが行われてきているので、ダン活ならではの新しい挑戦も試みたい。その中で参加者の対象を、これまで行ったことのない、国籍を問わず、世代も子供から高齢者まで幅広い形でやってみようとなった。どのように北九州に住んでいる外国の方に声をかけるか、果たして可能なのか。そうなると、公募ワークショップを行って、はじめて顔を合わせて、次の日からすぐにクリエイションを行うことが、大丈夫かなど、心配事も増えてくる。新しい試みを行うことは、イコール心配事が増えるということ。そこをどのように解決していくのか、乗り越えていくのか、からしか始まらない。ダンスの公演を行ったことのないところでは、そんな無理やでと、やめるのだが、しかしそれらの心配事を乗り越えるスタッフが、北九州芸術劇場にはそろっている。打合せの中で、一番驚いたことは、テクニカルスタッフの対応力であった。いろんなダンスのプロジェクトを行ってきたのだと思うが、田畑さんの出すイメージを、テクニカル的にどのように具体化していくか、形にしていくかをとても積極的にアイデアを出してくれる。このようなスタッフを抱えている劇場は、日本広しと言えども、本当に数館しかないのではなからうか。そして山中さんや広報の一田さんなど、制作陣もとてもしっかりしていて、私は最後まですべて頼りっぱなしであった。

どうなるかと思っていた、11月2日の公募ワークショップ。心配は、スタジオに入った瞬間に吹き飛んだ。小学生から、年配の方まで幅広い参加者。外国人は、ネパールと中国の方だけだったが、いてくれることが素晴らしい。そして北九州在住のオーストラリア人の尺八奏者！も参加してくれることになった。そして、何よりもほとんどの方は、公演までやるぞ！という気合がはっている。田畑チームは、田畑さん、カスヤさん、中村理さんの 3 人のダンサー。初めての公募ワークショップで、ここまでやるかというぐらいの密度とスピードのワークショップ。この時の振付が、その後のワークショップの中で繰返され、公演の時には、頭ではなく全員の身体の記憶になり、自然に踊れるようになるとは、この時は誰も知らない。小学生の男の子も女の子も、そのスピード感のある振付に食らいついていく。ここはどこなんだという感じ。そんなダンスを待っていました、という気持ちが伝わる。田畑さんの気合がみんなを動かすのか、みんなの気合が田畑さんを動かすのか、分からなくなってくる。そんなことは、なかなか起きない。ダンスのプロジェクトを長年にわたり続けてきた劇場の力なのかなと思った。

全部で、6 日間のクリエイション期間。7 日目に公演というとてもハードなスケジュール。そのなかで、衣裳も専門スタッフが入り、それぞれに合わせた衣裳をデザインし、制作するというとても贅沢な環境。テクニカルも、公募ワークショップの際には、舞台デザインのミニチュアまで出来ているという、完全なプロダクション体制。地元の参加者たちは、ワークショップの時間だけではなく、田畑さんたちに振りを youtube にあげてもらい、それを見ながら自分たちでも家で稽古をするという。早く来れる人は早く来て自主稽古。参加者の一人一人が個性的で忘れたいが、中でも、お母さんと小学校 5 年生の親子での参加者が印象深かった。普通だったら、お互いに頼ったり、気にするものだが、この 2 人はワークショップ中全く自立して、それぞれが必死に踊っていた。他の小学生、中学生、高校生も、同じように、それぞれが自立していた。たぶん田畑さんのワークショップの方法が、絶妙に、それぞれを自立させる気配りがあるのだろう。

最後の公演は、この短期間にここまでやるかというほどの内容だった。良かった。誰に頼ることなく、出演者がみんなのびのびと踊っていた。あの初日に振りつけられた踊りは、完全に自分たちのものになっていた。出演者、舞台監督、照明、音響が、一体化していた。スケジュール的に時間が足りないことを心配していたが、田畑さんたちが綿密な計画を立て、参加者とスタッフが同じ思いを持ってたなら、こんなにも、その時間的な制限を乗り越えられるのだと思った。もしかするとその時間的な制限があるからこそ、特別なエネルギーが出たのかもしれない。参加者それぞれにとっても、あの時間は忘れられないものであった、と思う。

### ●課題とこれからに向けて

豊橋の PLAT と同じく、ぜひ地域発のダンスカンパニーを立ち上げてほしい。そして地元の方々だけで公演を打てるようになってほしい。北九州芸術劇場や豊橋 PLAT のようにダンスのプログラムを行えば、新しい地元発の振付家やダンサーが育ってくるというモデルを作れたらば、他のホールも挑戦しようと思うので、ぜひもう一段階上に行ってほしい。

今回の北九州芸術劇場でのダン活が、私にとっての最後のダン活の現場でした。このような素晴らしいダンスの現場に立ち会えたこと、心から感謝します。今年度で、コーディネーターが一新しますが、今後もダン活が続いて、各地でダンスの種を植えていくことを、期待しています。これまで大変お世話になりました。ありがとうございました。

実施団体	公益財団法人西宮市文化振興財団
実施ホール	西宮市フレンテホール
実施期間	平成 29 年 11 月 17 日(金)～11 月 20 日(月) 平成 29 年 11 月 23 日(木・祝)～11 月 27 日(月)
アーティスト等	アーティスト:東野祥子 クリエーションのためのアシスタント(共演者):カジワラトシオ、吉川千恵 テクニカルスタッフ等:斉藤洋平
コーディネーター	花光潤子

●公募型ワークショップ(実施日時、対象、参加料、参加人数、会場)

- ① 11月17日(金) 19:00～21:00、どなたでも、無料、52名、ホール

●公演(演目、公演日、開演時間、出演者、入場料金、会場、入場者数)

- 『CHRONOPHOBIA』
- 11月26日(日) 15:00開演(14:30開場)
- 東野祥子、カジワラトシオ(音楽)、ケンジルピエン、吉川千恵、マツキモエ、菊池航、池端美紀、川瀬亜衣、市民参加者 33名
- 一般 1,000円 高校生以下 500円(アミティ友の会 800円)
- 西宮市フレンテホール
- 87名

東野祥子 ANTIBODIES Collective  
ダンスパフォーマンス西宮公演

ダンス×音楽×映像×空間×光×時間

CHRONOPHOBIA

2017.11.26 15:00 開演(14:30開場) 西宮市フレンテホール

チケット料金: 2017年10月13日現在 | チケット価格自由 | 一般 1,000円 | アミティ友の会 800円 | 高校生以下 500円

チケット取扱: 西宮市民会館 0798-33-3111 | フレンテホール 0798-32-8580 | ロックランド(LiLi) F06420

ANTIBODIES Collective

講師:東野祥子  
共演:カジワラトシオ  
共演:斉藤洋平  
出演:ケンジルピエン 吉川千恵 マツキモエ 菊池航 池端美紀 川瀬亜衣

参加者募集!!

A トライアル・ダンスワークショップ  
11/17(金) 19:00-21:00

B クリエーション・ダンスワークショップ  
11/18(土) 16:00-18:00 19:00-21:00  
11/19(日) 14:00-16:00 19:00-21:00  
11/20(月) 13:00-21:00 11:00-17:00

2017.11.17(金) 19:00-21:00 無料

2017.11.18(土) 16:00-18:00 19:00-21:00 1,500円  
2017.11.19(日) 14:00-16:00 19:00-21:00 1,000円  
2017.11.20(月) 13:00-21:00 11:00-17:00 500円

西宮市文化振興財団 TEL 0798-33-3116

# スケジュール

兵庫県西宮市／西宮市フレンテホール

	下見	
	5/18(木)	5/19(金)
9:00		
10:00		市内見学
11:00		↓
12:00		昼食
13:00		別会場下見
14:00	集合	打ち合わせ
15:00	打ち合わせ	別会場下見
16:00	↓	帰途
17:00	ホール下見	
18:00	↓	
19:00	交流会	
20:00		
21:00		
22:00		

	実施期間①			
	11/17(金)	11/18(土)	11/19(日)	11/20(月)
				帰途
			準備・受付	
			クリエイション②	
		準備・受付	↓	
集合	クリエイション①	時間外稽古		
打ち合わせ	↓	↓		
準備・受付	アーティスト稽古	撤収		
公募WS	↓			
↓	撤収			
撤収				

	実施期間②				
	11/23(木祝)	11/24(金)	11/25(土)	11/26(日)	11/27(月)
9:00		機材搬入	技術チェック		
10:00		仕込み	↓	準備・受付	帰途
11:00		↓	↓	リハーサル	
12:00		↓	準備・受付	↓	
13:00	準備・受付	各部署チェック	クリエイション⑤		
14:00	クリエイション③	↓	↓		
15:00	↓	↓	↓	公演	
16:00	時間外稽古	↓	↓	↓	
17:00	↓	↓	↓	交流会	
18:00	撤収	準備・受付	↓	撤収	
19:00		クリエイション④	↓		
20:00		↓	↓		
21:00		追加稽古	撤収		
22:00		撤収			

### 公募型ワークショップ

公募型 WS の実施にあたっては年齢の制限を除外し、「トライアル・ワークショップ」と銘打って 1 日限りの無料体験とした。ポイントとしては、ここから何人が翌日以降のクリエイションに参加してくれるかという点であり、「継続してクリエイションへの参加も可能」、「プロの舞台創作に自分も参加できます」という触れ込みを前面に出して募集を開始した。市内全戸配布の市政情報誌に大きめの記事で掲載して頂いたのが功を奏したのか、募集開始から約 2 週間で定員予定の 30 名を上回り、最終的に 50 名を超える応募があった。

参加者は、下は 3 歳～上は 69 歳まで。ダンス経験者もいれば未経験者も少なくなかった。これまで何度か事業のチラシをお送りしていたが、なかなか接点が出来なかった市内大学のダンス部が部員全員で参加してくれる等、明らかにこれまでの財団事業の実施範囲では出会うことのなかった多彩な顔触れの市民の皆様が、彼らの方からこちらに来てくれたというのは非常に価値がある事だと感じた。

当初予定していた 30 名を超える 50 名の参加ということで、会場は文字通り熱気に包まれていた。大人に混じって参加していた小学生の一人が「これは楽しい」と母親に話していたのをはっきり耳にした。担当者としては確かな手応えを感じた。ただ、やはりそんな中でも、終了後に自分にはしっくりこないと言う方もいらっしまった。仕方の無いことだと思う。逆に「面白かったので本番も出たい」と回答をくださる方もいたし、「本当に出たいけどどうしても予定が合わないのでまた企画してください。」とわざわざ伝えてくださる方もいた。十人十色である。結果としてトライアルが終わった段階で、36 名の参加者の方々が翌日からのクリエイションへの参加意志を示してくださった。数字的にも上々の内容だったと言える。



## クリエイションの様子

### ●参加者の推移

トライアル WS 時に 36 名の参加希望があったクリエイションだが、全員に最後まで参加頂いた訳ではなかった。諸々の事情により期間中に 3 名が離脱、本番は合計 33 名で行われることとなったことを最初に述べておきたい。

### ●全体シーンとペアダンスの稽古

前半週のクリエイション初日、東野さんはまず、全員参加のシーンを構成していく。

本番で想定される全員の出演するシーンをそのまま流しでやってみる。参加者の皆さんも少し意外に思われたかもしれない。初日から早速ギアが入る。

続いてペアのダンスシーンに関してのパートナー分けが行われる。初めて出会った人々同士で絶妙な組み合わせのペアが作られていった。

中でも数少ない男性参加者の一人である 69 歳の方が印象的だった。

トライアル WS 終了後は本番の参加に関して非常に迷っておられたのだが、東野さんからコミュニケーションをとって頂いたこともあり、翌日以降の参加を決意され、自ら趣味の乗馬に使うハットをもってきて「これ衣装にどうですか？」などと言って頂けるまでになっていた。長年乗馬と社交ダンスをやって鍛えられているのだろう、舞台での立ち姿が大変美しかった。本番では、これまた姿勢の美しい、芦屋市でヨガ講師をされているという女性をパートナーに迎え、得意のソーシャルダンスの技術を存分に発揮してくださった。

### ●放課後練習

全体練習の終了後、初日から早々に時間外の特別練習の時間を設けた。

時間の許される参加者のみ、約 30 分～1 時間の延長ワークショップを行い、参加者が帰宅後はカンパニーのダンサーのみでのパート練習を行った。

少ない時間の中、出来るだけ現地会場で稽古をするのはダンサーにとって必要な事だった。ホールスタッフの協力も得て、期間中は時間と体力の許す限り、会場を利用して頂いた。



### ●女子大生の群舞

武庫川女子大学ダンス部 13 名には、他の参加者と比べ、初日からよりハードな振付が与えられた。

激しく素早い動作が求められる故に、時には乳酸値が上がり過ぎて振りについていけなくなるメンバーも見受けられたが、みんな最後まで本当に熱心に取り組んでくれた。

「参加費が安いし、絶対勉強になると思った」という彼女達は今回誰に言われるでもなく自発的に応募してきた。大学のダンス部には過密なスケジュールがあり、周囲が思っている以上に忙しいと伺っている。そんな中、全員で参加してくれたのは私の立場から言ってとてもありがたい話だった。

### ●音楽と映像の合流

後半週 1 日目に音楽のカジワラさん、翌日午後に映像の斉藤さんがそれぞれ小屋入りされ、音とビジュアルが加わったことでついに作品がその姿を現した。

音楽と映像のお二人の仕事は今回の公演では本当に大きな拠り所となった。「ダンスの枠組みを超えて、ここに関わる人々全員でこの総合舞台芸術作品を作ります。」と切り切れる形の事業になった様に感じた。

### ●市民参加型事業とプロの現場について

ダン活の B プログラムで行えることは舞台芸術のプロフェッショナルの現場体験をその町に住む一般の皆さんに提供し、観客として訪れた参加者周辺の皆様にも紹介できるという点に価値があると思う。その点で東野さんのカンパニーは各ポジションのスタッフワークが際立っていた。創作体験を提供するという意味で、非常に伝わりやすいと感じた。

前半週の早い段階でシーンの骨格はほぼ作られていったし、後半週は宿舎に戻ってからほとんど音響の編集作業等をおこなわれてお聞きしている。東野さんをはじめ、カンパニーの方々の、芸術家としての仕事の多様さと、それに向き合う姿勢には頭が下がる思いであった。



## 公演

フレンテ・ダンスジュエルズ＃9 東野祥子[ANTIBODIES Collective] ダンスパフォーマンス 西宮公演『CHRONOPHOBIA』



フレンテホールは通常の舞台使用では可動のひな壇式になった客席を利用するのだが、それを壁中に収納すると一般的な大ホール並みのスペースが確保できる。逆に通常使用では、ダンスをするには十分なステージの広さがとれないので、客席数を減らした上での平土間での実施を提案し、東野さんにもご賛同頂いた。通常のホール利用では使いにくいだけの白い壁面にプロジェクターで映像を投じるというアイデアは、このホールにとっては全く新しい可能性を切り開く利用方法だったと思う。また、通常の舞台面が客席となることもあり、音響照明ブースの中もアクティグエリアとして利用した。ブースの小窓の中でライトに照らされる演者が見えるのは新鮮だった。

逆方向で利用するが故に、ホールの構造と作品の都合上、入場できる場面に制限があり、遅れ客の皆様には楽屋の通路を通過してご案内するより外なかった。公演中にバックステージを通すのは少々心苦しいのだが止むを得ない。フロントの職員と密に連絡をとり、出来るだけ丁寧に遅れのお客様を誘導する様努めた。

お客様の感想は良かったという意見と、何が何だかわからないという意見の両者が混在していた。アンケートにこれだけ正直な反応が出る公演も珍しいと思った。

本当に興味のない内容にわざわざ人は感心を向けない。いろんな意見が出るのはそれだけ作品自体のインパクトがあったからに他ならないと思うし、実際に上演されたものを観て、私自身もこれは面白いと思った。今までこのホールで上演される機会のない類の舞台芸術を観ることができたという点でも意義があることだと感じた。

### ●来場者アンケートより（感想）

- ・想像外のとても良かったです！まだまだ観たいと思いました。是非続けてください。(60代女性)
- ・何を表現したいのか何1つわからない。(40代男性)
- ・映像と若さ溢れるダンス、動きがとても良かったです。(60代女性)
- ・神秘的だった。とても素晴らしかった。(10代女性)
- ・内容が少し重くてしんどかった。(50代女性)
- ・市民参加のレベルを超えていますね。とても良かったです。(40代男性)
- ・「3歳から69歳」ときいて、「市民発表会」みたいになるかと思ったがとてもレベルの高い公演で驚いた。(50代男性)
- ・怖かったけどすごかったです。迫力があって子供たちのところは可愛かったです。(10代女性)
- ・はじめてのパフォーマンスダンスを観ました。私の理解力がないのか、何を訴えたいのかよく分かりませんでした。でもとてもしなやかな体で伸びやかに思いっきり表現をされていたのでインパクトはありました。これから又こういうダンスがあれば観たいと思います。「主題は〇〇です」と一言言って頂ければうれしいのですが…。(50代女性)

●この事業への応募動機

当財団では近年、公演やワークショップ等のダンス事業を独自に実施していたが、継続性のある参加者の確保に至っていない状況があった。今回ダン活のノウハウをお借りし、ダンスを「まちづくり」に利用する可能性を改めて試行したいと考え、今回の応募に至った。

●事業のねらいと企画のポイント

市内の高校にはダンス部の盛んな学校もいくつかあり、大学にもダンス部や舞踊専攻を擁する学校が存在している。今回は主として若い世代に創作のプロセスを体験してもらい、今後の企画に率先して参加して貰えるような人材を発掘したいと考え、まずは8月に、ダン活とは別予算で東野祥子さんによる高校生以上を対象としたダンスワークショップを実施した。そこに来て頂いた参加者を3カ月後の本番の公演へ呼び込もうと試みたが、期待値ほどの参加者数は確保できなかった。ターゲットにしていた高校、大学生といった若い世代の参加者も、テスト期間直前等の理由で11月は全員が参加を見送る形となり非常に惜しかったが、前項で述べた通りその後の結果は好転した。予想外の展開に担当者としては正直拍子抜けしたが、同時に西宮市のダンス文化に対するポテンシャルを感じた。

●企画実施にあたり苦労した点

制作的立場としては、小屋入り後は現場の創作状況の流れについていくのみであり、アーティスト側のリクエストを満たせず申し訳ない場面もあった。ただ、もっと早い段階で伝えて貰えればと思う内容もあったし、ホール側の技術スタッフにとっても、そういう場面はあった様に見受けられる。

事前のスケジュールも役に立たず先の読めない現場というのはよくあるものだし、正味6日間という超短期間で作品を形にするのには、その場でしか判断出来ない事が多くなるのは重々理解出来る。主催者側としても現場の要求には応える義務があるのだが、決定が間際になればなるほど、本事業に関わりのある人々はおろか、関わりのない人々の生活をも巻き込んでしまう可能性もあることは、担当者としては留意しなければならないポイントだった。

●事業の成果と課題

最終的に市民参加の出演者は全体の60%が市内在住、もしくは市内在学の方で構成された。当初目標としていた若い世代の参加者の獲得は、武庫川女子大学のダンス部が全員参加してくれた事などにより、若い世代のニーズも満たす事業が我々にも実施出来るのだと自信を得る結果となった。もちろん市外遠方からお越し頂いた方々も皆素晴らしいエネルギーだった。この場でなければ会うことのない参加者の皆さん同士の遭遇に、充実した舞台創作の時間を体験して頂けたのではないかな。

一方、公演チケットの販売数は最終日まで伸び悩んだ。当日券のお客様に恵まれ最終的には80名を超えたが、広報に関して当初からもっと細かく計画的にやれば更に良かったのかもしれない。しかしながらそれを充足させることこそが、今の我々にとって一番難しい点であることを再認識した。限られたリソースの中で何処に何をどうやって発信するべきか、最適な方法を早く見つけ出したい。

●今後の事業展開や展望

財団としては来年以降も独自の企画として市民参加型のダンス事業を継続していきたいと計画している。20代～30代対象のショーケース型ダンスイベントも既存の事業として存在しているので、今回獲得できたコミュニティをどれだけ上手く融合できるかが今後のダンス事業を継続していく上で鍵となりうるだろう。日々の業務に忙殺される中、なかなか細かなところまで考えが及ばない事も多々あるが、出来るだけ参加者の皆さんの顔を思い浮かべながら、良い企画が出来る様、知恵を絞っていきたい。

### ●この地域のダン活の特徴

西宮市文化振興財団はプロセニアムの大ホールを有する市民会館と、JR 西宮駅前商業ビルに併設されているスタジオ形式のフレンテホールの2館を管理運営している。市民参加事業の新たな参加者層と観客の開拓を目的に実施された今回のダン活では、フレキシブルな会場設営を可能とするフレンテホールが会場に選択された。アーティストは東野祥子。可動式客席をハッチバックに収め広い平土間の3分の2を舞台に見立てて、その三方の壁面に映像を投影するなど、ホール空間の新しい使い方への挑戦を試みた。出演者が左右の出入り扉の端から端までを一行に横断する大胆な構図に音と映像、光の効果を駆使した演出など、普段の会場では見られない別世界を出現させ、観客に新鮮な驚きを与えた。東野率いるアート集団 ANTIBODIES が近隣の京都を拠点に活動していることから、6人のダンサーと音楽、映像のスタッフが参加し、いつもながらにスケールの大きい作品創作となった。参加したのは3歳の幼児から得意の社交ダンスを披露した69歳のお父さんまでと、多種多様な市民が集まり総勢38名の大所帯となった。公募ワークショップには50名が参加し、予想外の盛況ぶりに事業担当の田北氏も驚いた。「公募の為の広報は普段通りのやり方で特に変わったことはしていない。何が功を奏したのか？」と彼は首を傾げているが、応募者の6割が市内在住、在学ということから窺うと、西宮にはダンスに興味がある潜在的ダンス人口がそれだけあるということだろう。

### ●課題とこれからに向けて

今後も市民参加によるダンス事業を継続したいとする財団にとって、その潜在的ダンス人口をどうやって開拓していけるかが鍵となる。今回は出演者が多かったのにチケットの購買に繋がらず観客動員に苦戦した。担当者は当初出演する市民38人が各自3人連れて来れば100人を超すと楽観視していたようだが、結果参加者の友人知人だけを頼りにしてはだめだと言う苦い教訓となった。

ダンスの観客をどうやって育成するか、どのように情報を届けるか？幸い近隣には大学対抗のダンスコンペを毎年開催している神戸文化センターやダンスの顧客を持つ Dance Box、演劇や音楽で人気を博す神戸アートビレッジセンターなどがある。そうした劇場と連携し、阪神エリアのダンスの観客を掘り起こす“面”での開拓という長期的戦略が必要だと思う。ダンス事業のキーパーソンである大谷氏に面談し助力や助言を仰ぐなど、担当者や劇場自体の人的ネットワークを構築していくことを勧めたい。

一方、市民参加事業を支える制作基盤を固めることが重要だ。舞台経験が無い老若男女が多数参加する事業では、舞台上の安全や一人一人の状態をケアするスタッフが必要になる。正直今回の出演者の人数や作品規模、技術の複雑さなどを考えれば、財団職員2人で回すのは非常に大変だったと思う。他のセクションからの応援スタッフの補充やボランティアスタッフの育成なども今後の課題であろう。今回は近隣の大学からダンス部総勢13名が参加したが、彼らの若いエネルギーがプロジェクトに大きな活力を与えたように感じた。彼らがこれからのホールのダンス事業を協力・応援してくれる機動力になってくれればと期待する。今回の縁を切らさずに今後に繋げて行って欲しい。同様に技術スタッフとの連携も必要不可欠だ。言うまでもなく舞台の安全を担保する舞台監督の存在は重要だ。今回のように前日のゲネプロに外部発注した舞台監督が不在という事態があってはならない。安全かつ創造的なクリエイションの環境を整える制作体制を土台に、より良い市民参加事業を推進して行って欲しい。



# スケジュール

兵庫県豊岡市／豊岡市民プラザ

	下見	
	7/20(木)	7/21(金)
9:00		写真撮影
10:00	豊岡着	↓
11:00	打ち合わせ ホール下見	↓
12:00	チラシ写真 撮影場所下見	昼食
13:00	地域資源視察	地域資源視察
14:00	↓	↓
15:00	↓	↓
16:00	↓	打ち合わせ
17:00	打ち合わせ	
18:00	↓	帰京
19:00	交流会	
20:00		
21:00		
22:00		

	実施期間①			
	1/11(木)	1/12(金)	1/13(土)	1/14(日)
		客席組み	アーティスト稽古	テクニカル 打ち合わせ
		↓	↓	
		昼食	準備	準備
	豊岡着	アーティスト稽古	クリエイション②	クリエイション③
	打ち合わせ	↓	↓	↓
	リノ敷	↓	↓	↓
	↓	↓	↓	↓
	準備	↓		
		準備		帰京
	公募 WS	クリエイション①		
	↓	↓	↓	
	↓	↓	↓	
	交流会			

	実施期間②				
	1/18(木)	1/19(金)	1/20(土)	1/21(日)	1/22(月)
9:00					
10:00		公演準備	場当たり	通し	帰京
11:00		↓	↓	↓	
12:00		昼食	昼食		
13:00	豊岡着	明かり作り	クリエイション⑤	開場準備	
14:00	打ち合わせ	↓	↓	開場	
15:00	フォーカス	↓	通し	公演	
16:00	↓	↓	↓	↓	
17:00	アーティスト稽古	↓		撤収	
18:00	準備	準備		↓	
19:00	クリエイション③	クリエイション④	ゲネプロ	↓	
20:00	↓	↓	↓	交流会	
21:00	↓	↓	↓		
22:00					

### 公募型ワークショップ

豊岡では舞踏 WS の例は過去になく、豊岡ではまだなじみの薄い存在であったことから、まずは、舞踏がもつ世界観を通じて自由な身体と心の動きを体験していただくことを目的とした。対象者は高校生以上の一般公募市民。ダンス WS は初めてという高校生から 60 代までの方々が集まった。

舞踏の入り口は「自分が身体を動かすのではなく、何かに“動かされている”」という感覚に出会うことから。初めは、肩をぶらぶらと揺らしたり、アキレス腱を伸ばしたりとストレッチのような動きをじっくり取り組み、固まっていた体と心の力をゆっくりとほぐしていった。慣れてきたところで、「頭のでっぺんに糸がついていて、それが引っ張られているイメージでグーッと背筋を伸ばしてみる」といった、外の世界のイメージが自分の身体に与える影響をじっくり感じるワークへと移行していった。次は、「緊張と弛緩」。しゃがんでうずくまる状態を 0、両手両足を上げて顔も口を大きく開ける状態を 100 として、0 と 100 を交互に繰り返す。慣れてきたら、「100」の時に好きなポーズをとってみる。“いい意味で、いかにバカになるか。考えないで、とにかくやってみましょう”という田村さんの言葉を受け、参加者は様々な形の「100」を生み出した。

休憩後、大駱駝艦の踊りはどういうものなのかを映像で鑑賞し、大駱駝艦の踊りが「なぜこうなったのか」を学ぶ。参加者たちは、宙体、鋳型や鷹赤児さんの天賦典式の考えなどに聴き入った。そしてそれら舞踏の考えの骨子を踏まえ、より“密度”の濃い舞踏の動きへと入っていく。外からの影響で身体が動かされるのを感じる「宙体」、ある瞬間の状態をそのまま保つ「鋳型」など、様々なアプローチで体験していった。最後は、WS 中にでた要素をすべて登場した振付けを踊った。WS 終了後、参加者たちからは「頭と身体が研ぎ澄まされた感じがする。不思議な体験」と新しい世界に触れた楽しさが語られた。



## クリエイションの様子

### ●大駱駝艦体操

自己紹介のあとは、身体をほぐすストレッチから。大駱駝艦でやっておられる「大駱駝艦体操」で丁寧に身体をほぐしていった。その後は早速振付けに入っていく。クリエイションWSの参加希望者は、原則公募WSに参加することを条件としたことで、田村さんの「宙体」、「鑄型」といった言葉をスムーズに受け止められていた。

### ●高まる“密度”

まずは振りを覚えてもらい、そこから踊りの密度を高めていく形がとられた。2日目にも関わらず、あっという間に振り写しが進み2シーンが生まれた。魍魎魍魎が現れるシーンでは、触手のような指の動きを意識することでぐっと引き込まれる場面が生まれた。動きの起点と終わりを揃える事を意識することで、不思議と踊りがそろっているように見えてくる。

### ●個性を活かす

クリエイションWS参加者は、地元市民劇団に所属するメンバーが多く、演劇的な演出にもそれぞれの個性を發揮していただけた。魍魎たちが「箱から宝物を取り出す」という振り付けには、宝物って何だろう、どうすれば密度のある動きが出来るかを田村さんと相談しながら、思い思いの宝物の表現を追求していった。

### ●作品の説明

振り写し、演出がどんどん進んでいく中、今回の作品『ヒボコノコ』について田村さんから随所で意図が披露されていき、次第に公演のディテールが浮き彫りになっていく。地元で古くから祀られている「アメノヒボコ」という神が基となっていることなどをお話しいただいた。演出意図を全員で共有することで、作品がより厚みを増した。

### ●復習

参加者全員がそろそろ日が少ない中ではあったが、稽古映像をネットで共有し、休んだ日の稽古で起きた新しい出来事を復習できるようにした。揃う事ができた日は、群舞を中心にくり返し練習を重ねていった。



### ●人を神にする

アメノヒボコを神とするシーンでは、儀式のような演出が加わった。「一つ間違えると、儀式が失敗して、何かとても恐ろしいものになってしまう、というくらいの緊張感をもって」という言葉で、出演者の動きの密度を集約し、空間全体で神をつくりあげるような力強さが生み出された。

### ●「歩き方」の稽古

シーンの移り変わりや、袖にハケる際、舞踏から素に戻って身体が崩れがちになる部分が見受けられた。そこで、身体の動かし方をもう一度しっかり見つめ直し、「舞台袖にきちんと入るまでは観客に見られている」という意識を保とう、というアドバイスが送られた。大駱駝艦の稽古でも取り入れられている歩き方を、じっくりと床と対話をするようにくり返し練習した。

### ●地域資源「コウノトリ」

豊岡は、国内では一度絶滅してしまったコウノトリの野生復帰活動で注目されている。エンディングに近いシーンでは鳥が首から提げた「赤い玉」を優しく運んでいく群舞があらわれた。アメノヒボコ伝説では、赤い玉はアカルヒメという美しい女性に変化するが、このシーンでは赤い玉の意図を限定せず、「命」や「大切なもの」として扱うことでコウノトリとアメノヒボコのイメージを新しい視点で表現された。

### ●パートに別れて練習

公演間近になり、くり返しで動きを体に覚えさせるために、2組に分かれてシーンの練習を繰り返す。1組が田村さんのアドバイスを受けて動きの練度を稽古する間、もう1組は別場でアシスタントの方々のアドバイスのもと練習に励んだ。

### ●公演直前まで試行錯誤

当日の朝の最後の通し稽古。舞踏とは何か、その世界の入り口を覗いた参加者たちは、作品をそれぞれの身体で味わいながら公演に臨んだ。



## 公演

## 大駱駝艦・田村一行舞踏公演『ヒボコノコ』



豊岡に古くから祀られている神「アメノヒボコ」の伝説を元に制作された、約 70 分間の作品。「豊岡ならではの作品を」というこちらの希望を田村さんにお伝えしたところ、出来上がった作品は下見の際にご体感いただいたすべての要素が独自の視点でそこかしこに取り入れられており、豊岡にとって宝のような作品となった。

公演参加者は一般公募市民 11 名。地元劇団に所属しているメンバーが大勢を占めた。別事業での公演に臨んだ経験がある市民を中心に、お互いに振り付けを教え合ったりするなどの様子が伺え、参加者の雰囲気、モチベーションが高いレベルで維持していたように感じられた。

当初は客席の設定をホールのスタジアム席を予定していたが、舞台と観客の距離感を考え、100 席の仮設客席で設営した。この客席設定数は豊岡発の舞踏公演ということもあり、席間に余裕をもった定数であった。公演 1 週間前から参加者の口コミを中心に急激に申込みが増え、結果的に公演当日には設定数を越えたお客様にお越しいただいた。

今回、初めてのジャンルの公演を広報にするにあたり、チケットの web 販売の導入、フリーペーパーに有料広告を出すなど新しい客層へのアプローチを試みた。公演終了後のアンケートでは「初めてプラザにお越しくくださった方」が通常事業より多く見受けられ、新しい層との繋がりが生まれたことが伺えた。

## ●来場者アンケートより（感想）

- ・舞踏というものを初めてみて、想像とまったく違い、素晴らしかったです。体の動きだけで、人を魅了させていてすごかったです。ダンスのように得意、不得意とかでなく、それぞれが作りあげたものが、舞踏なんだと感じました。本当に感動しました。次の機会があれば挑戦してみたいです。皆さんきれいでかっこよかったです。(10代・女性)
- ・最後までよく分からなかったが、一度も眠たくならなかった。次は?次は?と最後まで目が離せず、不思議な感じ。最後まで集中していた自分がいた。何か伝わるものはあると感じたが、何か分からない。つまらない時間はまったくなかった。けどよく分からない(笑)。ありがとうございました。(40代女性)
- ・すごかった。生まれてはじめての感動をありがとうございました。“おいて行かれた男”をはじめ、すべてのシーンが素敵でした。手指をはじめ全身の細やかな表現はすごかった。(70代・女性)
- ・街角でポスターをひとめ見たときから気になっていました。実際に拝見してとってもひきこまれてしまいました。市民の方もとても良かったです。最後の信号や車の音がなんだか印象的でした。ただただ圧倒されました。(40代・女性)

### ●この事業への応募動機

自己表現力の乏しい地域性の打破をめざし、市民プラザで過去実施したコミュニティダンス事業によって地域に芽生えつつある現代ダンスへの目覚めの灯を、あたらしいアプローチでより広く市民に届ける必要性を感じていた。市民プラザは「公共ホール現代ダンス活性化事業」の第1期に参加していた経緯があり、従来のプログラムでは1度参加したホールの再応募はできなかったが、今回、新プログラムへの移行に伴い、ダン活経験館も参加可能となったことで再びの応募に至った。

### ●事業のねらいと企画のポイント

国内外で活躍するアーティストのクリエイション・公演に市民が参加する、観る機会をつくることで、舞踏の持つ、形にとらわれない発想から生まれる自由な表現を市民に体感してもらう。また、アーティストによる新たな切り口で豊岡の地域資源を再発見し、その価値を見つめなおすことで、地方都市で生きていく誇りを生み出す。

### ●企画実施にあたり苦労した点

舞踏公演という地域にとって初めての取組みにあたり、参加者募集・集客、どちらの段階においても注意を払ったのは舞踏のイメージの伝え方である。

参加者募集の際には「興味はあるけれど、どんな動きをするかわからないので参加しようかどうか悩んでいる」、「身体がうまく動かないから、難しいリズムや激しい動きにはついていけないかも」といった参加を躊躇する理由が寄せられた。舞踏の公演映像を少し見ていただき、「その人自身のあり方を表現する事こそが舞踏の持ち味」とであるという事をおひとりおひとり丁寧にお話しするなどして参加を促した。

集客の際は、宣伝媒体によって表現の仕方を「大駱駝艦・田村一行さんの舞踏公演を実施する」か、「地域資源『アメノヒボコ伝説』をもとにしたダンス公演を実施する」かの視点を使い分けた。公演チラシやフリーペーパーなど広範囲に及ぶ媒体は前者を中心に作成し、市内向けの行政放送や地元の方が目にする機会が多い Facebook などは後者を意識して発信した。

やはり事業実施前の期間の集客は伸び悩んだ。クリエイション期間に入ってから参加者の口コミが最も集客力のある広告だと感じていたので、公演参加者ご自身から情報をいかに発信していただけるかに注力した。作品について深く知っていただくことはもちろん、「一緒に舞台を創っていく」という前向きな参加意識を持っていたくために、ワークショップがない期間もメールや Facebook で毎日コミュニケーションをとるなど参加者との繋がりを維持した。

### ●事業の成果と課題

市の文化行政の変化にともない、現代ダンスを観る機会は豊岡でも着実に増えつつある。しかし、市民のなかでは「ダンスはよくわからない」というイメージを持たれることが多い。特に現代ダンスは「見ても解らなさそう、難しそうだから観ない、参加しない」という市民の方が多かったが、今回の事業でアーティストとの創作と新しい表現の世界に触れていただいたことで、「舞踏は楽しい。面白い」という強烈なインパクトを届けられたことが成果といえる。新しい方との出会いの機会も得られた反面、参加者の多くは以前より市民プラザとの繋がりがあの方々が大半を占めた。参加が少なかった若年層の開拓も急務である。

また、劇場職員のテクニカル面においても、アーティストとの創作体験は今後事業を実施していく上で大切な学びの場となった。アーティストから求められることに対応するだけでなく、自分たちから提案し、共に舞台を創っていくという経験は得難い成果であったといえる。

### ●今後の事業展開や展望

アンケートではアンコール公演や次回事業への参加希望の声も多く頂戴し、舞踏への市民の興味の高まりが感じられる。継続実施により、さらに高いレベルでの市民創作公演を追求するとともに、繋がりの輪を拡げていきたい。

**●この地域のダン活の特徴**

兵庫県北東部（但馬地方東部）に位置し、日本海と京都府に接する豊岡市は、「小さな世界都市」をまちの将来像とし、地域固有の価値や魅力を世界基準で考えたまち作りに取り組んでいる。

2004年開館した「豊岡市民プラザ」は、《市民の市民による市民のための》施設として多様な自主事業を展開。2006年ダン活第1期での事業実施後、アウトリーチなどの事業を継続する中、2015年に開催したコミュニティーダンス事業を機に、現代ダンスによる地域の活性に踏込む事とし、今年度、ダン活Bプログラム（市民参加）を実施。大駱駝艦 田村一行さんをアーティストとして迎え、市民がアーティストと共にクリエイションワークショップを経て舞台に立つことによって、地元根づく現代ダンスに対する新しい価値観を提案することとした。

今回のプログラムでは4日間を2週間連続して行い、第1週目の初日に、舞踏を体験する公募ワークショップを開催。公演参加希望者と一般参加者、そしてホールスタッフの研修として公演に関わるテクニカルスタッフが参加し、その翌日から作品クリエイションがスタートした。参加者は高校生～60歳代の方までの11名、演劇活動を通じて旧知の方もあれば、初めてプラザの催しに参加される方もあった。（この週のスケジュールについては、プラザ、アーティストと他関係者のスケジュール調整が叶い、開始日を計画より1日早めることによって最終日にもクリエイションを行い、3日間連続のクリエイションとなった。）

それから3日間空けての2週目は、いよいよ（とうとう？）本番の週。舞台と特設客席の設営、衣装（着物など）や小道具を使いテクニカルとのリハーサルが始まり、本格的に舞台へ向かう体制が整っていった。

今回の事業では、市民参加の公演を開催するという他、テクニカルスタッフの技術向上を図るというもう一つの目的があった。スタッフは初めての舞踏を体験し、リハーサルに立会い、舞台設営後は、アーティストが用意する進行表をもとに作品世界を共に立ち上げていく。そして、照明スタッフはアーティストが目指す空間作りに明かりを提案し、音響スタッフはあるシーンの音出しキッカケを託され、舞台セットや効果を使うシーンを繰り返し稽古するとなれば、演出スタッフはその都度シーンをスタンバイしてリハーサルをスムーズに進行。そして本事業ご担当はプラザとアーティストと参加者を繋ぎ、広報としても公演・事業のイメージを多様に発信・拡散。刻々と深まっていくこれらの作業は、普段通りなのかもしれないが、初めてのアーティストとの仕事は大きな刺激となったのではないだろうか。

さて、このような時間を経て行われた豊岡初の舞踏公演は、天日槍（あめのひぼこ：但馬開拓の祖）伝説をモチーフとした作品『ヒボコノコ』。集客にあたっては当初動きが少ない様でもあったが、出演者のクチコミも加わって、当初見込の客席を1列増設する事となった。作品冒頭から少し経ったところで白塗りメイクした出演者全員が1列に顔を揃えた頃には会場は一気に作品の世界へ引き込まれ、75分間の公演はあっという間に終了した。

**●課題とこれからに向けて**

カバンの町 豊岡、温泉の町 城崎、但馬の小京都 出石……。国内外のアーティストが滞在するアーティストインレジデンス施設：城崎アートセンター、地域に飛び出す市民の文化芸術コーディネーター：豊岡市民プラザ。共に、豊岡における文化芸術拠点の両輪として、市内外から豊岡への愛着を深める人が増えることを期待し、今後の活動展開に注目いたします。現代ダンス・演劇の町 豊岡！

実施団体	公益財団法人やまなし文化学習協会
実施ホール	甲斐市双葉ふれあい文化館
実施期間	平成 30 年 1 月 26 日(金)～1 月 29 日(月) 平成 30 年 2 月 1 日(木)～2 月 5 日(月)
アーティスト等	アーティスト:セレノグラフィカ(隅地茉歩+阿比留修一) クリエーションのためのアシスタント(共演者):武井琴 テクニカルスタッフ等:岩村原太
コーディネーター	志賀玲子

●公募型ワークショップ(実施日時、対象、参加料、参加人数、会場)

- ① 1 月 26 日(金) 18:30～21:00、一般(小学生以上)、無料、25 名、ホール

●公演(演目、公演日、開演時間、出演者、入場料金、会場、入場者数)

- 『エテルノ～eterno～』  
『あなたと渡れば虹の橋』\*市民参加作品  
『鱧と脚の狂騒曲～抜粋版～』
- 2 月 4 日(日) 14:00 開演(13:30 開場)
- セレノグラフィカ(隅地茉歩+阿比留修一)、武井琴、市民参加者 12 名
- 一般 1000 円 高校生以下 500 円
- 甲斐市双葉ふれあい文化館 ホール舞台上特設ステージ
- 47 名

『エテルノ～eterno～』 \*市民参加型作品『タイトル未定』  
『鱧と脚の狂騒曲(抜粋版)』

2018.2.4(日) 開演 13:30 開場 14:00

会場 甲斐市双葉ふれあい文化館 ホール舞台上特設ステージ

上場作品  
『エテルノ～eterno～』 \*市民参加型作品『タイトル未定』  
『鱧と脚の狂騒曲(抜粋版)』

参加料  
一般 1,000円  
高校生以下 500円

主催 甲斐市双葉ふれあい文化館  
協賛 山梨県甲斐市双葉ふれあい文化館  
後援 山梨県文化振興課

上場作品  
『エテルノ～eterno～』  
『鱧と脚の狂騒曲～抜粋版～』

プロフィール  
セレノグラフィカ(隅地茉歩、阿比留修一)  
武井琴

ダンスワークショップ参加者募集  
～身体も心も解放しましょう!～

公演参加者同時募集

甲斐市双葉ふれあい文化館

# スケジュール

	下見	
	6/20(土)	6/21(日)
9:00		打ち合わせ
10:00		↓
11:00		↓
12:00	ホール入	昼食
13:00	下見	移動
14:00	ホール下見	
15:00	打ち合わせ	
16:00	↓	
17:00	↓	
18:00	お試しWS	
19:00	↓	
20:00		
21:00	交流会	
22:00		

	実施期間①			
	1/26(金)	1/27(土)	1/28(日)	1/29(月)
		公演準備	テクニカル 打ち合わせ	
		↓	↓	移動
		↓	↓	
	ホール入			
	リノ敷	クリエイション①	クリエイション②	
	打ち合わせ			
	↓			
	↓			
	公募WS	アーティスト稽古	アーティスト稽古	
	↓			
	↓			

	実施期間②				
	2/1(木)	2/2(金)	2/3(土)	2/4(日)	2/5(月)
9:00	舞台設営	公演準備	公演準備		
10:00	照明・音響仕込	↓	↓	市民作品通し	移動
11:00		↓	↓	↓	
12:00		昼食	昼食	開場準備	
13:00	集合 仕込み	公演準備	クリエイション⑤	開場	
14:00	公演準備	↓	↓	公演	
15:00	↓	↓	↓	↓	
16:00	↓	↓	↓	バラシ	
17:00				解散会	
18:00	クリエイション③	クリエイション④	ゲネプロ		
19:00	↓	↓	↓	交流会	
20:00	↓	↓	↓		
21:00					
22:00					

### 公募型ワークショップ

「身も心も解放しましょう！」をキャッチフレーズに、年齢は小学生～おとなまで、ダンスの経験を問わず募集しました。近隣には、クラシックバレエやヒップホップダンスの教室、フラダンスやその他ダンスのサークルも多数ありますが、コンテンポラリーダンスとなると、「イメージできない」「難解」「馴染みがない」そんな土地柄です。そんな中で、とにかく身体を動かすことから始めましょう！と呼びかけた結果、甲斐市近隣の市民の皆さん、25名の応募がありました。この事業では、あくまでもダンス未経験の方に参加してもらうために、あえて既存のダンス教室などへの呼びかけを行いませんでした。応募のあった小学生から70代の参加者は、はじめは戸惑いながらもセレノグラフィカさんの指導により徐々に動きが柔らかくなっていきました。自己紹介、簡単なストレッチから始まり、空間を意識しながらのスペースウォーク、ペアになっての動き、ペアから徐々にグループとなって、最終的に全員が大きなうねりとなるような動き、どれも簡単なようでも頭も使い、次第に汗が滲みましました。最後はかなり激しく動きました。終わりの頃となると、すべての参加者が生き生きとした表情で、ワークショップ開始直後とは違い大きな変化が感じられました。終了後、ワークショップのみの参加希望だった方が、本番公演も出演したいという希望を出してくださり、最終的に14名の方が出演することとなりました。参加メンバーは、郷土芸能部（和太鼓や笛など）で活動する高校生、元ピアノ教室の講師、駄菓子屋さん、小学校教師など職業も年齢も様々、どんな公演となるのか楽しみとなりました。



## クリエイションの様子

### ●ウォーミングアップ

まずは身体をほぐします。1月下旬、暖房の効きがよくないのでステージ上は動いていないと寒くて冷えます。それでも少しずつ動きながら身体を温めていきます。これからどんなかたちの作品になっていくのか参加者も期待と不安を感じていました。

### ●距離感

ペアになり指先を向かい合わせます。指先が付かない程度の距離を保ちつつ、片方がリーダーとなり、もう片方がリーダーの指先についていきます。これを交代で行います。リーダーとなった人はどう動いていこうか頭で考えながら、ついていく人は距離を保ちながら動くのが大変で、決して触れないけれど常に相手を意識しながら動くことの難しさがテーマです。

### ●脳みそぐるぐる

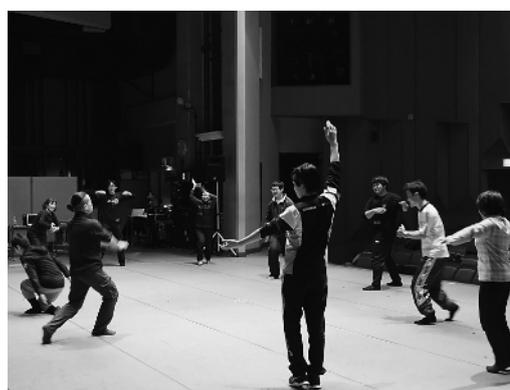
相手の身体のどこかに触れます。触れられた人は、すっとその場から抜けます。そして、触れ返すという繰り返し。ただし、すっと抜けられたら、触れたままの体制で動かずにいること、抜けたら次は相手のどこに身体どの部分で触れようか考えます。他人に「触れる」、「触られる」を繰り返していくうちに、相手との距離がどんどん縮まっていきます。

### ●ネームダンス

自分の名前を動きで表現します。考えるのは自分。どのように表現したらよいか。すぐに閃く人もいれば悩む人もいます。それでも徐々にカタチが出来てきて、やがて皆の前で発表します。一人一人が愉快地動く姿がなんとも微笑ましく楽しそう。それぞれの出来栄を感心したり、参考にしたり。でもこれはまだ魔法の始まりに過ぎません。

### ●進化していくネームダンス

回を重ねる毎に進化していくネームダンス。初めの頃より動きが大きくなり大胆になっていきます。そして自分の名前+自分の特徴・好きなことを動きで表現します。ここで個性が爆発します。表情も明るくなってきました。身体の内側から何かがどんどんと溢れてきます。



### ●少年の如く

男性陣は馬跳びをはじめました。中には高校生4人組もいますが、他の社会人のメンバーも「馬跳び」は何年ぶりなのでしょう。子供の頃に汗をかきつつ必死に馬跳びをします。この馬跳びが本番公演では重要な役割として発揮されます。

### ●乙女の如く

女性陣は輪になっておしとやかに女性らしさを表現します。その独特な動きと音楽が相まって、まるで少女のよう。男性が「動」なら、女性は「静」。静かな動きの中に情熱も垣間見えるそんな一幕となります。男性陣を率いたのはセレノグラフィカの阿比留さん、女性陣を率いたのはセレノグラフィカの茉歩さん、お二人がそれぞれの男性らしさ、女性らしさを見事に演出されました。

### ●雰囲気が変われば気持ちも変わる

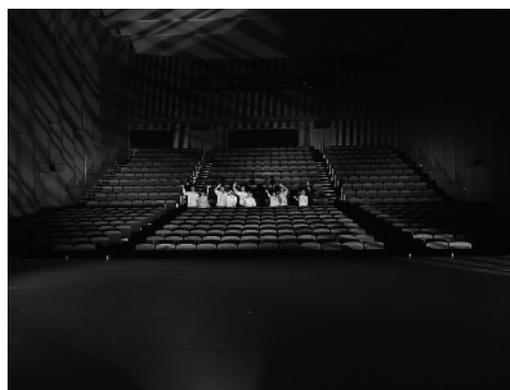
舞台設営・照明・音響の仕込みも整い、ステージ上の雰囲気がガラッと変わります。ピーンと張り詰めた空気も出てきました。これまで重ねてきた稽古の積み上げがステージで開花します。観客の前で踊ることが一気に現実感を持ってきます。気持ちが高揚し緊張が高まってきました。

### ●虹の橋のむこう

客席からステージに向かって手を振る場面の稽古。普段は観客が座っている506席の椅子達が、まるで海原や草原、雲海を思わせるような不思議な景色となり、客席とステージを反転させることがこんなにも新鮮で神秘的なのかと驚いた一場面です。

### ●魔法の如し

ゲネプロで市民参加出演の皆さんは初めてセレノさんの踊りを観ることとなりました。関西弁で親しみを持って指導してくださっているセレノさんが一変、踊りとなると変わります。しなやかな動き、凛とした表情。この踊りを観た出演者の皆さんの身体と気持ちに変化が起こりました。踊り手としての自覚、背筋がすっと伸び、表情や動きも眩しく輝きを放ち初めたのです。セレノさんの魔法にかかったのか。覚醒した皆さんにスタッフにも新鮮な驚きがありました。



## 公演

## セレノグラフィカダンス公演『ダンス風林火山！～踊ること魔法の如し～』



セレノグラフィカによる『エテルノ～eterno～』、市民参加型作品『あなたと渡れば虹の橋』、セレノグラフィカ、武井琴さん出演『鱈と脚の狂騒曲～抜粋版～』の3作品を上演しました。市民参加者12名のうち、6名が男性、6名が女性で、こういうワークショップにおいては女性が多いのが通常で、この男女比は珍しく、その特性を活かし男女ペアで踊る場面や、男性らしさ、女性らしさを表現するダンスも取り入れられました。自分の名前を動きで表現する部分では、演者も観客も皆笑顔で、かしまって観ていた皆さんも肩の力が抜けたようでした。年齢も職業も様々な個性溢れるこのメンバーだからこそその身体の動きや表情が生み出した作品でした。最初と最後の場面では、客席を使い、普段の観客と演者の位置が逆で客席自体がまるでセットであるかのように不思議な空間となり、舞台演出の可能性が感じられました。最後の作品では、市民出演者数名が飛び入りで一緒に踊る場面もあり、観客席も一体となって盛り上がりました。コンテンポラリーダンスは特別に難しいものではなく、ごくごく身近なのだと感じていただけだと思います。演目終了後、コーディネーターの志賀さんからのご提案で、アフタートークを行い、皆さんから感想をいただきました。終了後の打ち上げでは携わった全員が笑顔に溢れ、別れが名残惜しい様子でした。ダンスを通じて心をつなげたこと、自分でも気付かなかった未知なる自分も発見し、それぞれこれからの人生や仕事に大きなパワーを得ることとなった公演でした。

## ●来場者アンケートより（感想）

- ・コンテンポラリーダンスのプロのは初めて観ましたが、その素晴らしさの理解することができて、とても良かったです。
- ・私には内容が難しすぎてよく分からなかった。動きやフリに何か意味があるのかと一生懸命考えましたが、分かりませんでした。
- ・舞台上での公演を観るのは初めてでドキドキしました。途中、隣に座っていた人が急に立って踊り出したので驚きました。身近で踊りを観て楽しかったです。
- ・初めてコンテンポラリーダンスを観ました。大変感動しました。普段経験できないので本当に良かったです。
- ・市民参加作品では、男性の方が多いのが意外で楽しそうで良かった。観ていて自分も参加して身体を動かしたくムズムズしてきた。魂の言葉を感じられる作品で感動しました。
- ・舞台上で舞台を鑑賞するという初めての経験にわくわくと感動で忘れられない公演になりました。ありがとうございました。
- ・市民のダンスは微笑ましくて良かったです。年齢も様々で普通の皆さんがダンスに挑戦している姿に感動しました。今後も続けてください。

### ●この事業への応募動機

当館では、十数年前から平成 27 年度まで、市民参加型こどもミュージカルを開催してきました。地域の小中学生を対象に地元ダンスシアターと連携をして、芸術文化の芽を育てるとともに、個々のコミュニケーション能力、表現力を養う機会を設ける目的で毎年、開催してまいりました。そんな中、対象を子どもたちからもっと広げて、おとなも参加できるような事業は出来ないか模索していたところ、今回の事業を知ることとなりました。

特に、平成 28 年度からは演劇の手法を使い、コミュニケーション能力の向上を狙って、地域への貢献を目指す社会包摂型ワークショップを計画しておりました。その目的を同じくする事業として「公共ホール現代ダンス活性化事業」に応募いたしました。

### ●事業のねらいと企画のポイント

今回の事業は、社会包摂型ワークショップの一環であり、参加者がこの事業を通して社会への積極的な参加へのきっかけをつくり、一人一人が地域づくりに欠かせないという認識を新たにしていなければならないという思いもありました。そのきっかけが今回は「ダンス」でした。初対面の参加者同士のコミュニケーション、ステージに立ち人前で演じること、そして観る人もダンスや人前での表現の楽しさに興味を持ってもらうこと、それらをねらいとしました。

今回は、ホール舞台上にステージを設けるという特別な舞台設定だったので、芸術表現に関心のある方や当館で毎年開催している「山梨県高校芸術文化祭」の参加校に呼びかけをしました。演劇部に必要な表現力はもとより、特設ステージ・照明・音響などの演出面をも勉強する機会にと積極的に PR をしました。また、郷土芸能部門には、舞台での演舞、和太鼓等演奏において、身体を使った表現力が必要ですので、今後の活動にプラスとなる効果を説明し参加を募りました。結果、地元の高校の郷土芸能部の 4 人の生徒が、ワークショップと本番公演に参加しました。

### ●企画実施にあたり苦労した点

公募ワークショップについては、概ね定員に近い申し込みがありました。しかし、公演チケットの販売状況は思わしくなく PR 活動には苦労しました。ダンス自体は近年、学校の授業に取り入れられたり、身近になってきてはいますが、コンテンポラリーダンスというとなると難しい部分もあり、内容や主旨をどう説明し興味を持ってもらうことができるのかに苦心しました。どうしたら公演に足を運んでもらえるのかを考え、地道に PR をしましたが、予定を下回る入場者数となってしまったことは公演の内容が素晴らしかっただけに残念です。

### ●事業の成果と課題

市民参加者全員、ダンスの未経験者でありましたが、今回の体験を経て自由に身体を動かし、表現することの楽しさ・快感等、自分にプラスになる貴重な経験ができたこと喜んでいました。例え十数人だったとはいえ、この地域に蒔かれたダンスの種は少しずつ芽を出していくことでしょう。そして公演を鑑賞した方々も演じることや行動することの意味を考えるきっかけになったと思います。

一方で、公募ワークショップと公演の日程が近かったために、ワークショップの成果が自分の中で身につけて来る前に公演への参加を決断しなければならぬ状況となったため、躊躇したケースが見受けられました。日程に余裕があれば、もっと公演参加者も増えたと思います。

また、今回のダン活事業に申し込んだ各会館の担当者が最終館の公演が終了した時期に、一同に会して意見を交換する反省会があれば、今後のダン活に活かせるのではと思います。

### ●今後の事業展開や展望

今回のダン活事業で、コンテンポラリーダンスに興味を持っていただく機会を作れました。但し、これで終わりではなく、今回は小さな種を蒔いただけにすぎず、今後どのように地域に広げていくか、根付かしていくか引き続き考えなければならないと強く思います。嬉しいことに今回のダン活に参加していただきました出演者で、個人的にダンスサークル活動を始めた方もいらっしゃいます。公演をご覧になった方々からも、自分も体験したいのでダンスワークショップを開催してくれないか、というご要望も沢山いただきました。何かきっかけさえあれば一歩を踏み出したいと思っている地域の皆さんのために、今後も表現力を引き出し、高めるワークショップを開催し、事業を継続していきたいです。そして、次はアウトリーチも視野に入れ、行政と連携し、公共施設・商業施設・学校・グループ等にご協力をいただき、可能な限り広く展開してまいりたいと思います。

**●この地域のダン活の特徴**

今回のダン活は、記念すべき当ホール初のコンテンポラリーダンス事業となった。事業取組みの経緯としては、平成27年度まで十数年間実施してきた市民参加型こどもミュージカルの実績があり、28年度からは演劇の手法を使ってコミュニケーション能力向上を目指す社会包摂型ワークショップを計画、ダン活も目的を同じくする事業としての応募であった。

事業担当者は、事業前年度に開催された全体研修会で、初めてコンテンポラリーダンスのワークショップを体験、それがいかに新鮮で楽しく驚きに満ちていたかを目を輝かせて話してくれた。担当者が初めてダンスに触れた喜びが、ダン活事業全体を貫き、推進していく原動力となっていたように思う。

最初に甲斐市を訪れた下見時に、お試しワークショップをクリエイションワークショップの一環として実施した。おそらく初めての出会いであるダンスに、市民の皆さんはどのような反応を示されるか、担当者だけでなく、アーティストも私達もドキドキしながら見守った。参加者の多くは、ホールボランティアとして日頃からホール運営に関わっていらっしゃるシニア層の女性達であり、担当者から直接、その楽しさを伝えられ、半信半疑での参加だったのではないかと。結果は良好、皆さん楽しんで下さった。が、舞台に立つというクリエイションまでは大きな跳躍が必要で、どこまで応募者が伸びるか正直心配であった。

結果として、年齢層も高校生からシニアと幅広く、男女比も半々という素晴らしい顔ぶれとなった。ホールは高校の郷土芸能（和太鼓）部や演劇部の地区予選の会場になるため、地元の高校との関係は深く、顧問の先生を通して参加を依頼したという。4人の男子高校生は初めのうちこそ4人でひっついて離れず、とまどっているようだったが、だんだんとダンスそのものの面白さに目覚め、最終的にはシニア女性とペアで踊るまでになった。日常の社会で、高校生とシニア女性が、おばあちゃんと孫でもない限り、手をつないで踊るなどということはほぼないだろう。日常ではつながり得ない人と人が出会い、喜びを共有すること、これこそ、コンテンポラリーダンスによる市民参加型公演の醍醐味であろう。他にも、自由で良いのだと気づいた、勇気を出して参加して良かったという、ダンス未体験の方々の興奮した顔と声が忘れられない。

チラシ、ポスターの作成も非常にスムーズであった。それもひとえに、担当者がダンスの魅力をしっかり味わい、その魔法のような楽しさを市民の皆さんにも伝えたい、自分でも楽しめたのだから皆さんも大丈夫、ぜひぜひ参加してください、という基本かつ核心の部分がまったくぶれなかったためだろう。また、舞台の使い方も、当初は通常の使い方と問題ないと下見でアーティストは判断したものを、担当者のほうから、ぜひともいつもと違う舞台上舞台をやってほしい、と強く希望が出された。何を市民の人に伝えたいのか、届けたいのか、そこどころが最初から最後までまったく揺らがなかったことが強みであったと思う。

**●課題とこれからに向けて**

公演の動員には苦心されたと思う。初めてのダンス事業なので、それは当然のことであり、今後、いかにダンス事業を継続していくことができるかが、問われていると思う。Aプログラムのアウトリーチをぜひ実現していただきたい。ダンスは特別な人のためのものではなく、誰でもが楽しめるものであることを今回感じていただけたと思う。ただ、劇場にみずから選択して来ることができる人は限られている。情報を入手することができる人も限られている。まったくダンスの魅力に気づいていない方にも、ダンスを届けていただきたい。ホールの外に出かけていくことがスタッフの人員的にむずかしければ、様々なグループをホールに招いてダンスワークショップを体験してもらうことも可能ではないか。せっかく撒かれたダンスの種をどうぞ大切に育ててほしい。



# Cプログラム

(公演プログラム)



## スケジュール

愛知県豊橋市／穂の国とよはし芸術劇場

	下見	
	2/16(木)	2/17(金)
9:00		
10:00	小学校アウトリーチ ※ダン活枠外	宣伝・地域プログラム打合せ
11:00	↓	↓
12:00		
13:00	豊橋 着	↓
14:00	劇場下見・打合せ	広報誌取材
15:00	↓	豊橋 発
16:00	休憩・移動	
17:00	宿泊先下見	
18:00		
19:00	交流会	
20:00		
21:00		
22:00		

	実施期間			
	6/22(木)	6/23(金)	6/24(土)	6/25(日)
9:00				
10:00	搬入・仕込	調整	調整	
11:00	↓	↓	↓	
12:00		↓	公募 WS 準備	
13:00	↓	リハーサル		
14:00	↓	↓	公募 WS	公演
15:00		↓	↓	バラシ
16:00	明かりづくり	↓	GP 準備	↓
17:00	↓	↓		退館
18:00	↓	通し稽古	GP	打上げ
19:00	退館	フィードバック	フィードバック	
20:00				
21:00		退館		
22:00			退館	

※ダン活枠外で実施=2/15-16：小学校アウトリーチ、6/19：中学校アウトリーチ、6/27-28 中学生鑑賞公演

### 公募型ワークショップ

身体やその感覚、意識を自由に動かしてダンスが生まれる瞬間や喜びを感じるためのワークショップ。参加者全員で身体をほぐしたのち、音楽に合わせて、耳、歯、左肩、など、普段意識しづらい様々な身体の部位を目覚めさせ、いつの間にかその動きが「ダンス」となり、ペアやグループで互いに見合いながら意見を言い合った。

当劇場では演劇に比べてダンスワークショップの開催回数が少ないため、誰でも参加がしやすいように、ダンスや運動の経験・年齢は問わず、小学生以上を対象とした。また、ダンスにおいては、ワークショップは参加するが公演は観ない人が一定数おり公演における入場者数を増やすことも本ワークショップの目的であるため、チケット購入者は参加費無料とした。それでも半数以上がワークショップのみの参加となった。募集開始時から反応が良く、7歳から60歳代まで全ての世代が集まり、親子で参加する方もいた。また半数以上は市外からの参加となった。市外の参加者に理由を尋ねると「このようなダンスワークショップは珍しいから」とのこと。ダンスワークショップ初心者も約半数おり、老若男女問わず関心の高さをうかがえた。

鈴木ユキオ氏の丁寧かつ参加者の特性を引き出した進行により、参加者同士が交流を持ち、公演の関心向上にも繋げることができた。参加者が多世代となったことも、それぞれの身体やイメージの違いがはっきりとあらわれワークショップの進行も非常に深みを増した。ワークショップ終了後そして本番公演後にも参加者と鈴木ユキオ氏が作品やダンスについて話している姿があり、今後のダンス事業をおこなう方向性について検討する非常に良い機会となった。アンケートでも「ダンスというものにこれまで縁のない生活だったがとても楽しかった。ダンスと言わずとも、踊れるって凄いことだと思った。」と回答があり参加者の満足度も高かった。



## 公演

## PLAT ダンスプログラム 鈴木ユキオ『春の祭典』『Yoyes に捧ぐ』



2015年初演の『春の祭典』『Yoyes に捧ぐ』を上演。Cプログラム実施の検討段階に、アーティストファイル内の作品リストからはどうしても「これ」と確信できるものが正直なかった。しかし8月の全体研修会でアーティストと直接会話をするなかでイメージを固めていき、鈴木ユキオさん、アシスタントの安次嶺菜緒さんとともにメールのやり取りを繰り返して上演作品を絞り込んだ。初めてダンスを観る人にとって衝撃的な、圧倒される体験をして欲しいという狙いがあり、視覚的に十分な強さと儚さを合わせ持つ本作にしたことで、今後、豊橋で様々なダンス事業を継続して実施できる環境を作るための布石を打つことができた。また終演後トークを入れることにより作品理解を深める機会とした。作品内容はほぼ変更していないが、当劇場の煉瓦壁を活かすため当初吊っていた黒幕をリハーサルで外すこととした。仕込み・リハーサルの時間が十分に確保できたこととアーティストとスタッフ間の連携が功を奏した。劇場スタッフも貸し公演ではできない経験値を得ることができた。

集客面は、豊橋だけでなく名古屋エリアまで広げて4月のチケット発売時にはワークショップ（ダン活枠外）、宣伝動画の配信など段階的に展開したが、当初の予想通り苦戦した。これは劇場におけるダンス公演の経験値や認知度の低さもあるので、この経験を糧とし継続的にダンス作品を上演できるようにしたい。

## ●来場者アンケートより（感想）

- ・なぜか不思議な感覚におちいつている。なんともいえない感覚。ナゾの状態。どうしてなのかを考えていくことになるだろう。PLATに他劇場ができないことを次々となしとげて行ってほしい。
- ・とても感動しました。人間のネイティブな生と文明とのギャップの中で、どのような未来を期待できるのか考えた。「春の祭典」と「Yoyes に捧ぐ」の流れに一体感があったが、オリジナルの楽曲の繋がりに興味あった。
- ・アーティストトークの質問コーナーで感想をお伝えしましたがとても感動しました。人類の進歩って何だったのかという疑問と戦争等の怒りや悲しみ、そして春への祈りを強く感じました。
- ・LIVEのよさをすごく感じました。YouTubeでも紹介されていましたが、どんなメッセージが入っているのか？は、作品をみることで伝わってくるのだとわかりました。人生初のダンスの公演でした。圧倒されっぱなしでした。破壊と再生、みたいな毛皮をぬぐのとさげびが印象的でした。
- ・久々にこう、本気で生きているひとを感じた気がします。「生きる」ということは、もっともっと生々しいものだったと思いだしました。自分には恥ずかしさを思いださせてくれました。

●この事業への応募動機

平成 25 年に穂の国とよはし芸術劇場が開館し、主ホール（771 席）ではコンドルズや平山素子作品を、アートスペース（200 席）ではプロデュース公演を上演してきたが、まだ市民に浸透しているとは言い難く、小劇場演劇やコンテンポラリーダンスの上演に適したアートスペースで空間を活かしたダンス事業の継続した展開を目指すために応募した。また、ダン活に参加することで、アーティストとの関係づくりや、コーディネーターや他館との連携を深め、職員の人材育成を目指した。

●事業のねらいと企画のポイント

市民が持つダンスに対する概念を打ち砕き、新規のダンス客層の開拓を目指す。未知なるものへの憧れや挑戦が薄れていく現状に風穴をあける。ダン活だけでなく、豊橋市で計画・実施している以下事業を複合的にこなうことで、段階的な宣伝周知をおこない、かつ入場者数だけでは測れない公演の充実を図った。

① アーティスト・イン・レジデンス／稽古場開放／ワークショップ

（4 月に 11 日間滞在制作。市民がアーティストやその創作方法、魅力を知る機会とする）

② 小学校アウトリーチ

（2 月に 2 日間実施。鈴木ユキオさんが豊橋について知る機会とする）

③ 中学生鑑賞公演およびアウトリーチ

（ダン活公演の翌々日に上演。中学生 300 名が鑑賞。中学生からは「よく分からない」「とにかくびっくりした」など様々な感想が寄せられた）

公演チラシは、舞台写真のインパクトと手に取りやすさを重視してデザインを依頼した。初演時の新聞評を掲載することで、よりイメージが湧きやすいようなチラシを心がけた。ダンス愛好者だけでなく学生、音楽好き、60 代以上をターゲットとして宣伝展開をおこなった。

●企画実施にあたり苦労した点

ダン活の枠組み（予算、日程、人数）で実施するため、スタッフやダンサー数を調整せねばならないこと。ソロやデュオ中心の組み方になっているためどうしてもシンプルな作品に集中してしまう。自己負担額をある程度見込んでおかないと C プログラムを狙い通りに実施するのは難しい。

●事業の成果と課題

今後もダンス事業を実施していく機運を生み出すことはできたと感じている。また、鈴木ユキオさんや安次嶺菜緒さん、佐東範一さんをはじめとするコーディネーターチームと現場で意見交換ができたことは大きな財産であり、また何かの形で一緒にできるような企画を考えたい。課題は、集客力の向上と、ダンスの魅力をもっと言葉に起こして発信していくこと。

●今後の事業展開や展望

◎アーティスト・イン・レジデンス事業を核として、「魅力あるアーティストが集まる街、豊橋」を目指す。

◎企業や福祉施設のアウトリーチでダンスを活用したワークショップを展開し、ダンスを一部の愛好者だけでなく公益なものであると知る機会を創出する。

◎今後もダン活で得たアーティストとの交流を活かして、自主事業を実施。第一線で活躍する舞踊家の公演だけでなく、市民参加型の作品では、劇場内の各所や交流スペース等を使用した移動型パフォーマンスにし、劇場全体を使って、ダンスが楽しいだけでなく身体や心を豊かにするものであることを、一般の人々が目にするような公演を目指す。

**●この地域のダン活の特徴**

ダン活の形式が変わって、初めてのCプログラム＝アーティストの作品の上演、であった。アーティストは鈴木ユキオさん。Cプログラムの心配事としては、1回の打ち合わせで、次に来的时候には、もう公演であることで、どこまでホールと連帯感を持って、ダン活の目的が実現するのかわかるというところであった。しかしこの豊橋 PLAT での公演は、ホール側が、自主的にそのダン活実施以前から、鈴木ユキオさんの作品のリクリエーションのレジデンス 11 日間行うなど、様々な企画と複合的に行うことにより、公演自体がとてもうまくいったと思う。かつ担当者の上栗さんは、個人としてダンスカンパニーの制作を行っているなど、ダンスの制作者でもあったために、何をしないといけないのか、現場の対応を含め、ほとんどコーディネーターが、口を出す必要はなかった。

ホールでは、開館前から地域で様々なアウトリーチ活動を行っており、すでに多くのダンスアーティストと仕事をしている。館長さんとも話したが、スタッフの自主性や発案を積極的にサポートしているという、理想的なホールであった。このようなホールだったら、働くスタッフはやりがいがあるだろうなど。うらやましく思えた。しかし一方、いろいろやること、やりたいことが多くて、どうしても人手不足になっているとのこと。まあそのことはこのホールでも同じであろう。

3泊4日の公演に向けての滞在中に、公募のワークショップが行われた。参加者は幅広く、全体の雰囲気がとてもよかった。それはこれまで PLAT が培ってきたホールと参加者＝地域の方々との良い関係性の証のように思えた。

そして鈴木ユキオさんの公演は、とても見ごたえのある内容だった。日本ではまだまだダンスで、社会的なメッセージを含む作品が少ない中、新たな挑戦を行っている。そのことをテクニカル的、制作的に支えるこのような劇場があるからこそ、このような作品をしっかりと準備して上演できるのだと思った。今回、ダン活での作品上演だけではなく、同時に自主事業としてレジデンスをサポートして、違う作品作りをサポートしているのは、素晴らしいことだと思う。ダンス作品は、アーティストの力だけで作るにはかなり無理があるものである。それは経済的だったり、稽古場の確保など、すべてが振付家の肩にかかってきて、疲弊してしまう。劇場のサポートが本当は不可欠なものである。しかし日本では、まだまだ上演だけで、作品作りをサポートできる劇場が少ないのが、現状である。PLAT の試みは、ダンス界にとって大きな励みになるものである。

**●課題とこれからに向けて**

ぜひ地元の方々との市民ダンスカンパニーを作ってほしい。ダンスのアーティストが、ほかの地域からきて、ワークショップなどを行うことも、もちろん重要だが、市民劇と同じように、市民によるダンスカンパニー（グループ）を作り、習うだけではなく、自分たちでダンス作品を創ることを始めたならば、ダンスの見方もより深くなっていくだろう。創る面白さや、楽しさ、そして難しさを感じることは、地域の方々にとって、ホールの持つ意味が変わってくると思う。ダンスを豊橋から、発信するようになってほしいと思う。

今回の PLAT での C プログラムは、ホールの努力によって、同じアーティストで複合的なプロジェクトとなり、ホールと地域との関係性が生まれてきた。しかしもし単独での C プログラムだけの開催で、1回の打ち合わせの次に、公演となった場合に、宣伝やホールとの関係性をどのように築いていくのかが、課題だと思う。何か、そこに仕掛けを考える必要があるだろう。



# スケジュール

東京都国立市／くにたち市民芸術小ホール

	下見	
	6/15(木)	6/16(金)
9:00		集合
10:00		郷土文化館視察
11:00		古民家視察
12:00	集合	昼食
13:00	桐朋中・高校 写真撮影	ホール下見 打合せ
14:00	↓	↓
15:00	↓	↓
16:00	↓	↓
17:00	↓	↓
18:00	打合せ	交流会
19:00	↓	
20:00		
21:00		
22:00		

	実施期間			
	12/21(木)	12/22(金)	12/23(土)	12/24(日)
9:00	搬入・舞台準備	照明・音響・舞台 仕込み		
10:00	↓	↓	場当たり	稽古
11:00	↓	↓	↓	↓
12:00	昼食	昼食	昼食	昼食
13:00	打合せ	照明・音響 チェック、稽古	場当たり	最終チェック、 開場
14:00	場位置決め		↓	公演
15:00	舞台稽古		直し、通し稽古	アフタートーク
16:00	↓	↓	↓	撤収作業
17:00	↓	↓	↓	↓
18:00	軽食	軽食	夕食	楽屋打ち上げ
19:00	公募 WS	舞台稽古	ゲネプロ	交流会
20:00	↓	↓	↓	
21:00	↓	↓	↓	
22:00	退館	退館	退館	

### 公募型ワークショップ

ダンスの経験を問わず中学生以上ならだれでも参加可能とし、現代ダンス（舞踏）&アーティストとの接点とした。実体験でダンスへの理解を促し、よき観客となりあるいはダンスに取り組む機会にしてほしいとの思いがあった。

募集広報は公演チラシ裏面に情報を掲載したほか専用チラシを作成し、市内および周辺の高校・大学ダンス部、ダンススクール等に配布した。また演劇系のワークショップ情報サイトに掲載した。その結果、募集開始から約2週間で定員に達した。

参加者居住地は市内と市外がほぼ半々、年齢は10代から70代で、やや女性が多かった。ダンス（舞踏）経験者や俳優なども数名いたほか、ダンス好き、身体を動かしたいなど、ダンスへの馴染みには幅があった。

ワークショップは身体をほぐし力を抜くことから始まり、「肩に糸がつられている」「地球の中心から振動が伝わる」などの動きと共に、舞踏の特徴である「躍らされている」感覚を参加者は体験していった。図解による「宙体～鑄体」説明や、「いかにがんばらないか」など心構えも話された。また大駱駝艦の様式である「獣」や「キリスト」の動き、本公演での振付も取り上げ、最後には参加者全員で舞い、それはまさしく舞踏になっていた。

参加者はよく身体が動く人、固い人と様々だったが、各々なりの動きを行い、舞踏に対するとらえ方ができているように思えた。アンケート（回答率83%）では「非日常を体験できた」「舞踏の観方のヒントが得られた」「自分の身体をとらえ返せた」「踊りに対する新しい発見」「イメージすることで身体がそのように動くとは」「身体が自由になっていくのがわかった」など、新しい視点や感覚を呼び覚ます経験になったことが見て取れた。



## 公演

## 大駱駝艦 田村一行 舞踏公演『存在と時間』



公演制作への取り組みは、下見で市内にあるアーティストの母校（中・高校）を訪れ、宣材写真撮影をしたことから始まった。それはまさに当公演の特徴を形作るもので、その時代に現在の道を進むことを決意したというアーティストの原点を辿ることが作品の核となった。剣道部の思い出が詰まった部室や稽古場などでの撮影。そして恩師の先生方との久々の再会を通して感じたのは、予想に反してこれまでの時間の経過を感じさせない、奇妙な感覚であったそうだ。「自分とは、生きるとは何だろう」という当時の疑問が今の自分をつくり、今もその疑問と向き合っている・・・その気づきが作品「存在と時間」となり、アーティストの今に至る道のりをそこはかとなく感じさせる内容となった。まさしく国立市ならではの、田村一行さんならではの唯一無二なオリジナル作品が生まれた。

広報では「国立所縁のアーティストによる舞踏オリジナル作品」をチラシ等で謳い、他所でのダンス公演での挟み込みや新聞に取り上げてもらうなどで、「国立ならではの初舞踏公演」を訴求した。また、舞台機構（舞台面が9分割できる）を当ホールの「売り」としているが、アーティストは分割面を3名の出演者のテリトリーづくりに活かし、舞台を効果的に仕立てた演出をしていただいた。300席前後の客席どこからでも見やすい作りとサイズであることと合わせ、当ホールが現代ダンスに適しているという特性を観客にもアーティストにも示すことができた。

公演後のアフタートークでは、当作品への思いとともに中・高校時代のお茶目なエピソードを語ってくださることで、観客により親しみを抱いていただける機会となった。

## ●来場者アンケートより（感想）

- ・舞踏を初めてみたがとても不思議な世界観だった。舞っている方たちの動きがきれいで見惚れた。
- ・美しい動きを見せるのではなく、動いた結果美しく見えるという印象。
- ・肉体の美しさ、動きのすばらしさ。動きの中に人間の情念を感じた。
- ・舞踏を初めて同じ空間で感じた。ふだんから踊らされているというのは意外。振付の設計や小道具って何なんだろう。
- ・学生の頃よくアングラや舞踏を観に行っていました。瞬間・息遣い・呼吸・流れ・笑みを感じられて嬉しかったです。
- ・人間や人生を肯定的に捉え好感。
- ・（自分の）35歳の誕生日に、人間と出会えた感。
- ・一回の公演で終わるのがもったいない。
- ・モチーフと曲の組み合わせがよかったです。見飽きない舞台でした。
- ・（ワークショップで）教えていただいた型、動きが作品の中にもあって興味深かった。
- ・不思議でおもしろい。冥想しているような気分、身体が文字になって表現されるポエム。
- ・『オママゴト』以来の田村さんファンですが、アフタートークでさらに好きになりました。
- ・分からない。（しかし）踊り手の方々に感心した。
- ・ことばで表現できないもの、おどる意味を再発見しました。
- ・人生のほとんどの時間をダンスに使い、結婚を機にやめてしまいましたが舞台を見てまた踊りたくなりました。涙が止まりません。
- ・素晴らしい。ブトーの次世代の確実な方向の一つを見せていただきました。
- ・国立に越してから三年半、田村さんが国立で過ごされていたことに驚きと感慨が。今回の公演には「光」がありました。

### ●この事業への応募動機

現代ダンスが持つ創造性の高さ、芸術性の深さ、そしてコミュニケーションにも身体能力向上にも活かす要素がある・・・という広い可能性を活かした事業展開は、地域ホールにふさわしいと考えていた。一方、現代ダンスへの取り組みがまだまだ本格化できていない現状があり、コーディネーターによる指導の下、一流アーティストの公演とワークショップを丁寧に行うことで素地をつくりたかった。さらに多くの外部専門家に携わっていただくことで、「ひとりよがり」ではない「日本標準」な事業というものを知りたかった。

### ●事業のねらいと企画のポイント

現代ダンスへ人々の関心を向けるため、国立駅前の美しい街並みを誇りに思う北エリアの市民、歴史ある土地柄で地域性を大事にする南エリアの市民、そして他所から次々に移住してきた市民だれにとっても新鮮な衝撃になる、しっかりとした「公演」をまずは行いたいと考えた。一般的にアングラのイメージがあり、アーティストの剃髪・白塗りというビジュアルが大きなインパクトを与える舞踏がそれには適していると思った。

また田村さんにとって国立が「所縁の地」であることを知り、当ホールで活動していただく必然性につながった。ご自身の芸術家としてのルーツをたどるような、貴重な作品作りをしていただけるのでは、との可能性と期待も同時に感じた。

さらに当ホールにとっては初めての舞踏への取り組みで、我が国発祥の芸術である舞踏の、しかも国立ならではのオリジナル作品を上演することは財団（ホール）設立 30 周年&市制 50 周年記念としてもふさわしいと考えた。舞踏家田村一行さんの存在感に当ホール 30 年の歩みを重ね、今後の当ホールにとって大切な節目にしたかった。

### ●企画実施にあたり苦労した点

広報である。もともと人気・知名度があるアーティストであるため、広範囲でのチラシ配布や有料広告掲載が集客には結びつくと思った。が、来場者はできるかぎり市民および周辺市の人々をメインに考えたかったので、東京 23 区および他県ホールへのチラシ配架は控えめにした。一方で当ホールの現代ダンスへの取り組みを知ってほしい思いもあり、近隣地域でのダンス公演挟み込みも行ったが、結果的に満席にできなかったのは妙な思い込み、遠慮が当ホールにあったためだと反省した。通常どの有料事業も集客には苦戦している当ホールは、今回のような集客が見込めるせつかくの事業を大いに PR することで、存在感を示すべきだった。

### ●事業の成果と課題

- 1) 国立ならではの作品を創っていただいたこと。ホールそして市の大切な財産である。
- 2) ワークショップと公演は必ずしも対象者・観覧者が重ならないとのご指摘を下見時にいただいていた。それにより、現代ダンスに積極的に取り組んでいきたいという当ホールの思いを追求する 2 つの異なるアプローチ方法として最初から分けて捉えることができた。ワークショップが観客動員への補完的事業ではなく、現代ダンスの魅力を伝える重要な手段と実感できた。
- 3) 広報、それが結果として現れる集客については、当ホール全体の課題として引き続き取り組んでいかねばならない。
- 4) 当ホールでの創作活動を行うにあたり、制作能力やキャパシティがまだまだ備わっていない。せつかくの一流アーティストによるクリエーション現場を、担当者としてもっと時間をつくってじっくり見つめることで、徹底的に貴重な経験を積むべきであった。

### ●今後の事業展開や展望

前述のとおり、この作品は当ホールにとって大切な宝である。そして「自分とは、生きるとは何だろう」の疑問に 10 代の頃から向き合いそれがアーティストとしての原点でもある田村さんにとっても、定点観測的な作品になりうるのではと都合よく考えている。そうであれば、数年ごとに上演していただき作品に時代の風を送り続けることが、当ホールの責任ではないだろうか。アンケートでも再演を望む声が複数上がり次のステップへの具体的な後押しとなろう。また、世界的アーティストである田村さんおよび大駱駝艦とご縁を活かし、今回改めて種を蒔くことができた舞踏、そして現代ダンスへの取り組みを絶やすことなく、東京西部地域における現代ダンスに適したホールとして公演やプロジェクトに挑戦していきたい。自主事業として積極的に様々な方法（公演・ワークショップ・アウトリーチ等）で現代ダンスと常にとり合い、ホールとしてのミッションを全うしつつ、現代ダンスの普及・新たなフェーズへの展開等に寄与していければ本望である。

### ●この地域のダン活の特徴

国立市は、東京の多摩地域に位置し、甲州街道・多摩川に沿ったかつての中心地：谷保、昭和初期に学園都市構想に基づいて開発が始まった JR 国立駅周辺の文教地区からなり、国立駅から南に伸びる大学通りが新旧の中心街を結んでいる。

その谷保地区にある「くにたち市民芸術小ホール」は、くにたち文化・スポーツ振興財団が管理運営する施設として市民総合体育館と隣合わせに建ち、ホールとギャラリー、音楽練習室、スタジオ（主に音楽用）を有し、ダンス事業についてはこれまでに市内の小学生を対象としたアーティスト派遣プログラム、パフォーマンスキッズ・トーキョーのホール公演やワークショップを開催。ホールは、9分割の（沈下）可動式舞台と舞台面から続く固定席 270・稼働席 66 を有し、音響に配慮されたシステムもその特徴である。現代ダンスが持つ創造性と新鮮な魅力に着目した今回のダン活は、国立市市制施行 50 周年・くにたち文化・スポーツ振興財団設立 30 周年記念公演として、これまでの実施事業のイメージを覆すインパクトあるアーティストとの共同事業として、大駱駝艦の田村一行さんをアーティストに迎えた。

ダン活事業が新しいプログラム構成となって初年の今回、くにたち市民芸術小ホールでは公演観賞型の C プログラムを実施。事前の下見初日はホール下見・打合せの他、宣材写真撮影のため、アーティストの母校を訪問（撮影については、学校側へ事前に撮影許可申請を行う）。翌日は市の歴史を伺うことができる施設視察の後、再度打ち合わせをして解散というタイトなスケジュールながら、ホールご担当とアーティスト、宣伝デザインを手がける外部デザイナー、カメラマンなどと事前の綿密なやり取りが行われた上での充実した 2 日間となった。

【公募ワークショップ「大駱駝艦の舞踏を体験しよう！」】：ホールが初めて手がける舞踏体験ワークショップでは、中学生～70 歳代の幅広い年代の方々が参加（そのほぼ半数以上が市内・近隣在住者）。参加者の年代を見ると、こどもたち以外の年代を対象とした体験型プログラムへの興味や需要もあるのではないだろうかと感じた。

【公演『存在と時間』】：東京在住であるアーティストからの提案により、事業最終日の 4 日目に公演とトークを開催。会場の特徴でもある稼働床を活用した舞台を設営し、地元の文化・風景とアーティスト自身の現在に至るまでの時間を多様に重ねた国立オリジナル作品を上演。劇場ならではのライブ感と不思議な世界感が、来場者それぞれの記憶や感動を呼び起こした公演となった。

### ●課題とこれからに向けて

本格的にダンス事業に取り組む今回のダン活では、市民・周辺市の人々をメインターゲットとして新たな観客層の掘り起こしを図るということで、多摩周辺地域を中心とした広報を展開。今回の集客は目標に届かなかったが、未知なるものと出会える体験を提供するホールの認知度拡大と地元ファン作りの他、今後は実施するジャンルにも特化した広報展開を計画されることと思う。

次年度はアウトリーチ・公募ワークショップを行う A プログラムを実施すると伺っている。すでに音楽事業ではお出かけ型の事業を多数手がけられているので、そのノウハウを活かしつつ、現代ダンスアーティストが持つ柔軟な発想や創造性を共有して地域をつなぎ、更には年代・居住エリアを問わず、「くにたち市民芸術小ホール」発信のダンスファン、そしてホールを支えるファン作りに取り組んでいただきたい。

## ダン活プログラムの可能性～サブコーディネーターの現場から

---

### ●各プログラムのアプローチや可能性など

#### ◎地域交流プログラム・クリエイションについて

- これまでホールとの関係性が薄い団体等がアウトリーチを体験することで、今後こういった取り組みをホールと連携して継続したいという団体も増え、新たな関係性が生まれる。また、アウトリーチ先の団体同士がつながれる可能性もある。
- これまでホールと関わりのなかった人などがホールを知る機会となり、新しい形でホールと地域がつながっていくことができる。
- 舞台上で公募ワークショップを実施し、ホールのテクニカルスタッフの協力体制があれば、アーティストのアイデアによる簡単な演出で、「舞台」としての形を見せることができる。参加者がより深く心に残る体験ができることで今後につながっていく可能性がある。
- アウトリーチも公募ワークショップも深めていくことで沢山の非日常を演出することができ、参加者の心をぐっと引き付け、ダンスと市民を近づけられることができるのではないだろうか。
- 週末の公募ワークショップは、少し長めの時間設定ができればちょっとした発表も可能で、1日数時間だけではできない密度の高いワークショップにもなり得る。そのことが、良い市民参加作品が創れるというイメージを持ってもらうきっかけにもなる。
- 新しい人たちをダンスやホールでの活動に取り込むために、体験者から口コミで広げてもらう。そのためには最初の体験のフォローを大切にしたい。

#### ◎広報について

- 通常の広報だけでは人を集めるのは難しいが、どのような広報・宣伝ができるのか新たな広報戦略を考えられる機会になる。アーティストを紹介したいという熱い想いを大切に持って、担当者として自分の言葉で伝えられるといいと思う。
- アーティストの性質、体験ワークショップの内容や意義を、担当者・広報が理解し、よりかみ砕いた表現を検討し、届けたいターゲットを絞り込んで告知する必要がある。

#### ◎継続性について

- 次年度以降のプログラムの実施を見据えて企画や体制などを整えながら進めていける事業で、新しいことにチャレンジできる。
- それぞれのプログラムを実施する時に、地域との関係性を築きながら、今後の展開を見据えた長期的な視点を持ちながら取り組み、アーティストと目標を共有することで色々な可能性が生まれてくる。
- 地域のニーズを掘り起こし、地域にしながら本格的な舞台に立てる機会がある喜びが、参加者にとって今後の活力になる。参加者同士の仲間意識が強まり、能動的にグループを作って活動していこうという人たちが生まれてくる可能性がある。
- アウトリーチを体験した子どもたちが何年か後に再び体験する機会があった時、最初に体

---

験したことの影響が見えたりするとアウトリーチの良さがアウトリーチ先により伝わりやすいので、そういった取り組みの継続や情報を持っておくことと今後につなげられる。

- ホールの空き状況やアウトリーチとして検討している候補先の状況、広報計画などから実施時期を上手く調整することができれば当初の企画の目的を達成できる可能性や、これまでホールとの接点がなかった参加者・観客との新たな出会いが生まれる可能性が大きくなり、効果的な事業の実施ができるのではないだろうか。また、継続的に実施できることでホールのパワーアップになる可能性もある。

#### ◎地域資源について

- 地域のことをよく知っていると同様なアイデアが浮かび、より良い事業につながる。
- 地域資源の掘り起こしに焦点を当てたプログラムでは、地域の課題やホールのやりたいことに沿うような形で、少し地域課題にフォーカスした企画を立てることができる。
- アーティストが自分にしかできないことをやることで、地域資源の新たな魅力を発掘し、地域の方に知ってもらおうという、ありそうでない、できそうでできないことができる可能性がある。
- 地元の人にどれだけ出会えるか。コンテンポラリーダンスを初めて実施するということはそれほど問題ではなく、また、ダンスに通じているかどうかというよりもいかに普段から地元のおいしい素材（場所、人材、地元アーティストなど）にアンテナをはっているかが大きく、そのことで企画が広がっていく。

#### ●事業全体をとおして

- プログラムごとに実施する内容がはっきりしているので取り組みやすく、3つのプログラムをとおして長期的な展開を考えやすい。
- 新しいプログラムの大きな特徴は、少しゆとりができていいる部分をどのように企画の中身としてフォーカスしていくのかということ。事業実施前にどのように創っていくのか、どんなことを企画するかということを決めることが非常に面白く、またそこに可能性があり今後の展開につながる。
- 地域の現状を分析し、「なぜコンテンポラリーダンスを導入したいのか」という、事業コンセプトを明確に持つことが大切で、それを共有することでいろんなアイデアが広がる可能性がある。
- 事業をとおして発見された新しい視点や地域における出会いが次の事業を生み出していく。そのような連鎖こそが重要になり今後につながっていく。

#### 【サブコーディネーター】

大澤苑美、小岩秀太郎、神前沙織、  
坂田雄平、中富勝裕、中西麻友、宮久保真紀



# 事業資料

公募ワークショップチラシ

徳島県郷土文化会館 あわぎんホール

A4 両面 (表4色、裏4色)

公募ワークショップ  
参加者募集!

ダンス未経験者も大歓迎!

こんてんぼたゆう  
はじめます!

コンテンポラリーダンス Selenographica + 義太夫 高遠友希

コンテンポラリーダンスとは?

義太夫とは?

ダンスとあわ文化の前代未聞の化学反応を体験しよう!

コンテンポラリーダンス+義太夫 公募ワークショップ

2017年9月18日(月・祝) 10時-12時

会場: あわぎんホール5階・小ホール 定額: 300円 (お茶のみは別)

TEL: 088-822-8121 FAX: 088-822-8123 Email: jgyo@kyobun.or.jp

申込締切: 9月11日(月)まで

申込人数: 10名程度(先着順)

阿波銀行

川根本町文化会館

A4 片面 (4色)

ココロが自由になれば、カラダも自由になれる。

国内外から注目されるコンテンポラリーダンサー・東野祥子が川根本町でワークショップを開催します。

東野祥子 Ryo Yano

ダンスワークショップ

2017.10.13(金)19:00開始 (21:00終了予定)

参加無料

会場: 川根本町文化会館 対象: 高校生以上 定員: 20名(先着順) ▼申し込みはお電話から▼

講師プロフィール 東野祥子 Ryo Yano

川根本町文化会館 TEL: 0547-59-3106 FAX: 0547-59-3293









- 今回の公演に参加して思ったこと**
- 1年生 **ながさき あまか** **長崎 天花** ダンスに参加して楽しかったです。
  - 4年生 **ひがしだに さいむ** **東谷 颯生夢** 踊りは難しくて大変でした。けど、がんばったので良かったです。
  - 4年生 **たむら ゆうの** **田村 悠乃** 暑初はどんなダンスなのかなと思っていましたが、赤丸急上昇さんに教えてもらい、やるよと楽しかったからまたこのダンス公演に参加したいです。
  - 4年生 **ふじわら ゆい** **藤原 由衣** 赤丸急上昇の人と一緒にダンスをやってみて踊ったり動いたり色々大変だったけど、協力や合わせて頑張る事ができました。皆さん楽しんで見てください。真にきてくれてありがとうございます。
  - 4年生 **ながさき まりも** **長崎 まりも** ダンスに参加して楽しかったし、夏の思い出になりました。
  - 5年生 **こまつ はると** **小松 日人** みんなと一緒に踊れて楽しかったです。
  - 6年生 **きたたい こうた** **北代 航太** 色々大変な事もあったけれどしっかりと教えてもらい、楽しく練習できて良かったです。本番も練習通り踊らずにがんばりたいです。
  - 5年生 **やまおか じゆん** **山岡 潤** 今までダンスの練習などは全然興味がなかったけど少しやってみると面白いなと思いました。
  - 5年生 **やまもと ちさと** **山本 千聖** 練習の時、楽しく学べたから踊りに入りやすかったです。改めて思った事は、ダンスなど色々な事を習得したら楽しいからいいなと思いました。機会があったら皆でまた参加したいです。
  - 5年生 **ひがしだに ゆう** **東谷 由里** 次の日に前編で足が痛かったけど、半ばの場で痛みながらも一生懸命頑張りました。ダンスは楽しいけれど足が痛くなる事もあるから足が痛くても我慢して練習を頑張りたいです。
  - 6年生 **たばな りょうた** **橋 遼太** 体の色んな所をたくさん使って良いなと思いました。また踊っていて楽しいので良いなと思いました。
  - 6年生 **ただだ あんの** **武田 杏乃** 男子と女子とで別れて練習していた時、前にした時よりもみんなと息を合わせることができました。他の人を笑わしりてダンスに集中できない時があるので気を付けたいと思いました。



**CONTEMPORARY DANCE!**  
赤丸急上昇 ダンス公演

**太陽と月と**  
**奇跡の**  
**子どもたち**

2017年  
**8月27日(日)**  
午後2時スタート  
(開場:午後1時30分)

土佐清水市立市民文化会館  
くろしおホール  
〒797-0323 土佐清水市番町11-1

**全席自由!**

主催:土佐清水市立市民文化会館 共催:第一幼稚園・土佐清水市教育委員会

**赤丸急上昇からのメッセージ**

中浜小学校の12人の仲間たち。  
受おれい。1人1人、ぜんぜん違う個性を表現して私たちを毎日驚かせてくれた。  
この子たちに出会わせてくれた、くろしおホールのスタッフ。  
ものすごい協力をお願いしたい、中浜小学校の校長先生はじめ、先生、PTA会長はじめ、保護者の皆様。  
この公演を形にして頂いた全てのスタッフの皆様へ感謝しています。本当にありがとうございます。

心の根っこには、いつも、この場所  
この作品を根っこに作り、約30年ぶりに自分の母校の小学校に届けてきた。  
外から、学校を眺めて「あー久しぶりだね」と嬉しがりおみ上げ、そのまま玄関に入ったら  
暑と変わらない夏の風を感じた。  
その時、なんとも温かい懐かしさと嬉しさがずっと身体をなでてくれた。  
このなんとも温かい懐かしさがまた僕らに届けてくれた。

中浜小学校のグラウンドにある、何年も何年も変わらぬタイヤの道具  
陸分と大きく伸びた中浜の草々。黒板、廊下、椅子、机。  
どこかである小学校の風景も思い出が。  
何も変わらない。そこにあり続ける物たちには、  
そこにかよった子どもたちの記憶が懐かしに湧く。  
かつて、子どもだった大人たちの記憶も同じように、今もそこに残っている。  
1つ1つ年をとって歩んで来た道は、少しづつ長くなっている。

イマココミライ  
ずっと昔から、変わらぬ思いで見守る校舎。  
どんなに時代が変わっても、前に来た大人が、誰れが、  
明治の戦艦も、大正のきりぎりすも、昭和の戦車と平和も、平成の朝日も、ずっと変わらずここにある。  
ここで育ち、ここから立ち、今を生きて。  
今ここに居るこの身体、今ここで起きている小さな出来事、今ここに居るこれが未来。  
これからココから、ココからココへ、ココに広がる生きている世界。

この作品は、中浜小学校の全ての卒業生と、愛する土佐清水に捧げたい。

**中浜小の生徒さんと関わって思ったこと**

奇想天外12人!  
全員違ってそれがいい!  
おもしろおかしい中浜の  
浜っ子魂ここにありっ!

あんなに視野が広くて繊細。ふんばり屋さん。  
りょうた:クレーン、ここぞという時に威力を発揮。  
はると:天性の頭のやわらかさ。懐かしも懐せ持つ。  
こうた:知的で繊細な感性を持つ。  
じゆん:面白い事に全力で真面目。それが魅力。  
ちさと:一番人の話を聞いている傾聴力があるナイスダンサー。  
ゆうあ:頼もしい。人想い。そして繊細であったかい。  
ゆいゆい:こっそり憂鬱。しっかりと色々な事を受け止める。頼もしく、賢い。  
さいむ:天然色抜群の愛されキャラ。且つ、パワフル。  
ゆうの:先見の明あり。状況把握力が高い。キラキラ光るセンスあり。  
まりも:感性が最も繊細で表現力に長けている。

あまか:甘えん坊だけど、やるべき時にはやる賢さをもつ。

**赤丸急上昇プロフィール**

**赤松美智代+丸山陽子**

笑いは力  
そう感じる二人が躍り出す  
笑いの空間は瞬間快。  
そしてなぜか涙まるのが  
赤丸急上昇のダンスの世界。



頂戴と、多謝のありなず舞踏される赤丸ワールド  
複雑怪奇な世の中だからこそソレソレに人の心に伝わるダンスを求めて活動中。  
山南の赤松美智代+海南の丸山陽子。二人あわせて「赤丸急上昇」活動拠点は、愛媛県。別居の二人は、  
性格も好きなものも真逆。そんな二人がソレソレながら絶妙な感覚で生み出す芸術は、風情、痛快、打撃がなぞか  
心宿る赤丸ワールド。一変変わらなくなっています。これまでに、DANCEFESTIVAL JET SET 9、在来舞日本国際  
舞臺、国際交際基金主催「踊り」に行く91 in 中国(北京・広州)Indonesia(Solo/Jakarta)等、国内外20都市以上  
で作品を上演してきた。別府現代芸術フェスティバル2017「温浴温泉世界」後部のアイトダンスアワードもお前をか  
らって出来、札幌コンクリートニエーション・神戸ダンスボックス「コンテンポラリーダンス」日本版2018年 三陸  
国際芸術祭出演等、人と交わるパフォーマンスをキラーに活動継続中。一般財団法人地域創造会公共ホールダンス  
活性化事業実行フェスティ。

**映像 長井雅浩(mavoxxx)プロフィール**



2002年よりELECTRIC SHOCKでVJ活動スタート。その後、音源(totodoko)を拠点とし、映像  
研究を続け、ミュージシャン・ダンサー・カメラマン・書道家など、多方面のアーティストと  
LABOを重ねる。2007年には長井映像研究所を設立。研究の幅を広げ、現在に至る。ダンス活  
の赤丸急上昇公演では、全ての公演に映像担当として携わり共に活動中。





今後の出演情報

2018年1月28日

新作「色の話、余白の色」@島根県民会館中ホール

振付・演出・出演：田畑真希

出演：カサヤマリコ・齋藤コン・新宅一半・中村理・・・他

2018年2月24日、25日

新作「つく・・・」@富山市民スラザ

振付・演出・出演：田畑真希

出演：カサヤマリコ・新宅一半・安岡あこ・・・他、富山市民ダンサーズ

その他、WS や今後の予定は、タバマ企画 HP (tabamaki.com)、または  
タバマ企画 Facebook ページにて随時更新します。

主催：〈公財〉北九州芸術文化振興財団 共催：北九州府、〈一財〉地産地消 協力：E' English School 北九州  
企画・製作：北九州芸術劇場 一公民ホール現代ダンス活性化事業一



田畑真希ダンス公演



2017.11.19. Sun

15:00 開演 (14:30 開場)

北九州芸術劇場 小劇場

本日はご来場いただきましてありがとうございます。

私ごとになりますが・・・北九州芸術劇場は、私にとって想いの深い特別な劇場です。

かれこれ十数年前に1ヶ月ほど小倉に滞在し、作品創りのお手伝いをしました。その後も北九州で面白い企画や舞台の情報を見ていて、いつか私もここで活動できたらいいな、とずっと夢見てきました。

やっと！この素晴らしい空間と、優秀なスタッフの方々のお力が集結して私の夢が実現します。

今回、7歳から69歳まで様々なバックグラウンドを持つ個性豊かな人たちが集まり、短いけれど濃密な時間を重ねて今日に挑みます。

不安、迷い、喜び・・・様々な感情を武器に巨大なエネルギーが巻き起こり16人で夢いハリケーンを起こすことができますように。

舞台上起こっていることは模造品なんかではなく、生身のリアルな現象です。一期一会のこの時間を、全身で体感していただけると幸いです。

全ての意味を投げ捨てて、もっともっとモミクチャに・・・もっともっとデタラメに・・・

2017年11月19日

田畑真希



田畑真希 Tabata Maki

タバマ企画主宰。3歳からクラシックバレエを始める。更なる表現を追求するため短期大学演劇科に入学。様々なジャンルの身体表現を学ぶ。

2007年より自身の作品を創り始める。段階をたどるにガムシャラに、ユーモアを振りまきながら丁寧に時間を紡ぐ作風には定評があり、国内外で精力的に活動中。7カ国18都市にて作品を上演し好評を得る。近年は様々な世代を対象としたワークショップを展開し、性別、年齢、経験などの差を超えて、誰もが楽しみながら出来る身体表現の促進を目指す。



田畑真希ダンス公演

Mockup Hurricane

振付・演出

田畑真希 (タバマ企画)

出演

カサヤマリコ 中村理 田畑真希

市民参加

荒巻百合、岩永桜子、岸上美貴、岸上寛治、坂田久枝

佐々木真奈実、佐藤妃那、サスコタ・ナラエニ

鉄田えみ、堀井隆司、吉木心愛、吉木華琳 (50音順)

音楽 (尺八)

スミス呂山

ローアン・スミス/オーストラリア、メルボルン出身。  
1998年に福岡県北九州に来北。英語講師に。尺八を習い始めて20年。番山流尺八師範。  
<https://m.facebook.com/eenglishita/>

STAFF

照明：芳田稔希\* 音響：元島亮馬\* 衣裳：内山ナオミ (工房MOMO)

照明操作：磯部友紀子\* 舞台：緒方一典\* 舞台監督：山本祥太郎\*

広報：一田真澄\* 票务：中村智子\* 制作：山中直子\*、一田佳栄子\*

(\* 北九州芸術劇場スタッフ)

## 西宮市フレンテホール

### A4 二つ折り

#### ～ ANTIBODIES Collective ～

メンバー

演出・振付・出演 / 東野祥子

演出・音楽 / カジワラトシオ

映像 / 斉藤洋平

出演 / ケンジルビエン 吉川千恵

マツキモエ 菊池航 池端美紀 川瀬亜衣

#### LOCAL CAST

～ワークショップ参加出演者～  
(五十音順)

荒木千尋 一圓徳夫 一色かや

一色野衛 伊藤有美 井上蘭加

入沢由芽 上野舞子 太田紀子

尾崎文香 尾崎貴子 尾崎倫子

河原由美子 久保田恵利 桑原優子

坂田なごみ 貞森裕児 佐藤翠

豊田幸希 中西里奈 中根千枝

中松由 中山育子 西川たから

平井沙季 藤原千里 前田瑞穂

南加絵 毛利美友 諸田岳

山下爽香 力身茶利子 渡部桃子

.....

#### STAFF

～スタッフ～

照明 / 長谷美智子 (P. A. F)

舞台 / 今里吉伸 (トッププロデュース)

主催 / 公益財団法人西宮市文化振興財団・西宮都市管理 (株)

共催 / 一般財団法人地域創造・西宮市

Frente Dance Jewels # 9

YOKO HIGASHINO

ANTIBODIES Collective

## CHRONOPHOBIA

2017.11.26 SUN

Frente hall Nishinomiya

15:00 START 14:30 OPEN

## CHRONOPHOBIA

クロノフォビア

歪んだ時間に産まれる輪とその関係  
無垢な時間と無情な時間

この度はご来場ありがとうございます。

初めてあったこの33名のみならず、ANTIBODIESメンバーと共に、たった6日間の短い日程でしたが濃密な時間を過ごし、この作品が生まれました。3歳から69歳までのたくさんの人生がここにあります。この時間を共有し、一つの目的に向かって作品作りを行えたことは、私にとっても素晴らしい学びの時間でした。

世界にはいろんな出来事が起こっています。先入期にとらわれず、いつもと違った価値観や感覚を見つけてください。境界を超えていくことを恐れず、どうぞゆったりとご堪能ください。

また、作品制作やワークショップなどの実現のため、たくさんの関係者の方、メンバーや劇場スタッフ、協力して下さった方々に心よりお礼申し上げます。

ANTIBODIES Collective  
東野祥子

## PROFILE

～プロフィール～

### 東野祥子

振付家・ダンサー。10歳からダンスを始める。  
2000年～2014年「Dance Company BABY Q」を主宰。  
2015年、京都に活動拠点を移し、「ANTIBODIES Collective」を結成。  
多ジャンルのアーティストとともに舞台作品制作やパフォーマンス実践。  
国内外の劇場やフェスティバルに招聘され高く評価されている他、ダンスにおける教育や地域活性化などにも積極的に取り組む。  
トヨタコレオグラフィアワード、横浜ソロ・デュオ (Competition) など受賞歴多数。

### ANTIBODIES Collective

芸術と生活、記憶と歴史、そして個人と社会の新しい関係性を探求する様々な分野のスペシャリストたちの集合体として、音楽家・演出家のカジワラトシオと舞踏家・振付家の東野祥子によって2015年に結成される。  
同年、京都立禅小学校金庫で「自由回廊型」と名付けた独自の演出方法による作品「DUGONG」の上演を敢行、それ以降も国内外における舞台作品の上演や、ワークショップといった活動を続けている。様々な経験や視界がダイナミックに繋がり合うコラボレーションの形態を築き上げていくための環境を創り出し、そこに蓄積された体験をパフォーマンス・イベントの主眼、コミュニティ・ワークショップやアウトリーチといった行為へ結びつけていくことで、舞台芸術やパフォーマンス・アートに関わる様々な人材とその教習を市民社会や教育、福祉の現場へと接続していくことを掲げている。



## 甲斐市双葉ふれあい館

### A4 二つ折り

#### ●●●一般参加出演者より●●●

ダンス未経験、まったくの初心者ばかりです。ダンスとは無縁の日常生活を送っている中、今回、身体表現ダンスにチャレンジしてみました。初めはごちなかつたのですが、稽古を重ねるうちに徐々に身体が伸び、動きが大きくなり、自分の中にこんなエネルギーがあったのかと驚いています。ちょっとしたひとつひとつの動きが積み重なり作品となりました。どうぞ温かく、気持ちを一緒に私達のダンスをお楽しみください。

#### ●●●双葉ふれあい文化館より●●●

本日はご来場ありがとうございます。今はインターネットで様々な動画を手軽に観ることができますが、会場に足を運び、生で芸術を鑑賞することの素晴らしさを知っていただきたいと、様々な企画をしております。今回はコンテンポラリーダンスをお楽しみいただけます。ステージ上に客席を設け、まるで自分もアーティストの世界に迷い込んだような感覚の中、五感が共鳴する、そんな魔法のような不思議なダンス公演です。皆様も心を開いて身体表現の楽しさを感じてみてください。

【セレノグラフィカダンス公演】

## ダンス風林火山！ ～踊ること魔法の如し～

2018.2.4 (SUN)

【STAFF】舞台監督：平沢元彦、照明：中西すみえ、音響：佐々木康仁  
【主催】甲斐市双葉ふれあい文化館/甲斐市教育委員会/（公財）やまなし文化学習協会  
【共催】（一財）地域創造

@甲斐市双葉ふれあい文化館

#### ●●●上演作品●●●

### 1 『エテルノ～eterno～』

振付・構成・演出：隅地菜歩  
技術演出：岩村原太  
出演：セレノグラフィカ  
初演：2016年5月@サントミュージゼ大ホール  
(上田市交流文化芸術センター)

2016年、上田市にて初演したセレノグラフィカの近作です。デュエットの原点に立ち返り、関係の永続性をテーマに、男女の踊り手の身体性の差異と共通性に着目する作品の後半10分をご覧ください。

### 3 『ひれ あし ラフソフィー 『鱧と脚の狂騒曲～抜粋版～』』

振付・構成・演出：隅地菜歩  
技術演出：岩村原太  
出演：セレノグラフィカ、武井 琴  
初演：2012年@京都芸術センター講堂

2012年、京都市にて初演。セレノグラフィカの15周年記念作品から、いくつかのシーンを抜粋してお届けします。音楽と身体の動きが、まるでパズルのように組み合わせられ、やがてひとつの謎解きがされるようにラストシーンへとつながります。

### 2 市民参加作品『あなたと渡れば虹の橋』

振付・構成・演出：セレノグラフィカ  
照明プラン：岩村原太  
出演：石山ちひろ、金 亮子、小林明美、佐藤厚子、武井 侑子、長澤和子  
池内 健、業林礼也、望月友裕、長田 藍・中川翔太・藤森竜司・依田 新(農林高校郷土芸能部)

1人でも橋を渡ることはできます。でも誰かと2人なら、もっと楽しく渡れるような気がしませんか？ 誰かと一緒に渡れる風景。誰かと一緒に感じる風、吸い込む匂い。そんな豊かさはダンスそのものです。今回ワークショップにお集まりくださった皆さんだからこそその身体の動きや表情が、こんな作品を生み出しました。「あなたと渡れば虹の橋」。いよいよ本番を迎えます！

公演までの流れ

- 1/26(金)…公衆ワークショップ
- 1/27(土)…稽古
- 1/28(日)…稽古
- 2/1(木)…稽古
- 2/2(金)…稽古
- 2/3(土)…リハーサル
- 2/4(日)…本番公演

#### ●●●セレノグラフィカ(隅地菜歩・阿比留修一)●●●

本日はご来場ありがとうございます。ここ甲斐市に滞在して、10日目になりました。双葉ふれあい文化館の方々に毎日温かく迎えて頂きながら、公演の準備は充実のうちに進みました。この町にお住いのワークショップ参加者の皆さんは、はにかみと飛び込みが同居するとモスベシャルな方たちです。世代もお仕事も日々の環境も超えて、笑い合い、知恵を寄せ、けっこう汗もかく、そんな時間を重ねてひとつの作品が仕上がりました。初めてのことに取り組んで、本番までやってみようという決断にはどれほどの勇気が必要だったことでしょうか。いつもとちょっと違うわたし、いつもとちょっと違うあの人。それが、わたしや誰かを確かに幸せにすることをどこかで知ってくださっているのだと思います。そしてその幸せは、作品を見てくださる皆さんのところへ届こうとしています。滞りしていた部屋の窓からは、この町を包み込んでいる山の峰々が見えました。休日には富士山にもご挨拶に出かけました。心の底まで晴れやかになるこの風景をずっと吸い込んでおられる身体のそばで過ごしたかけがえのない体験を、私たちも大切に参ります。最後になりましたが、今回のこの公演に関わってくれたすべての皆さんに心からお礼を申し上げます。

その他、アーティストプロフィール&ワークショップ風景 (A4 両面) を挟み込み



## 1 趣旨

一般財団法人地域創造（以下「地域創造」という。）は、公共ホールの活性化とコンテンポラリーダンスによる創造的で文化的な芸術活動のための環境づくりに寄与し、あわせて公共ホールスタッフ等の企画・制作能力の向上と創造性豊かな地域づくりに資することを目的として、地方公共団体等との共催により、公共ホールを拠点としてコンテンポラリーダンスの公演事業又は地域交流プログラムを実施する。

## 2 対象団体

- (1) 地方公共団体
- (2) 地方自治法第 244 条の 2 第 3 項の規定に基づき指定管理者として指定を受け、公の施設の管理を行う法人その他の団体
- (3) 地域における文化・芸術活動の振興に資することを目的として設置された、公益財団法人等（(2)を除く）のうち、地方公共団体が資本金、基本金その他これに準ずるものを出資している法人で地域創造が特に認めるもの。

## 3 実施団体の決定

地域創造は、上記団体から提出された事業申込書等をもとに審査し、実施団体を決定の上、当該団体に対して速やかに通知する。

決定に当たっては、当該事業を実施したことがない団体を優先するが、過去に当該事業を実施した団体であっても、市町村合併の有無、公共ホールの管理者の変更、当該事業についてのスタッフの習熟度等の事情を考慮して、予算の範囲内で決定する。

## 4 事業内容

実施団体は、以下のいずれかのプログラムを実施する。

なお、実施するプログラムは、今後のダンス事業を実施するためのビジョン（※）に基づいて選択することとし、事業実施の翌年度以降に他のプログラムを継続して実施することができるものとする。

※ビジョンとは、別記様式 1-2 の「事業実施後の事業展開・ビジョン等」のことをいう。

### (1) Aプログラム（地域交流プログラム）

原則として、4 日間の連続した事業日程で、学校や福祉施設等でのアウトリーチ、公募型のワークショップを 4～5 回実施する。

ただし、アウトリーチは 3 回、公募型ワークショップは 1 回実施する。

なお、原則として、事業の実施に向けて、コーディネーター等による現地における個別研修（現地下見）を 1 泊 2 日以内で 1 回実施する。

派遣するアーティストは、別紙 1 の登録アーティストの中から、地域創造が決定する。

### (2) Bプログラム（市民参加作品創作プログラム）

原則として、連続する 4 日間×1 回及び連続する 5 日間×1 回の事業日程で市民参加作品を創作し上演（1 回）する。

---

また、公募型ワークショップを1回実施する。

公演は有料とし、入場料収入は実施団体に帰属するものとする。

なお、事業の実施に向けて、登録アーティスト、コーディネーター等による個別研修（現地下見）を1泊2日以内で1回実施する。

派遣するアーティストは、別紙1の登録アーティストの中から、実施団体の希望を勘案の上、地域創造が決定する。

### (3) Cプログラム（公演プログラム）

原則として、4日間の連続した事業日程で公募型ワークショップ（1回）及びコンテンポラリーダンスの公演（レパートリー作品/1回）を実施する。

公演は有料とし、入場料収入は実施団体に帰属するものとする。

なお、事業の実施に向けて、登録アーティスト、コーディネーター等による個別研修（現地下見）を1泊2日以内で1回実施する。

派遣するアーティストは、別紙1の登録アーティストの中から、実施団体の希望を勘案の上、地域創造が決定する。

## 5 経費負担

事業実施に伴う下記の経費については、地域創造が負担する。下記以外の経費及び実施団体が前項に定める内容を超えて事業を行った場合に発生した経費については、実施団体の負担とする。

### (1) 登録アーティスト等派遣経費

#### ① Aプログラム

登録アーティスト及びアシスタント（ソロの場合は1名まで）の謝金、交通費（現地移動費を除く。）、宿泊費、日当、派遣対象者に係る損害保険料

#### ② Bプログラム

登録アーティスト及びクリエーションのためのアシスタント（共演者）（ソロの場合2名まで、デュオの場合1名まで）の出演料等、テクニカルスタッフ等（※）の謝金、交通費（現地移動費を除く。）、宿泊費、日当、派遣対象者に係る損害保険料

#### ③ Cプログラム

登録アーティスト及び共演者（ソロの場合2名まで、デュオの場合1名まで）の出演料等、テクニカルスタッフ等（※）の謝金、交通費（現地移動費を除く。）、宿泊費、日当、派遣対象者に係る損害保険料

※テクニカルスタッフ等は、公演準備のサポート役として必要と判断されるテクニカルスタッフ、演出助手、制作者及びその他地域創造が認めた者で、個別研修（現地下見）及び実施時に派遣する。

### (2) 公演負担金

Bプログラム及びCプログラムについては、実施団体が支出した事業実施に係る経費のうち、別紙2対象経費の2/3以内で、50万円を上限に実施団体に対して負担する。

---

## 6 事業実施に対する支援

### (1) 全体研修会の開催

地域創造は、事業実施前に実施団体を対象として、事業の実施に必要な実践的ノウハウ等についての研修会を開催する。

なお、参加に係る旅費等は実施団体の負担とする。

### (2) コーディネーターの派遣

地域創造は、実施団体に実践的なノウハウを習得する機会を提供するとともに、事業の円滑な運営を図るために、企画制作の経験が豊富なコーディネーターを派遣する。

コーディネーターの派遣は、原則として、個別研修（現地下見）及び実施時に行う。

## 7 提出書類等

### (1) 事業申込書 …別記様式 1-1、1-2、1-3（1-3はBプログラム及びCプログラムのみ）

平成 29 年度に本事業の実施を希望する対象団体は、「事業申込みにあたっての留意事項」を参照のうえ、必要書類を添えて、平成 28 年 6 月 3 日（金）までに当該書類を提出すること（地域創造必着）。

なお、2(2)及び(3)に該当する団体が申請をする場合には、施設設置者または出資者である地方公共団体の長の副申を受けること（別記様式 1-4）。

### (2) 事業実施計画案 …別記様式 2-1、2-2

全体研修会の終了後、地域創造の指定する日までに当該書類を提出すること。

### (3) 事業実施計画書 …別記様式 3-1、3-2、3-3（3-3はBプログラム及びCプログラムのみ）

事業実施 2 か月前までに企画内容を決定し、当該書類を提出すること。

### (4) 事業実績報告書 …別記様式 4-1、4-2、4-3（4-3はBプログラム及びCプログラムのみ）

事業終了後 30 日以内に、事業実施にあたり制作したチラシ、パンフレット等を添えて当該書類を提出すること。

ただし、平成 30 年 3 月 16 日（金）以降に事業が終了する場合にあっては、平成 30 年 4 月 16 日（月）までに提出すること。

### (5) 公演負担金請求書 …別記様式 4-4（Bプログラム及びCプログラムのみ）

該当する経費がある場合は、事業終了後 30 日以内に、別途指定する関係書類を添えて提出すること。

ただし、平成 30 年 3 月 16 日（金）以降に事業が終了する場合にあっては、平成 30 年 4 月 16 日（月）までに提出すること。

### (6) 変更承認申請書 …別記様式 5-1、5-2

実施団体の決定通知を受けた後に申請内容に重大な変更が生じた場合は、ただちに当該書類を提出すること。

---

なお、変更内容によっては事業の要件を満たさなくなり、共催できない場合がある。

## 8 その他

### (1) 共催に関する表示

実施団体は、事業実施に際して作成される印刷物に、地域創造が共催している旨を表示すること。

(表示例) 共催：一般財団法人地域創造、共催：(一財)地域創造

### (2) 損害賠償の免責

事業実施に伴い発生した損害賠償等の責任について、地域創造は責めを負わないものとする。

### (3) 関係書類の提出

地域創造は、この要綱に定めのある書類のほか、実施団体の決定等の審査に当たって必要な書類の提出を求めることができる。

### (4) 情報提供

地域創造が、全国の地方公共団体に対して行う事業に関する情報提供等のため、資料提供を求めた場合や現地調査を行う場合は、実施団体は協力するものとする。

### (5) その他

事務手続き及びスケジュール等その他細目について必要がある場合は別途定める。

また、その他事業の実施に関し、疑義が生じたときには、地域創造と実施団体が協議して決定する。

## 登録アーティスト

平成 29 年度 登録アーティスト（計 6 組）

鈴木ユキオ、田畑真希、田村一行、東野祥子、赤丸急上昇（赤松美智代＋丸山陽子）、  
セレノグラフィカ（隅地茉歩＋阿比留修一）

## 参考

## 事業の流れ・手続き等

## ●平成 28 年度（事業実施前年度）

時期（予定）	内 容	提出書類
4 月～6 月上旬	申込み受付（6 月 3 日（金）締切）	事業申込書
7 月上旬	事業内定通知	
8 月 1 日～3 日	全体研修会（アーティストプレゼンテーション）の開催 （開催場所：東京芸術劇場）	
8 月中旬	事業実施計画案の提出	事業実施計画案
9 月下旬	派遣アーティスト、担当コーディネーターの決定・通知	

## ●平成 29 年度（事業実施年度）

時期（予定）	内 容	提出書類
4 月上旬	事業決定通知	
4 月～	現地下見（個別研修）の実施	
事業実施 2 か月前	・事業内容の確定、事業実施計画書の提出 ・主催団体、派遣アーティスト、地域創造の三者で契約の締結	事業実施計画書
事業終了後 30 日以内	実績報告、負担金の請求	事業実績報告書 公演負担金請求書 （Bプログラム及び Cプログラムのみ）

## 公演負担金対象経費(対象経費の 2/3 以内で上限 50 万円)

※Bプログラム及びCプログラムのみ対象

## 1 対象経費

文芸費	現地舞台監督料、現地における照明・音響プラン料、調律料、著作権使用料など
設営・舞台費	現地舞台仕込等人件費、現地照明・音響等オペレーター人件費、照明・音響等機材費、舞台設営費、リノリウム借上料、市民参加作品に関わる経費（衣裳費、舞台美術費、メイク費、小道具費、運搬費など）など
会場費	会場借上料
謝金・旅費・通信費	地元出演者等謝金、会場整理等賃金、地元出演者等交通費・宿泊費・日当費、通信費など
宣伝・印刷費	広告宣伝費、チラシ・ポスター・プログラム・チケット製作費、チケット販売手数料など
記録費	録画費、写真費、記録映像作成費ほか
消耗品費	事業に係る消耗品費
保険料	ワークショップ参加者等保険料ほか

※対象経費としての判断が困難な項目等は、関係者間で協議し決定する。

## 2 対象外経費

- ① 事業実施団体以外の者が支出した経費
- ② 事業実施団体及び申請者が請求者となっている経費（例：利用料金（地方自治法第 244 条の 2 第 8 項の規定によるもの）を収受する指定管理者が自ら当該施設を使用して事業を実施した場合に、自身に支払う形となる利用料金等）
- ③ 地域創造負担を超えるアシスタント・共演者等に係る経費
- ④ 打ち上げ費、その他飲食関係費（ケータリングを含む）
- ⑤ 手土産代、記念品代、出演者等への花束代等物品による謝礼費用
- ⑥ 事務局経常費（事務所維持費、職員給与等）
- ⑦ その他、対象経費として適当でないと地域創造が判断したもの

### コーディネーター

#### ●佐東 範一(プロデューサー、NPO 法人 JCDN 代表)

1980年舞踏グループ「白虎社」の創立に参加。以後1994年の解散までの国内公演、海外ツアーにて舞踏手兼制作者として活動。1996年アメリカ・ニューヨーク、ダンス・シアター・ワークショップにて1年間のアートマネジメント研修。1998年から3年間の準備期間を経て、2001年NPO法人JCDNを京都にて設立。ネットワーク型NPOとして、「踊りに行くぜ!!」I・II開催、「コミュニティダンス」の普及、国際ダンス・イン・レジデンスの推進、2011年以降復興支援として「習いに行くぜ!東北へ!!」「三陸国際芸術祭」など、日本全国にて社会とダンスをつなぐ様々な活動を行っている。

#### ●志賀 玲子(プロデューサー)

2005～2009年度大阪大学コミュニケーションデザイン・センター特任教授。1990～2008年兵庫県伊丹市立演劇ホール(アイホール)プロデューサー。2000～2007年びわ湖ホール夏のフェスティバルプログラムディレクター。2003～2006年京都造形芸術大学舞台芸術研究センタープロデューサー。他、一般財団法人地域創造「公共ホール現代ダンス活性化事業」コーディネーター、岩下徹制作、等。2005年6月より、神経難病ALS発病の友人の支援を開始。現在、京都/西陣で織屋建の町家を改造しダンスの稽古場を併設した空間で、24時間他人介護による独居生活<ALS-Dプロジェクト>をコーディネート。介護福祉士。

#### ●菊丸喜美子(プロデューサー)

アートマネジメント、文化政策全般に関する講座の企画・運営のほか、国内外のコンテンポラリーダンスの企画制作に早期から携わる。フォーサイスカンパニーを初めとする海外アーティストの招聘、国内アーティストのプロデュースを手がける一方、地域の公共ホールとアーティストを結ぶ活動にも積極的に取り組み、地域滞在型(アーティスト・イン・レジデンス)のワークショップと公演、市民参加型の事業にも多数の実績を持つ。また、演劇、音楽、美術をはじめとするジャンルを超えた芸術・文化活動全般にも意欲的に取り組んでいる。1991年～2017年(株)CAN代表取締役。独立行政法人日本芸術文化振興会プログラムオフィサー(舞踊)

#### ●花光 潤子(パフォーミングアーツプロデューサー、NPO 法人魁文舎代表)

演劇・ダンス・ビデオアート・現代音楽などの現代芸術から伝統芸能まで、ジャンルを越えた実験的な舞台芸術作品を多数企画プロデュースする。海外との芸術交流も多く、1984年エジンバラ演劇祭招待参加を皮切りに日本人アーティストの外国公演のオーガナイズや外国のカンパニーの招聘公演、国際共同制作などを手がける。アジア女性演劇会議、日韓友好記念舞踏フェスティバル等の事務局長を歴任。1990～1992年オルタナティブスペース「246CLUB」の海外部門ディレクター、1992～1997年まで藤沢市湘南台市民シアターで芸術監督太田省吾氏の下、自主事業の企画制作に従事。その経験を活かし、地方都市の文化行政や施設運営に関する芸術環境整備の提言、調査研究などの仕事にも携わる。1996年から10年間大阪のIMI大学院スクールにてアートマネジメントの人材育成に務め、現在多くの卒業生が全国各地の文化施設で活躍している。

#### ●平岡久美(Dance in Deed! 代表)

主にコンテンポラリーダンスの制作として、黒沢美香、川村美紀子をはじめ多くのアーティストの公演やワークショップの開催に携わるほか、トヨタコレオグラフィアワード、青山劇場・青山円形劇場(こどもの城)等の制作に参加。2003年「フランスダンス2003」事務局次長、2009・2012年「ダンストリエンナーレトキョー」プロデューサー、2014年～「Dance New Air-ダンスの明日」プロデューサーを務め、ダンスフェスティバルの企画・運営も行う。近年は、篠原聖一、下村由理恵、キミホ・ハルバートなどバレエ公演の制作も手がけている。

#### ●清水幸代(LANDSCAPE 代表)

京都出身。2001年日本女子体育大学(体育学科/芸術スポーツコース)卒業。慶應義塾大学アート・センター主催「アート・マネジメント・エキスパート・セミナー」修了。文化庁インターンシップ国内研修員として、新国立劇場、日本芸能実演家団体協議会などで研修。トヨタ自動車株式会社主催「トヨタコレオグラフィアワード」の立上げ及び事務局運営に携わる。2004年よりせたがや文化財団・世田谷パブリックシアターに勤務。企画・制作スタッフとして公演事業、教育普及事業、フェスティバル運営、人材育成事業、アーティスト支援などに多数携わる。2014年より京都に移住し、街や劇場・大学など既存の空間や組織と協働しながら、様々な事業を企画・運営。文化芸術振興と創造環境のデザインをテーマに活動を行う。2017年より文化芸術創造拠点・京都プロジェクト実行委員会準備会委員。

●大澤苑美(八戸市まちづくり文化推進室 主事兼学芸員)

1983年名古屋市生まれ。東京藝術大学大学院修了。2004～2006年取手アートプロジェクト(茨城県取手市)運営スタッフ。2008年から(一財)地域創造に勤務し「公共ホール現代ダンス活性化事業(ダン活)」を担当。2011年4月より現職。コンテンポラリーダンスを軸に、地域の資源や人を巻き込んで行う「南郷アートプロジェクト」、八戸の工場とアートを組み合わせて魅力の発信をする「八戸工場大学」などのアートプロジェクトの企画運営を担当するほか、八戸市新美術館準備など八戸市の文化行政に携わる。

●小岩秀太郎(東京鹿踊代表/縦系横系合同会社代表)

1977年岩手県一関市生まれ。小学校から郷土芸能「鹿(シシ)踊」を始める。関東の大学で外国語文化を学び、台湾での留学を経て、自らとそれを形作る文化について考えるようになる。帰国後、郷土芸能のネットワーク組織(公社)全日本郷土芸能協会に入職、芸能の魅力発信や支援、コーディネートに携わる。また、東京鹿踊ならびに縦系横系合同会社を組織し、風土とその暮らしの中で受け継がれてきた地域文化(芸能、祭り、技、食など)の継承と発展、関わり方の入口をデザインする企画提案を行っている。(公社)全日本郷土芸能協会事務局次長(東京都)、縦系横系合同会社代表(宮城県仙台市)、東京鹿踊代表、行山流舞川鹿子躍保存会員(岩手県一関市)。

●神前 沙織(NPO 法人 JCDN 教育・福祉・地域交流プログラム チーフ・コーディネーター)

2005年よりJCDNにて「踊りに行くぜ!!」等のプロダクション・マネージメントに関わる。2009年以降、子供から大人まであらゆる人を対象とした「コミュニティダンス」の普及に関わり、これまでに地域の文化財団・公共ホール、民間団体と連携し多数のコミュニティダンス公演をコーディネートする。他に、小中学校、高齢者や児童福祉施設へのアーティスト派遣コーディネートなど。2014年、ダンスによる子供育成を通じた地域力創造プログラム「こちかぜキッズダンス」をスタート。ダンスの持つ可能性をコミュニティ形成や課題解決等に活かしていくと同時に、だれもが芸術文化にアクセスする機会を増やしていく事をめざして活動中。

●坂田 雄平(アーツコーディネーター・プロデューサー)

NPO 法人いわてアートサポートセンタープロデューサー・岩手県文化芸術コーディネーター(沿岸地域担当)、酒田市アートコーディネーター、スタヂオタンガプロジェクトデザイナー等を務める。2003年より桜美林大学舞台芸術研究所のチーフを務め附属劇場ブルススホールの立ち上げ・事業企画を行う。2007年より財団法人地域創造で芸術環境専門職を務め、2012年より2017年まで、北九州芸術劇場にて舞台芸術フェスティバル、文化施設間連携による舞台作品製作及び行政領域横断型プロジェクトの企画等を行う。

●中富 勝裕((公財)横浜市芸術文化振興財団 横浜赤レンガ倉庫1号館 プロデューサー)

2006年より横浜赤レンガ倉庫1号館にて、国際的なダンスフェスティバル「横浜ダンスコレクション」を始め、海外との共同制作や数々のダンス公演を担当。アーティストの育成、発信や活動場所拡充のため、国内外の劇場やフェスティバル等のネットワーク構築、連携に力を入れている。また舞台芸術の新たな観客創造を目指し、地域・企業と劇場をつなぐ事業を手がけている。Seoul Choreography Contest 審査員(2010年韓国)、WIFI Body Festival New Choreographers Competition 審査員(2014年フィリピン)も務めた。

●中西 麻友(NPO 法人芸術家と子どもたち コーディネーター)

1980年大阪生まれ。成安造形大学デザイン科写真クラス卒業。2006～08年大阪市内の小学校に教諭として勤務。その後1年半のイギリス留学を経て、2010年3月より「NPO 法人芸術家と子どもたち」に勤務。ワークショップ・コーディネーターとして、学校(特別支援学級含む)や幼稚園、保育園、児童養護施設、障害児入所施設等での事業を担当。

●宮久保真紀(Dance New Air チーフプロデューサー)

1997年～2015年、青山の文化複合施設スパイラル(株式会社ワコールアートセンター)に勤務。パフォーマンスアーツを担当する他、スパイラル内外の現代美術の展覧会やイベント企画に携わる。Dance New Airには前身のダンスビエンナーレトーキョー(2009年よりダンストリエンナーレトーキョー)に2004年から参加。2015年8月よりDance New Airの企画運営を主目的とした一般社団法人Dance Nippon Associates代表理事。

平成 29 年度公共ホール現代ダンス活性化事業報告書

発行／一般財団法人地域創造

〒107-0052 東京都港区赤坂 2-9-11 オリックス赤坂 2 丁目ビル 9 階

Tel.03-5573-4055、4077 Fax.03-5573-4060

発行日／平成 30 年 6 月

